

317  
901

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

始





日本圖書選定圖書目錄  
館協會  
合冊



317-80x



日本圖書協會

選定圖書目錄

合冊

7. 3. 15



## 凡 例

一、本目錄ハ大正三年二月以降發行ノ日本圖書館協會選定新刊圖書目錄第一卷乃至第三卷ヲ合冊整理シタルモノニシテ、大正三年二月以後大正六年一月以前ノ刊行ニカ、ル通俗良書約四千部ヲ收載ス。

一、本目錄編纂ノ趣旨ハ、普通圖書館、學校、教育會、讀書家等ノ爲ニ、新刊圖書ノ選擇購入並ニ分類及目錄編纂ノ參考ニ資セントスルニアリ。而シテ近來圖書館ノ勃興ニツレ前陳ノ參考上月刊本目錄初卷ヨリノ取揃ヘ、又ハ合冊ヲ希望スル者甚カラズ、茲ニ此等ノ希望ニ應ゼンガ爲新ニ本合冊整理目錄ヲ刊行セリ。

一、何レノ圖書館ニアリテモ其館ノ新着圖書目錄ヲ敏速ニ刊行追加スルコトハ容易ノコトニアラズ。故ニ圖書館ニヨリテハ直ニ本目錄ヲ其館ノ最近年新刊印刷目錄ニ代用シ、其館ノ圖書番號ヲ本目錄每頁底部番號欄ニ填記セバ檢索上極メテ便利ナルベシ。

一、本目錄分類様式ニ就キテハ、初標準分類ヲ新定シ之ニヨリテ此整理目錄ヲ分タントノ計畫ナリシモ、本目錄ハ大正三年以降僅ニ三年間ノ新刊書目ニシテ、各項



目ニ分タルベキ類似圖書ノ量多寡同ジカラズ彼此甚シク權衡ヲ失スルアルヲ以テ假令今標準分類ヲ新定シ細項目ヲ分ツトモ此等項目ヲ獨立セシムルニ足ル數量ヲ得ル能ハズ爲ニ標準分類ノ作成ハ遺憾ナガラ之ヲ圖書冊數増加ノ曉ニ譲リ今ハ本邦圖書館ニ於テ普通行ハル、分類法ニ、輒近諸學ノ進歩ニ伴フ分科ノ改廢等ニ關スル多少ノ訂正ヲ加ヘ、獨立項目ヲ立シ得ザルモノニ就キテハ比較的關係多キ項目ノ次ニ集録シ、各類中所々小圈〇ヲ狹ミテ細別ヲナシタリ。

一、本目錄ニ選擇收載スル所ノモノハ毎月新刊圖書中ノ記事正確思想健全ナリト認メタルモノ、ミナリ。而シテ此等ノ圖書ハ自ラ其程度ヲ異ニセルニヨリ、一定ノ符號ヲ以テ其程度ヲ示セリ。即チ

× 印ハ卑近ナルモノ、△ 印ハ専門的ノモノ、其他ハ普通ノモノナルコトヲ示ス。

又本目錄記載ノ圖書ノ大サハ左ノ標準ニヨル。

大……四六二倍以上、中……菊判、中ノ小……四六判、小……菊判半截以下。

一、本目錄圖書名ノ排列ハ五十音發音順ニヨル。

一、卷尾ニ附セル著者本名雅號一覽表ハ、主トシテ本目錄中ニ現レタルモノナルモ、多クハ現代人ニ關スルヲ以テ、目錄編纂上多少ノ參考トナルベシ。

日本圖書館協會選定圖書目錄目次

<b>第一 一般書類</b> ……………一		<b>第三 哲學</b> ……………二八	
い 事彙 類書……………一	に 基督教其他……………二五	い 總記……………二八	い 總記……………二八
ろ 叢書……………一	ろ 雜書……………三四	ろ 雜書……………二八	ろ 雜書……………二八
は 書目……………三	は 史傳……………三七	ろ 雜書……………二八	ろ 雜書……………二八
に 隨筆……………三	に 論理……………三八	ろ 雜書……………二八	ろ 雜書……………二八
ほ 雜書……………六	ほ 心理……………三九	ろ 雜書……………二八	ろ 雜書……………二八
へ 新聞……………六	へ 倫理……………四二	ろ 雜書……………二八	ろ 雜書……………二八
<b>第二 宗教</b> ……………七		へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
い 總記 雜書……………七	一 總記……………四二	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
ろ 神道……………九	二 雜書……………四五	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
は 佛教……………一	三 教訓 女訓……………四六	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
一 總記……………一	四 武士道……………四五	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
二 雜書……………一	五 修養……………五六	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
三 史傳……………一	六 事蹟……………六三	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
四 經典……………一	七 禮法……………六四	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
五 宗派……………一	と 東洋哲學附術數……………六五	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
イ 禪宗……………一七	と 東洋哲學附術數……………六五	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
ロ 日蓮宗……………二三	と 東洋哲學附術數……………六五	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二
ハ 眞宗其他……………二四	と 東洋哲學附術數……………六五	へ 倫理……………四二	へ 倫理……………四二



い	總記	六七
ろ	雜書	七〇
は	史傳	七二
に	兒童研究	七三
ほ	教育行政及法規	七四
へ	學校案内	七五
と	試驗	七六
ち	海外教育事情	七八
り	教授 訓練	七八
ぬ	家庭教育	八五
る	初等教育	八六
を	女子教育	八六
わ	學校訓話附運動會 學藝會	八七
か	國民教育	八八
よ	少年團 青年團	八九
た	圖書館 讀書法	九〇
第五	文學	九〇
い	總記	九一
ろ	日本文學	九二
一	總記 史傳	九三

二	合集	九四
三	物語 草子 日記	九五
四	文集	九七
イ	選集	九七
ロ	家集	九八
ハ	論文	一〇〇
ニ	紀行文	一〇三
ホ	雜集	一〇四
五	和歌	一〇五
イ	總記	一〇五
ロ	歌話 作歌法	一〇六
ハ	選集	一〇七
ニ	家集	一〇八
ホ	新體詩	一〇八
六	俳諧	一一〇
イ	總記	一一一
ロ	俳話 作句法	一一二
ハ	選集	一一三
ニ	家集	一一五
ホ	俳文	一一六
七	謠曲 俗曲 俚諺	一一七
は	支那文學	一一八
一	總記 雜書	一一八
二	詩	一一九

に	歐米文學	一一一
一	總記	一一一
二	史傳	一二三
三	文	一二四
四	詩	一二六
ほ	印度文學	一二七
へ	近代戰爭文學	一二八
と	戯曲	一二八
ち	小説	一三三
第六	語學	一四九
い	日本語	一四九
一	總記	一四九
二	字書	一五一
三	文典	一五二
四	作文	一五三
イ	總記	一五三
ロ	作法 文範	一五四
ハ	儀式文	一五八
ニ	書簡文	一五八
五	琉球語 アイヌ語 โรม字	一六一
ろ	漢語(支那語ヲ含ム)	一六二
一	總記	一六二

二	字書	一六三
三	文典 文字 作文	一六四
は	英語	一六五
一	總記	一六五
二	字書	一六七
三	文典	一六八
四	作文	一七〇
五	會話 書取	一七一
六	讀本	一七二
七	英文和譯	一七三
八	和文英譯	一七七
に	佛語	一七九
ほ	獨語	一八〇
へ	露語 羅語其他	一八三
と	修辭 速記 演說	一八四
第七	歴史	一八七
い	總記	一八七
ろ	世界史	一八八
は	日本史	一八九
一	總記	一九〇
二	雜書	一九〇
三	通史	一九三



四	上古史	一九四
五	中古史	一九四
六	近古史	一九五
七	近世史	一九六
八	現代史	一九七
九	地方史	一九七
に	東洋史	一九八
に	支那史	一九九
に	印度史	一九九
に	西洋史	二〇〇
に	傳記	二〇三
い	總記	二〇三
ろ	日本人	二〇四
一	人名辭書 人名錄	二〇四
二	皇室	二〇四
三	合傳	二〇五
四	各傳	二〇八
は	外國人	二一四
に	人物評	二一八
第九	地誌	二一九
い	總記	二一九
ろ	日本地誌	二二一

一	總記	二二一
二	地方誌	二二三
は	外國地誌	二二五
一	支那	二二五
二	西洋	二二八
三	南洋附印度	二三一
に	紀行及案内	二三三
一	日本	二三三
二	外國	二三六
第十	政治	二三九
い	總記	二三九
ろ	論說 雜書	二四〇
は	史傳	二四三
に	選舉	二四四
に	典例	二四五
へ	行政	二四七
と	各國政治事情	二四八
ち	外交	二五一
第十一	法律	二五三
い	總記	二五三

ろ	雜書	二五六
は	憲法	二五八
に	行政法	二五九
ほ	民法	二五九
へ	商法	二六三
と	刑法	二六四
ち	訴訟法	二六六
り	判決例	二六七
ぬ	國際法	二六八
る	法令附書式	二六九
第十二	經濟 財政	二七〇
い	總記	二七〇
二	論說 雜書	二七二
三	史傳	二七四
四	土地 人口 勞働 分業	二七四
五	銀行 金融	二七五
六	貨幣 貯金 爲替	二七六
七	保險 組合	二七八
八	植民	二七九
ろ	財政	二七九

一	總記	二七九
二	諸稅	二八一
三	會計	二八二
第十三	社會	二八二
い	總記	二八二
ろ	社會問題	二八四
は	職業	二八五
に	處世	二八六
ほ	社交	二八七
へ	國民性 民族性	二八七
と	風俗	二八八
第十四	統計	二八九
第十五	數學	二八九
い	總記	二八九
ろ	和算	二九一
は	算術	二九二
に	代數	二九五
ほ	幾何	二九七
へ	三角	二九九
と	解析幾何	三〇〇



ち	微分積分	三〇一
い	總記	三〇一
ろ	物理	三〇四
は	化學	三〇七
に	天文	三一〇
ほ	地學	三一〇
へ	生物	三一二
と	動物	三一五
七	植物	三一六
り	地質附考古	三一八
ぬ	礦物	三一九
第十七	醫學	三一九
い	總記	三二〇
ろ	解剖組織	三二〇
は	生理病理	三二二
に	醫化學	三二二
ほ	外科	三二五
ほ	產科	三二六
ほ	婦人科	三二六
ほ	小兒科	三二六
へ	眼科	三二七
と	皮膚科	三二七
と	花柳病科	三二八

ち	泌尿器科	三二八
ち	精神病科	三二八
り	齒科	三二九
ぬ	治療	三二九
る	看病	三三〇
を	衛生	三三一
わ	藥學	三三二
か	藥學	三三七
第十八	工學	三三八
い	總記	三三八
ろ	土木	三四〇
は	測量	三四二
に	機械	三四二
ほ	電氣	三四六
へ	建築	三四六
と	鑛業	三五二
第十九	兵事	三五三
い	總記	三五五
ろ	史傳	三五五
は	陸軍	三五七
に	海軍	三五七
に	海軍	三五九

ほ	兵器	三六〇
第二十	美術	三六一
い	美術	三六一
一	總記	三六一
二	史傳	三六五
三	書畫	三六六
イ	總記	三六六
ロ	繪畫	三六七
(一)	總記	三六七
(二)	史傳	三六八
(三)	畫法	三六八
ハ	書	三七〇
四	圖案	三七〇
五	寫眞印刷	三七二
五	鑄金古錢	三七二
ろ	音樂	三七三
第二十一	諸藝	三七五
い	謠曲	三七六
い	能樂	三七六
ろ	演劇	三七七
は	遊藝	三七七
は	娛樂	三七七
は	武藝	三七七
は	運動	三七七
は	遊戲	三七七
一	生花	三七七
二	茶道	三七八
三	園藝	三七九

四	將棋其他	三八一
五	劍術	三八三
五	柔術其他	三八三
第二十二	産業	三八六
い	總記	三八六
ろ	簿記	二八九
は	商業	三九二
一	總記	三九二
二	經營法	三九四
三	廣告術	三九六
三	店頭裝飾	三九六
四	商業作文	三九八
五	商業數學	四〇〇
六	銀行會社	四〇〇
六	倉庫	四〇〇
七	株式及米相場	四〇一
八	貿易	四〇二
に	工業	四〇三
一	總記	四〇三
二	機械工業	四〇六
三	化學工業	四〇七
ほ	農業	四一一
一	總記	四一一
二	農業經濟	四一二
三	農村	四一四



四 農業理化	四一五
五 作物害蟲	四一七
六 耕種栽培	四一八
七 農産製造	四一九
八 園藝	四一九
九 牧畜	四二二
十 獸醫學	四二三
十一 養禽 養蜂	四二四
十二 蠶業	四二五
十三 山林	四二七
十四 水産 漁業	四二七
十五 交通 通信	四二八
<b>第二十三 家事</b>	四二九
い 總記	四二九
ろ 裁縫 手藝	四三二
は 料理	四三三
に 家事衛生 育兒	四三六
<b>第二十四 少年書類</b>	四三七
い 總記	四三七
ろ 修身	四三七
は 讀本 作文	四三九

に 歴史	四四〇
ほ 理科	四四〇
へ 圖畫 手工	四四〇
と お伽噺	四四一
ち 小説	四四五
附 錄	
本名雅號一覽表	

日本圖書館協會選定圖書目錄 第一、二、三卷合冊

第一 一般書類

い 事彙 類書

書名	著者	名	冊数	發行年	發行所	定價	番	號
廣文庫 第一、二、三冊	物集	高見	三	大	廣文庫刊行會	各冊	七	五〇
同し著者の羣書索引に載せたる和漢書及佛書中に就て其記事の參考に必要なものを抄録す。								
學生の友 芳賀 矢一			一	小	廣文堂	一	〇〇	
中等學校以上の學生が教科書以外に伴侶とすべき小百科事彙とても云ふべきもの。								
國民年鑑 (大正五年)	民友社	編	一	中	民友社	〇	五〇	
内容を大體記、一般記事、人物一覽、銀行會社要録に分つ、簡明にして便利なり。								
袖珍世界年鑑 第九回	伊東 祐穀	編	一	小	博文館	一	四〇	
中外列國の現勢に關する數字的表章。								

ろ 叢 書

△清 澤 全集	清澤 滿之	中	三	自三	無我山房	六	五〇	
第一卷 哲學及宗教、第二卷 信仰及修養、第三卷 日記及語錄。								
時事叢書	富山房	編	三	小	富山房	〇	二五	





一 伯林と巴里(保科孝一著) 二 歐洲文明の没落(遠藤吉三著) 三 世界大戦争の中心人物(田中奉一郎著) 四 白耳義及白耳義人(長岡春一著) 五 ビスマルクとドイツ帝國の建設(齋藤文藏著) 六 獨逸及獨逸人(片山正雄著) 七 奧匈國と其皇室(坪井九馬三著) 八 獨逸と次の戦争(獨、ベルン、ハルデー著) 九 獨逸皇帝(煙山專太郎著) 十 獨逸對列強の抗争(阿部秀助著) 十一 英國及英國人(内ヶ崎作三郎著) 十二 三國同盟と三國協商(林毅陸著) 十三 戦争と世界の終局(昇直隆著) 十四 戦争と講和の歴史(時野谷常三郎著) 十五 ポーランド悲史(齋藤清太郎著) 十六 露西亞及露西亞人(八杉貞利著) 十七 山東半島(富山房編) 十八 支那に於ける列強の競争(今井嘉幸著) 十九 南洋(井上雅二著) 二十 佛蘭西及佛蘭西人(五來欣造著) 二十一 世界の一回轉(浮田和民著) 二十二 生殖と戦争(山内繁雄著) 二十三 民族競争(大類伸著) 二十四 土耳其及土耳其人(長瀬風輔著) 二十五 戦の哲人ニイチエ(稻毛金七著) 二十六 蒙古及滿洲(島居龍藏著) 二十七 巴奈馬運河見物(島谷亮輔著) 二十八 世界大戦と日本の海運(今岡純一郎著) 二十九 現代の亞米利加(原口竹次郎著) 三十 楊子江沿岸(白岩龍平著)

大正名著文庫 至誠堂編 中、小、三、八 至誠堂

第一編 兎薺錄(和田垣謙三著) 第二編 人の運(大町芳衛著) 第三編 へちまのかは(杉村廣太郎著) 第四編 麗倒錄(村上信著) 第五編 吐雲錄(和田垣謙三著) 第六編 元祿四十七(村上信著) 第八編 洗心錄(幸田成行著) 第九編 三文文存(竹越與三郎著) 第十編 活修養(前田慧雲著) 第十一編 人の心(加藤熊一郎著) 第十二編 破木杓(大内青樹著) 第十三編 彌手から(長谷川萬次郎著) 第十四編 妄人妄語(森林太郎著) 第十五編 楽しい人生(前田慧雲著) 第十六編 悅樂(幸田成行著) 第十七編 旅から旅(加藤熊一郎著) 第十八編 幽芳集(菊池清著) 第十九編 放言錄(村上信著) 第二十編 西遊スケッチ(和田垣謙三著) 第二十一、二十三、廿五編 うき世(柳川專之著) 第二十二編 金剛草(夏目金之助著) 第二十四編 迷信と宗教(井上圓了著) 第二十六編 弱者の爲に(杉村廣太郎著) 第二十七編 聲(村井知至著) 第二十八編 杖の跡(大町芳衛著)

大日本學術叢書 大日本學術協會編 五、中、自、四、大日本學術協會

第一編 遺傳論(山内繁雄著) 第二編 人性の自然と吾邦の前途(加藤弘之著) 第三編 和歌史の研究(佐々木信綱著) 第四編 社會力(遠藤隆吉著) 第五編 英國功利説の研究(中島力造著)

縮刷 樗牛全集 高山林次郎編 小、自、三、博、文、館 八、二〇

第一卷 美學及美術史 第二卷 文藝評論 第三卷 史論及史傳 第四卷 時論及思索 第五卷 想華及小品 第六卷 日記及消息

天台道士著作集 杉浦重剛編 中、六、二、五、博、文、館 一、六〇

倫理書、日本教育原論、鬼哭論集等十三編を収む、杉浦翁遺曆の記念として編輯せるもの。

は書目

△群書索引 第一冊 物集 高見 一、二〇、一、廣文庫刊行會 八、〇〇

事物の出所を一々古書を調べて列記せるもの。

△慶長以來書覽集 井上和雄編 中、一、一、五、葉、文、堂 一、〇〇

慶應年間までの三都に於ける書肆の住所姓名、發行書名等を録す。

に隨筆

雨だれの音 清水靜文 中、二、三、九、四、厚、明、舎 〇、七、五

人生問題、經濟問題其他著者の隨筆を集む。

石白のへそ 福本誠 中、三、四、〇、三、東、亞、堂 一、一、〇

隨筆、古人に關するもの多し。

牛 岡本米藏 中、二、一、八、四、博、文、館 〇、八、五

著者の人生觀的感想錄、味ふべき節多し。

鉛筆だより 横山達三 中、三、五、二、三、春、陽、堂 一、〇、〇

原稿を鉛筆にて書きたるためこの書名あり、隨筆なり。



置	土	産	飯田御世吉郎	小中	三〇八五	野島書店(新潟)	〇、九〇			
折	に	ふ	れ	新渡戸稻造	小中	三七〇三	丁未出版社	一、二〇		
快	心	録	横山達三	小中	九三四三	日東堂	一、二〇			
擲	手	から	(大正名著文庫)	長谷川萬次郎	小中	四七五四	至誠堂	一、二〇		
強	者	の	天	地	井上泰岳	小中	三三九五	實業之日本社	一、〇〇	
聲	(大正名著文庫)	第二十七編	村井知至	小中	三九八五	至誠堂	一、三〇			
駒	の	い	な	さ	巖谷季雄	小中	二九二五	廣文堂	〇、九五	
三	又	文	存	(大正名著文庫)	第九編	竹越典三郎	小中	四三〇三	至誠堂	一、二〇
十	字	路	櫻井忠温	小中	五一九四	新橋堂	一、二〇			
子	規	隨	筆	正岡常規	一中	三三〇三	文淵堂	〇、七五		
續	子	規	隨	筆	正岡常規	一中	三七三三	文淵堂	〇、七五	

弱者	の	爲	に	(大正名著文庫)	第二十六編	杉村廣太郎	小中	四五四五	至誠堂	一、三〇
人	生	放	語	林田龜太郎	小中	三四九四	大學館	一、〇〇		
隨	感	隨	想	澤柳政太郎	小中	三七八四	富山房	一、二〇		
西遊	スケッチ	(大正名著文庫)	第二編	和田垣謙三	小中	再、四六一	至誠堂	一、二〇		
石	雲	録	横山達三	小中	三〇四五	文正堂	〇、八五			
吐	雲	録	(大正名著文庫)	第五編	和田垣謙三	小中	四一四三	至誠堂	一、二〇	
縮	水	川	清	話	勝安芳	小	四〇〇三	日進堂	〇、六〇	
筆	の	ま	に	芳賀矢一	小中	四三八四	富山房	一、〇〇		
へ	ち	ま	のか	(大正名著文庫)	第三編	杉村廣太郎	小中	四三八四	至誠堂	一、二〇
放	言	録	(大正名著文庫)	第十九編	村上信	小中	四〇二四	至誠堂	一、二〇	
都	の	机	よ	り	田川大吉郎	小中	四〇〇四	實業之世界社	一、二〇	



目と耳と	口巖谷季雄	小	三四五	耕文社	一、〇〇
目て見たまゝ、耳て聞いたまゝ、口て云ひたいまゝを手に運ばせて作りたりと云ふ。					
妄人妄語	(大正名著文庫) 森林太郎	小	四〇七	至誠堂	一、二〇
著者の隨筆集なり、美術、文學、劇等に關すること多し。					
忙中隨感	水野鍊太郎	小	三六四	廣文堂	一、二〇
一たび公にせられたる論文講演等を蒐集す。					

ほ 雑 書

海の趣味	若林欽	中	三三四	同文館	一、二〇	
海の趣味を國民一般に知らしめ兼て通商航海の振興に資せんとす。						
我樂多龍	高橋義雄	小	五〇三	華文社	一、三〇	
詩、歌、書畫、茶湯、道具、建築、築庭、能樂、能樂、絃曲に關する著者が多趣味の經驗談。						
新智識三百題	紫鳳閣編	小	四〇〇	紫鳳閣	〇、五七	
科學及發明、家庭及婦人、保健及衛生、風俗及娛樂、奇聞及珍話等を收む。						
新聞社の屑籠	城西隱士	小	三五六	文合堂	〇、六五	
三府の大新聞より雜多の記事を採萃せるもの。						
×世界之進歩	水上の知識	東京金物新報社編	小	二〇七	東京金物新聞社	〇、六五
水上に關する世界の新知識を圖解す。						

へ 新 聞

最近新聞紙學	杉村廣太郎	中	四二八	慶應義塾	一、八〇
--------	-------	---	-----	------	------

材料蒐集篇は素人の爲に、原稿製作篇は初入の記者の爲に、紙面整理篇はやゝ進みたる記者の爲に説明せりと云ふ。  
 最新實際新聞學 米、ドレヤ 小 三五〇 植竹書院 一、三〇  
 新聞社の組織より新聞の組立法、訪問、趣味時事、原稿の整理、校正等新聞に關する大體の知識を與ふ。

新聞及新聞記者	後藤三巴樓主人	小	一五九	二松堂	〇、五五
新聞及新聞記者を平易簡單に説明す。					
新聞記者生ひ立の記	米、ブライニス	小	二九〇	新聲社	〇、八〇
亞米利加の新聞記者の生立模様を知るを得。					
新聞總覽	(大正五年) 日本電報通信社編	中	九六二	日本電報通信社	三、五〇
日本全國新聞界の現勢及主なる雜誌を知るに便なり。					

第二 宗 教

い 總 記 雜 書

書 名	著 者 名	大 小 冊 數	發 行 年 紀 數	發 行 所	定 價	番 號
宗 教 倫 理 叢 書	廣 文 堂 編	五 中	自 四	廣 文 堂	各 册 一、二〇	
第一編 佛典結集(松本文三郎著)						
第二編 山上の説教(海老名禪正著)				小乘佛教史論(舟橋水哉著)		第四編 西行法師(梅澤精一著)
第五編 佛教哲學(小野清秀著)						

△現代宗教哲學の主要問題 加藤、オイケン 小 四〇二 警 醒 社 一、〇〇  
 現代宗教哲學の主要問題全部と基督教と、新理想主義の初の四章を重譯せり。







神典に現はれたる古神道、皇國體に現はれつゝある古神道、永遠に生活の根抵たるべき古神道に分ち詳説す。  
 ×敬神 神道 精義 宮地 猛男 一 一六六 永樂堂 〇、六〇  
 神道の大體を説明し其國體との關係を論ず。  
 ミテ 國家の祭祀千家尊福 一中 三三五 春陽堂 一、五〇  
 皇室を中心として營ませるゝ祝祭、儀禮及國民的記念日等に關する意義次第等を説明す。

伊勢神宮と我國體 廣池千九郎 一大 一三四 日月社 二、〇〇

伊勢神宮の概略を記載し我國體の淵源を論ず。

氏神と氏子 鈴木武一編 一中 九〇四 誠之堂 〇、三五

平易なる文章を以て氏子の氏神に事ふる方法を明す。

神宮綜覽 神宮司廳編 一中 一七六 國史研究會 〇、六〇

神宮の現状と沿革の大要とを通俗簡明に紹介せり。

神社崇敬と宗教 廣池千九郎 一小 二六二 日月社 〇、五〇

神社中心主義と題せる講演を基礎とせりと云ふ、官國幣社一覽表等を附録とす。

靈驗神道教祖傳 西川光次郎 一小 一三六 永樂堂 〇、四五

黑住教、金光教、天理教、富士講、御嶽教等の教祖傳。

天理教祖觀 奥谷文智 一小 二二四 日月社 〇、五〇

天理教祖中山美伎子の一生を簡單に評傳す、天理教研究書目解題を附録とす。

### は佛敎

#### 一總記

現行神社法講義 西野雄治 一中 二六七 松華堂 〇、九五  
 明治初年より大正二年主に至る現行神社法規を參照して制度、機關、經營を組織的に解説せり。

△梵漢對譯佛敎辭典 荻原雲來編 一中 六八〇 丙午出版社 五、〇〇

主として佛敎聖典の文を分解し名目、典語を抄出集成したるもの。

△佛敎大辭彙 第壹卷 佛敎大學編 一大 一四六 富山房 一〇、〇〇

佛敎各宗の教義、制度其他佛敎に關係するものは之を網羅す。

ケル 佛敎大綱 獨ヶ花俊道譯 一中 四二〇 東亞堂 一、八〇  
 佛敎に關する問題を網羅す。

通俗佛敎講話 南條文雄 一中 三六〇 中央書院 一、四〇  
 佛敎に關する雜話を集む。

佛敎大綱(現代佛敎叢書) 村上專精 一小 二四〇 文淵堂 〇、六〇  
 佛敎の大要を示す爲に十箇條目を採りて平易簡明に説述したるもの、専門家以外の人にも手ごろの良著なり。

佛敎哲學(宗教倫理叢書 第五卷) 小野清秀 一中 二八六 廣文堂 一、二〇  
 講習會の講義を基礎とし組織的に佛敎哲學の一般を説く。

#### 二雜書



活ける宗教	野哲	中	三三六	丙午出版社	一、〇〇
向	上論	南條文雄	一	六四三	東亞堂
修養と信仰	前田慧雲	中	四二六	東亞堂	一、〇〇
信仰と化物	白山謙致	小	一九六	無我山房	〇、四〇
信仰の歸趣	高田道見	中	六六三	佛教館	一、九〇
信仰より見たる人生	泉道雄	中	二五八	至文堂	〇、九〇
眞宗教と實生活	高楠順次郎	小	二三五	無我山房	〇、六〇
信念の發揮	南條文雄	小	三六四	東亞堂	一、〇〇
信は力なり	前田慧雲	小	三九二	東亞堂	〇、九〇
楽しい人生	前田慧雲	中	四〇一	至誠堂	一、二〇
力の生活	前田慧雲	中	二二六	實業之日本社	〇、八五

破木杓	大内青精	中	四一九	至誠堂	一、二〇
佛涵養	前田慧雲	中	三五八	日東堂	一、五〇
佛教國民の理想	高楠順次郎	中	三五二	丙午出版社	一、二〇
道	南條文雄	中	三二〇	丁未出版社	〇、九〇
印度支那佛教小史	野哲	中	一六八	鴻盟社	〇、八〇
印度佛教史	堀謙徳	中	二〇一	文榮閣	一、〇〇
小乗佛教史論	舟橋水哉	中	二四二	廣文堂	一、二〇
西域之佛教	羽溪了諦	中	五〇六	法林館(京都)	二、二〇
佛教史論	野哲	中	三七六	丙午出版社	一、三〇

三史傳

破木杓 (大正名著文庫第十二編) 大内青精 中 四一九 至誠堂 一、二〇  
 内容を信、解、行、證の四篇に分つ、著者の隨筆集なり、大部分は佛教に關す。  
 佛涵養 前田慧雲 中 三五八 日東堂 一、五〇  
 佛教の感恩思想其他を平易に講述したるもの、附録に日本佛教發達の徑路あり、著者の舊著佛教思想講話の増補。  
 安心と信仰とを得しめん爲に佛教の大意を講述す。  
 佛教國民の理想 高楠順次郎 中 三五二 丙午出版社 一、二〇  
 舊著國民と宗教に佛教の地位、久修十題を加へたるもの。  
 道の 南條文雄 中 三二〇 丁未出版社 〇、九〇  
 日常實踐射行すべき道の話。  
 印度支那佛教小史 野哲 中 一六八 鴻盟社 〇、八〇  
 嚮に著はしたる印度支那佛教史要の概要。  
 印度佛教史 堀謙徳 中 二〇一 文榮閣 一、〇〇  
 印度に於ける佛教變遷の概要を述べ、地圖を添へたるは理解を助くること大なり。  
 △小乗佛教史論 (宗教倫理叢書第三卷) 舟橋水哉 中 二四二 廣文堂 一、二〇  
 支那及日本に於ける小乗佛教の歴史を述べ。  
 △西域之佛教 羽溪了諦 中 五〇六 法林館(京都) 二、二〇  
 西域地方の佛教を歴史的に研究記述せり。  
 佛教史論 野哲 中 三七六 丙午出版社 一、三〇  
 數論と佛教との關係、達磨に就いて、支那思想史と佛教、禪の歴史等十五篇を收む。



△眞宗全史 村上 專精 中 八四五 丙午出版社 三、〇〇  
 眞宗各派の歴史を記述したるもの、著者が心血を注ぎし大著述、人名、項目兩索引を附し眞宗の發達を知るに最も便益多し。  
 日蓮宗史要 磯野 本情 一中 二一三 日宗新報社 一、〇〇  
 宗門創立時代より現今に至る日蓮宗史の概要。

大日本寺院總覽 寺院總覽編纂局編 一中 二七二五 明治出版社 一三、〇〇  
 日本現存の各宗寺院全部七萬一千餘を網羅す。

隱元、木庵、即非(禪門叢書) 高橋 竹迷 一中 二七六 丙午出版社 一、〇〇  
 三禪師の傳記なり、文章平易にして趣味あり。

榮西禪師(禪門叢書) 木宮 泰彦 小中 二七五 丙午出版社 一、〇〇  
 榮西禪師の隱歴、人物、行狀等に就きて明確、精細に記述したり、出家大綱、喫茶養生記を附す。

大谷 光瑞 關 露 香 小中 一七〇 政教社 〇、八〇  
 光瑞師の性格を知るを得べし。

西行法師(宗教倫理叢書) 梅澤 精一 一中 三一六 廣文堂 一、二〇  
 西行法師の傳記、人格、著書、文章、和歌等。

秀存 法話 佐々木月樵編 小中 四四三 無我山房 一、〇〇  
 一蓮秀存師の法話六十席を採る。

釋雲 照草 聚全 宜 三中 九四一 德教會 四、五〇

一代の事蹟、性行、逸事等を叙し書簡、日記、戒律等を輯録す。  
 北越 偉人 沙門良寛全傳 西郡久吾編 一中 六九七 目黒書店 二、〇〇  
 家譜、傳記並文書、出家の動機、逸事及其學問等。

親鸞 聖人 須藤 光暉 一中 四〇四 文淵堂 一、七〇  
 法然上人勸修御傳、拾遺古德傳、坂東報恩寺等本四幅繪傳に據れりと。

著者が親鸞聖人の教より得たる宗教的經驗を述べたるもの。  
 親鸞 聖人 富士川 游 一小 一〇二 無我山房 〇、二〇

禪林 奇行(禪學文庫) 菅原洞禪編 小中 二八四 丙午出版社 一、〇〇  
 禪林の奇行逸事百三十餘篇を收む、多くは明治以後の事實。

大僧 正天 海 須藤 光暉 一中 六〇五 富山房 二、二〇  
 天海大僧正の傳記として最も詳密、正確なるもの。

達磨(國民學叢書) 松本文三郎 一中 三四六 東亞堂 一、二〇  
 一度圖書刊行會より出でたるものを只學藝叢書第二編としたるだけなり。

達磨と陽明(禪學と陽明學) 忽滑谷 快天 小中 三五二 英語出版社 一、一〇  
 出家の卷、學道の卷、教化の卷に分つ。

道元 禪師(禪學文庫) 荒井 諦禪 小中 二六八 丙午出版社 一、〇〇  
 道元、親鸞兩上人を比較評傳す

道元禪師と親鸞上人 村上 專精 小中 一五四 日月社 〇、四〇

日蓮 上人 須藤 光暉 一中 三〇六 文淵堂 二、〇〇  
 物語體、多くの寫眞を挿む。

心理學上より觀たる日蓮上人 高島平三郎 一中 四二〇 洛陽堂 一、六〇  
 日蓮を論じたる演説と文章を集む。



日蓮聖人と親鸞(日蓮主義研究) 山川 智應 一小 一八八五 新潮社 〇、四〇	日蓮聖人の事蹟、人格、教義等を比較評論す。	日蓮聖人と耶蘇(日蓮主義研究) 山川 智應 一小 一七〇四 新潮社 〇、四〇	講演の筆記にして大膽なる自信を以て兩聖を比較評論す。	日蓮と豊太閤(合本) 村上 信 一小 六三〇三 明文館 一、二〇〇	史實よりも興味に重きをおく。	法華經の行者日蓮 姉崎 正治 一中 五七二五 博文館 二、三〇〇	日蓮の研究。他日更に一層平易なる略本を出版すべしと云ふ。	白隠禪師言行録 高橋 竹迷 一小 三九八五 東亞堂 一、〇〇〇	白隠禪師の生涯を平易に叙述す。	美人(禪門叢書) 笛岡 清泉 一小 二六四四 丙午出版社 一、〇〇〇	參禪婦女列傳とも云ふべきもの。	和漢名士參禪集(禪門叢書) 忽滑谷 快天 一小 二八八四 丙午出版社 一、〇〇〇	和漢名士二百名の參禪實例。	四經典 (特に一宗派に關するものは便宜「五、宗派」の所に置く)	△佛典結集(宗教倫理叢書) 松本文三郎 一中 二二〇四 廣文堂 一、二〇〇	王舍城結集、吠舍雜結集、阿育王の事蹟及び第三結集を收む。	△佛典の研究 松本文三郎 一中 三七四三 丙午出版社 〇、九〇〇	起信論に就いて、達磨法統説の起源、異本般若經に就いて第十七編を收む。
--	-----------------------	--	----------------------------	-----------------------------------	----------------	----------------------------------	------------------------------	---------------------------------	-----------------	------------------------------------	-----------------	--	---------------	---------------------------------	---------------------------------------	------------------------------	----------------------------------	------------------------------------

番號

### 五宗派

#### イ 禪宗

和譯 妙法蓮華經 佛教普及會編 一小 七二六五 良書刊行會 一、五〇〇	註解 上部には日蓮聖人の遺文を引用す。	漢和 妙法蓮華經 島地大等編 一小 七三〇三 明治書院 一、五〇〇	對照 原文及び和譯あり對照に便なり。	禪學 辭典 安藤 藤文 英天 一小 一五五八 無我山房 四、〇〇〇	禪學に關係ある二萬餘の語類を蒐集す。	禪學 辭典 山田 孝道 一小 一一四四 光融館 四、五〇〇	禪宗に關する故事、熟語、俗語其他一切の事項を平易に解釋す。	禪學 文庫 丙午出版社編 二小 自三至四 丙午出版社 一一、六〇〇	第一編 禪の第一義 鈴木貞太郎著	第二編 青巒禪話 大内青巒著	第三編 達磨と陽明 忽滑谷快天著	第四編 修道禪話 新井石禪著	第五編 禪の面目 竹田默雷著	第六編 禪林奇行 菅原洞禪編	第七編 拈華微笑 釋宗演著	第八編 禪の骨髓 秋野孝道著	第九編 禪の捷徑 原僧運著	第十編 道元禪師 荒井諦禪著
-------------------------------------	---------------------	-----------------------------------	--------------------	-----------------------------------	--------------------	-------------------------------	-------------------------------	-----------------------------------	------------------	----------------	------------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	---------------	----------------



第十一編 參禪の階梯	原田祖岳著	原田政熊編	飯田政熊著
禪門叢書 丙午出版社編	中	中	中
第一編 和漢名士參禪集	忽滑谷快天編	自四	菅岡清泉著
第三編 禪機	竹田默雷著	第二編 美人禪	高橋竹迷著
第五編 榮西禪師	木宮泰彦著	第四編 隱元、木庵、即非	鈴木貞太郎著
第七編 劍客禪話	加藤龍一郎著	第六編 禪の研究	橋尾賢宗著
		第八編 禪と武士道	

△禪學通解全書 第一從容錄	神保如天	一中	六〇四	無我山房	二、〇〇
讀方、字義、要解、著語の順に従ひて解説す。					
△從容錄 講話 第一卷	神保如天	一中	五九六	無我山房	一、七〇
本講の外從容錄編述の來由、編著者の略傳等あり。					
△正法眼藏注解全書 第九卷	神保如天	一中	六五四	無我山房	各册
數多の注解書を編者特別の形式により編纂せるもの。					
△大智禪師偈頌辨解	峰玄光	一中	三一八	民友社	一、五〇
一句づゝ平易に註解す。					
白隱禪師法語錄 毒潭	編	小	一九三	誠進堂	〇、四五
坐禪和讃、夜船閑話、遠羅天笠、辻談義等を受む。					
碧巖百則 百話 池上文俤	俤	一中	三九五	森江本店	一、八〇
碧巖百則を畫解す、附録に鄰近なる禪話一百あり。					
△碧巖集 耳林抄 風	外	二中	三四二	誠進堂	二、〇〇

番號

番號

△碧巖集 秘鈔	白田春雄編	一中	八九八	成功雜誌社	五、〇〇
白隱禪師が四十八歳より八十二歳に至る間に諸方に於て提唱したるもの。					
碧巖 物語 蘆津實全	小	一〇五二	東亞堂	二、〇〇	
雪竇禪師が拈出せる百則の公案等に著者の批評を加へたるもの。					
碧巖 錄 講話 一卷 釋宗演	一中	四九八	光融館	一、五〇	
著者の禪道會等に於ける講演を筆記せるもの。					
新譯 碧巖 錄 蜂尾柳莊譯	一小	二七五	大阪屋號	一、〇〇	
讀み方を近世的にし、解釋を現代的にしたりと云ふ。					
和譯 詳註 碧巖集 小鹿青雲	一中	八一〇	玄黃社	二、五〇	
碧巖集の詳細なる講義。					
一 喝 禪 中原鄧州	小	二五二	榮文館	〇、九〇	
禪の妙味を通俗的に述べたるもの。					
奇譚 一 棒 一 喝 池上文俤編	小	二七九	實業之日本社	〇、六五	
禪に關する興味ある短話を集め畫を挿みたるもの。					
活 禪 活 話 日置默仙	小	四三五	一 喝 社	一、〇〇	
上篇活人劍に於ては禪の靜的方面を説き、下篇活消息に於ては動的方面を述べ。					
活 才 術 中原鄧州	小	二八九	實業之日本社	〇、六五	
逸倫の活才は禪學の修養より來る所以を説く。					
應用 強 膽 術 渡邊約山	小	三〇二	廣文堂	〇、九五	



禪學の修養によりて剛健の氣風を生じ得る所以を説く。

劍客禪話 <small>(禪門叢書第七編)</small>	加藤熊一郎	小中	一九二五	丙午出版社	〇、八〇
向上の一路 <small>(縮刷名著叢書第十七編)</small>	新井石禪	小	四〇四	東亞堂	一、〇〇
悟道 <small>(縮刷名著叢書第十七編)</small>	山田孝道	小中	三三一四	弘學館	一、〇〇
坐禪指南 <small>(禪林名著文庫第一編)</small>	蘆津實全	小	三〇〇五	榮文館	〇、八〇
悟つてから <small>(禪道叢書第五編)</small>	日置默仙	小	三五一五	光融館	〇、八〇
參禪の階梯 <small>(禪學文庫第十一編)</small>	原田祖岳	小中	二八四四	丙午出版社	一、〇〇
修道禪話 <small>(禪學文庫第四篇)</small>	新井石禪	小中	二五〇三	丙午出版社	一、〇〇
殺活自在處 <small>(禪丸山小洋)</small>	丸山小洋	小中	二九六五	啓興社	〇、六〇
青巒禪話 <small>(禪學文庫第二編)</small>	大内青巒	小中	三八四三	丙午出版社	一、二〇

番 號

禪學活要	渡邊約山	小	四八八	廣文堂	一、一〇
禪學真髓 <small>(縮刷名著叢書第十四編)</small>	近重眞澄	小	四〇六	東亞堂	一、〇〇
禪學道しるべ	佐々木珍龍	小	五一六五	東亞堂	〇、八〇
禪機 <small>(禪門叢書第三編)</small>	竹田默雷	小中	二九二五	丙午出版社	一、〇〇
禪心錄 <small>(縮刷名著叢書第二十八編)</small>	近重眞澄	小	三八八五	東亞堂	〇、九〇
禪窓閑話	菅原時保	小中	二六二五	大阪屋號	〇、九〇
禪堂生活	島田春浦	小中	一八三三	光融館	〇、六〇
禪と英雄	秋山悟庵	中	二六八三	中央書院	〇、七五
禪と膽力養成	佛心道人	小	四一八五	東亞堂	〇、八〇
禪と日常生活 <small>(禪道叢書第三編)</small>	山田孝道	小	三六四五	光融館	〇、八〇
生死透脫 <small>(禪門叢書第八編)</small>	横尾賢宗	小中	二三八五	丙午出版社	一、〇〇

番 號



禪と武士道との關係、其及ぼせる影響等を説く。	二八四	中央書院	〇、九〇
禪の力行主義勤儉主義を紹介したるもの。	二九二	丸竹書店	〇、九五
禪の力行主義勤儉主義を紹介したるもの。	二九二	丸竹書店	〇、九五
禪に關する興味ある短話九十種を集む。	二九四	丙午出版社	一、〇〇
禪の骨髄 <small>(禪學文庫 第八編)</small> 秋野孝道	二九四	丙午出版社	一、〇〇
禪に關する著者の講話を輯む、通俗的ならんことに力めたりと云ふ。	二九四	丙午出版社	一、〇〇
禪の捷徑 <small>(禪學文庫 第九編)</small> 原僧運	二九四	丙午出版社	一、〇〇
暗に迷ふ人の心の道しるべたらんとすと云ふ。	二六四	中央書院	〇、八五
禪の人生觀 石月無外	二六四	中央書院	〇、八五
専門的禪語を使うを避くるに努めたりと云ふ興味津々。	二五九	丙午出版社	一、〇〇
禪の全般に亘りて一通り解説したるもの。	二五九	丙午出版社	一、〇〇
禪の立場から <small>(禪道叢書 第二編)</small> 鈴木貞太郎	三九五	光融館	〇、八〇
如是觀、如是説、如是行に別ち禪を説きたるもの。	二八二	丙午出版社	三、一二
禪の面目 <small>(禪學文庫 第五編)</small> 竹田默雷	二八二	丙午出版社	三、一二
「默雷禪話」續「默雷禪話」中より百五十則を選び編したるもの。	二七五	榮文館	〇、九〇
宗演 禪話釋 宗演	二七五	榮文館	〇、九〇
著者の禪に關する雜感を集む。	三四二	實業之日本社	一、〇〇
大悟 一番 中原鄧州	三四二	實業之日本社	一、〇〇
某所に於て一週間提唱したるものも骨子として編纂す。			

### 口日蓮宗

俗通 道講 話問 宮英宗	三六〇	光融館	一、〇〇
京都六角會館に於ける著者の十回に亘る講演を筆記したるもの。	二七五	啓興社	〇、五〇
手紙 禪丸山小羊編	二七五	啓興社	〇、五〇
古今名僧の禪的精神生活が其往復の手紙の中に活躍するを見る。	三八一	丙午出版社	一、二〇
南天棒禪話 <small>(禪學文庫 第十二編)</small> 中原鄧州	三八一	丙午出版社	一、二〇
著者の禪話百六十一を收む。	二七七	丙午出版社	一、〇〇
枯華微笑 <small>(禪學文庫 第七編)</small> 釋宗演	二七七	丙午出版社	一、〇〇
著者の南滿州各地に於ける講演筆記を編纂せるもの、高遠なる禪學を通俗的に説く。	三七六	光融館	〇、八〇
世の外 <small>(禪道叢書 第一編)</small> 釋宗演	三七六	光融館	〇、八〇
著者最近の講演と説話を筆記編纂したるものなり。	二五八	實業之日本社	〇、五五
鍊膽 術日置默仙	二五八	實業之日本社	〇、五五
主として禪學上より鍊膽の法を説く。			
種々御振舞御書略註 <small>(日蓮主義研究 叢書 第三編)</small> 山川智應	一七四	新潮社	〇、四〇
所々に簡單なる註釋を施せるもの。	一八〇	新潮社	〇、四〇
聖訓の研究 <small>(日蓮主義研究 叢書 第五編)</small> 志村智鑑	一八〇	新潮社	〇、四〇
立正安國論其他に依りて日蓮上人の思想等を研究す。	一八〇	新潮社	〇、四〇
立正安國論新釋 <small>(日蓮主義研究 叢書 第七編)</small> 長瀧智大	一八〇	新潮社	〇、四五
立正安國論に簡單明瞭なる註釋を施したるもの。			



類纂高祖遺文錄(日蓮聖人) 長瀧 智大編 小の 一七六三 祐善堂 三、〇〇  
 安國、觀心、開目、撰時、報恩の五大鈔其他。

日蓮主義を根據とせる論文集。 日蓮主義を根據とせる論文集。 本多 日生 小の 六一五五 博文館 〇、九五

日蓮聖人の教義を通俗的に述べ。 日蓮聖人の教義を通俗的に述べ。 小林 一郎 小の 五五一五 大同館 一、三五

龍口法難論(日蓮主義研究) 田中 智學 小の 一四〇四 新潮社 〇、四〇

明治二十三年、前後三時間に亘りてなせる大演説の筆記なり。

### ハ 眞宗其他

教行信證講義 卷三 山邊 智善學 一中 七三〇五 無我山房 二、七〇

本卷は眞佛士の卷化身士の卷なり。

眞宗の御文章を東京語を標準としたる現代語に口譯す。 眞宗の御文章を東京語を標準としたる現代語に口譯す。 芳賀 矢一編 小の 二八六 光融館 〇、七五

眞宗通解全書 第一、二 柏原 祐義 一中 三六〇四 無我山房 一、三〇

眞宗通解全書 第一、二 柏原 祐義 二中 九八八四 無我山房 四、五〇

眞宗通解全書 第一、二 柏原 祐義 二中 九八八四 無我山房 四、五〇

△阿彌陀佛の研究 加藤 智學 一中 一九四四 無我山房 一、〇〇

阿彌陀佛に關する傳説學說思想信念の一般を論ず。

△淨土教の研究(佛教學叢書) 望月 信亨 一中 八八一三 佛書研究會 二、四〇

淨土教理發達の經路教會變遷の事跡等に關する論文を輯録す。

眞宗の教義及其歴史 金子 大榮 一中 四八〇四 無我山房 一、五〇

一般の人に了解出来るやう成るべく平易に記述したるもの。

親鸞聖人の宗教 金子 大榮 小の 三〇三五 無我山房 〇、六〇

主として教行信證の梗概を叙し、三經と七祖との概観を加へたるもの。

△曼茶羅通解 權田 雷斧 一中 一七二五 丙午出版社 一、五〇

金、胎兩部曼茶羅に就て一々圖解を施せり。

### ニ 基督教其他

感想 十年 内村 鑑三 小の 四五四三 聖書研究社 〇、九〇

自明治三十三年至同四十四年著者が事物に對する情的觀察錄にして、大部分は基督教に關す。

△近代思想と宗教 上村 邦良 一中 四五九三 警醒社 一、三〇

近代思想と基督教との關係を殊に思想方面より觀察せるもの。

舊約聖書の宗教 瑞、マ、ル 深澤 一 小の 三六一三 文榮閣 一、二〇

古代民族の宗教を究明し基督教に將來したる宗教思想の經路を詳かにす。

基督教の過去、現在を説く。 基督教の過去、現在を説く。 海老名 彈正 小の 三二三四 警醒社 〇、八〇

基督教の過去、現在を説く。 基督教の過去、現在を説く。 宮川 經輝 一中 二五五四 北文館 一、〇〇



番 號

某所の講演を纏めたるもの、巻末に基督教問答あり。

基督教の根本問題	富永徳磨	一中	七三三	警醒社	一、六〇
基督教の本質、觀念及び神の觀念を詳論す。					
基督教の徒の思想	富永徳磨	小中の	三三六	警醒社	〇、八〇
一たび雑誌に掲げたるものを纏む、信仰修養の一助たらしめんと云ふ。					
向上清話	海老名彈正	小中の	三五八	大學館	一、〇〇
著者の論文、講話等を菊池某の編めるもの、基督教に關すること大部分を占む。					
山上の説教(宗教倫理叢書)	海老名彈正	一中	一七六	廣文堂	一、二〇
馬太傳の山上説教を註解す。					
宗教と現世	内村鑑三	小中の	四四八	警醒社	一、〇〇
宗教、現世、非戦に關係ある論文等を集む。					
宗教と人生	帆足理一郎	小中の	四八二	洛陽堂	一、三〇
主として基督教と人生に關する論文を集む。					
新	生藤井武	小中の	二一〇	岩波書店	〇、五五
著者のイエスに由る新生の光景の一斑を叙す。					
人生	感新渡戸稻造	小中の	三五二	警醒社	〇、八〇
基督教に關する著者の説教集。					
スボルデヨン説教集	英、スボルデヨン、栗原基等譯	小中の	三〇九	甲陽堂	〇、六〇
説教數種を集め巻首に小傳を掲ぐ。					
生活と宗教	高木壬太郎	小中の	五五三	警醒社	一、三〇
現代人生活の理想と宗教其他の論文を集む。					

番 號

聖書日日實行訓	小林富次郎	小中の	三六四	銀座書房	一、〇〇
聖書より一日一節を引き大意を述ぶ。					
生命の一路	畔上賢造	小中の	五〇四	洛陽堂	一、四〇
一たび雑誌聖書の研究に掲げられたる短文を集む。					
全き生活	佐藤繁彦譯	小中の	四九三	星文館	一、三〇
原書は十四世紀頃獨逸にて發行せられたるものにして、著者は不明なれど神、基督、人間及萬物について知るには聖書に次ぐ良書なりと云ふ。					
我が宗教(トルストイ叢書)	露、トルストイ	小中の	三三五	新潮社	〇、一〇
ト翁の解釋したる耶穌教。					
我等何を信すべきか	露、トルストイ、加藤一夫譯	小中の	五一六	洛陽堂	一、五〇
我何を信するや、宗教とは何ぞやの二書を譯す。					

アッシジの聖フランチェスコ傳	佛、サバティエリ	小中の	四八一	日本基督教會	一、七五
英譯より重譯。					
アッシジの聖フランチェスコ	佛、サバティエリ、中山昌樹重譯	一中	四四五	洛陽堂	一、八〇
教皇フランチェスコの傳記を英譯より重譯せるもの。					
ナザレの一人	米、アンダーソン、柏井園譯	小中の	三〇〇	日本基督教會	一、〇〇
耶穌と其生涯に關する重要問題を耶穌自身の見地に立ちて觀たるもの。					
日本基督教徒名鑑	中外興信所編	小中の	一〇〇	中外興信所	二、五〇
一名日本之基督教徒一覽					



日本全国の教會及教徒を網羅す。

△日本西教史 佛、ク、ラ、セ、  
 明治十年代に發行したるものを翻刻す。  
 太政官本局譯 中の 一七〇五 時事彙存社 六、〇〇  
 耶蘇傳 上澤謙二 中の 三六八 洛陽堂 一、五〇  
 馬可傳、路加傳等を參考として編述す、文章流暢なり。

神慮論 瑞、スエデンボルグ 鈴、木、貞、太、郎、譯 中の 六四二 丙午出版社 二、三〇  
 原書は人には歴史的に悪念の遺傳あること、神慮は此苦境を救ふにあること等を論じたるもの。

印度宗教實見記 長谷部隆諦 中の 二八八 一 鳴社 一、二〇  
 本書は著者が印度留學の三年間に見聞觀察せる事實に基き、印度教各派の概況を叙述せるもの。

印度哲學宗教史 高楠順次郎 木村泰賢 中の 五三九 丙午出版社 二、〇〇  
 吠陀時代より梵書與義書を経て經書時代迄を包含す。

### 第三 哲學 總記

書名 著者 冊數 發行年 發行所 定價 番號

近代思潮叢書 警醒社編 中の 自三 警醒社 各册 一、二〇

第一 オイケンの哲學 三 並 良著 第二 現代思潮と倫理問題 今岡純一郎譯

第三 生の更改と新藝術 内藤 濯著 第四 科學と宗教 三井芳太郎著

第五 現代の思想家 小松武治著 第六 自我の研究 野村善兵衛著

第七 靜觀と思想 岡田哲藏著 第八 宗教の哲學的基礎 藤田逸男著

第九 生命中心の哲學 三並 良著 第十 宗教の哲學的基礎 藤田逸男著

近代思潮叢書 天 弦 堂 編 中の 自三 天 弦 堂

第一編 チニ超人の哲學 獨、アランデス 生田弘治譯 第四編 未來派及立體派の藝術 木村莊八著

第三編 個人主義思潮 相馬昌治著 第六編 聖者の生活 吉田絃二郎著

第五編 印象主義の思想と藝術 高村光太郎著 第八編 オイケンと現代思潮 稻毛金七著

第七編 ロマン、ロランの思想と藝術 内藤 濯著 第十編 神秘主義者の思想と生活 吉江喬松著

第九編 トルストイ人道主義 加藤一夫著 第十一編 ショーペンハウエルの哲學 大住 舜著

哲學叢書 上野直昭等編 中の 自四 岩波書店 各册 一、二〇

第一編 認識 紀平正美著 第二編 最近の自然科學 田邊 元著

第三編 哲學概論 宮本和吉著 第四編 倫理學 速水 滉著

第五編 西洋古代哲學史 安倍能成著 第六編 倫理學の根本問題 阿部次郎著

第七編 宗教哲學 石原 謙著 第八編 精神科學の根本問題 上野直昭著

科學概論 米、ギユリック 中の 五〇二 警醒社 一、六〇



科學哲學宗教及神學の性質諸科學の分類法等を述ぶ。  
**精神科學の基本問題**(哲學叢書) 上野直昭 小の 三二四 岩波書店 一、二〇  
 ウィルヘルム、ヴントの所説を平易に述べたるもの。

△哲學 概論 紀平正美 一中 五七五 岩波書店 二、五〇

△哲學 概論(哲學叢書) 宮本和吉 小の 三四三 岩波書店 一、二〇  
 ウィンデルバイトの哲學概論に取捨選擇を加へ解説的叙述を試みたりと云ふ。

△哲學五流辨及其他(縮刷名著叢書) 桑木嚴翼 一小 五八二 東亞堂 一、三〇  
 主として舊著「性格と哲學」中の論文若干を訂正せるもの。

△イムヌエル 哲學序説(ゴメナ) 桑木嚴翼 譯 一中 二九六 東亞堂 一、五〇  
 學として現はれ得べきあらゆる將來の形而上學に對する序説なりと。

△哲學 汎論 木下四郎 一 三五三 洛陽堂 一、一〇  
 哲學上の諸問題につきて簡單なる解決を試みたりと云ふ。

△認識 對象 獨、リツケルト 小の 四八九 岩波書店 一、五〇  
 此書は原著者の哲學の根本思想を述べたるものなりと云ふ。

△認識 論(哲學叢書) 紀平正美 小の 三九七 岩波書店 一、二〇  
 認識の歴史的考察、認識の成立、認識の批判の三編より成る。

△ブ ラグ マテイ ズム 英、シ 田制佐重 譯 一中 六二二 早稻田文學 二、二〇  
 人間本位主義の研究とす。

△倫理、心理、宗教 新著梗概 第十 中島力造 編 一中 二九五 目黒書店 〇、七〇  
 教育、社會學、哲學 巴ツドラ氏の國學的精神、ラズルスキー氏の個性の研究に就て其他數書を解説す。

番號

番號

○ **オイケン**(近代文豪評傳) 第六編 安倍能成 小の 三〇四 實業之日本社 一、〇〇  
 オイケンの著書を骨子として其思想を傳ふ。

○ **オイケンと現代思潮**(近代思潮叢書) 第八編 稻毛金七 一小 二六二 天弦堂 〇、五〇  
 現代哲學者としてのオイケンと現代思潮との關係を論ず。

○ **オイケンとベルクソンの哲學** 獨、ヘルマン 山崎壽春 譯 小の 二八八 春畝堂 〇、九〇  
 其基督教徒の立場より兩學者の哲學の傾向と價值とを平明に叙述評論す。

○ **自然主義か理想主義か** 獨、オイケン 鹿子木員信 譯 小の 一三六 瓢山書店 〇、四五  
 一九〇九年ストックホルムに於てなせる著者のノーベル演説。

○ **人生の意義と價值** 獨、オイケン 三並良 譯 小の 三二二 大同館 一、五〇  
 人生の意義と價值との疑問を論ず。

○ **オイケン 精神生活の哲學** 獨、オイケン 得能文 譯 一中 三一八 弘道館 一、五〇  
 精神生活は既定の根柢を轉向するにあらざれば内面的發展の不可能なる所以を論ず。

○ **ルードルフオイケンの哲學** 三並良 小の 三一八 警醒社 〇、七〇  
 認識、宗教、宇宙、人生の諸問題を説く。

○ **シニラエル 獨語 錄** 獨、シニラエル マツヘル 獨 一小 二五二 東亞堂 〇、七〇  
 想像的人物の獨語を假りて原著者の道徳的自覺を述べたるもの。



シヨールペンハウエル隨想錄 獨、シヨールペンハウエル 增、富平 藏譯 小中の 四〇六 玄 黃社 一、二〇  
 原著者の青年時代より晩年にかけて隨時に書留めおきたる断片的の短文を譯せるもの。  
 シヨウベンハウエルの研究 征矢野見雄 小中の 五六八 東 亞堂 一、八〇  
 シヨウベンハウエルの生涯、著書、關係文書、學說、評論等を研究す。  
 シヨールペンハウエルの哲學 大住 舜 小中の 二一六 天 弦堂 〇、六五  
 (近代思潮叢書第十一編)  
 シヨールペンハウエルの認識論、厭世論、解説論を簡明に紹介す。

タゴール 詳傳 蘇武 綠郎 小中の 九〇四 向 陵社 〇、三〇  
 タゴールの傳記と主なる作品の梗概を紹介す。  
 タゴールの思想及宗教 江部 藏圓 小中の 一九九 日 月社 〇、七〇  
 タゴールの思想と宗教を概括的に紹介す。  
 タゴールの聖者の生活(近代思潮叢書) 吉田 絃二 郎 小中の 二三四 天 弦堂 〇、五〇  
 タゴールの聖者の生活思想を評論し小傳を附す。  
 タゴールと生の實現 中澤 重雄 小中の 二三八 新 潮社 〇、六〇  
 一個の哲人としてのタゴールを傳ふことに努めたりと云ふ、生の實現の梗概を後篇とす。  
 タゴールの哲學 齋木 延太郎 小中の 一四八 東 亞堂 〇、五〇  
 簡単にタゴールの思想を紹介す。  
 タゴールの哲學と文藝 吉田 絃二 郎 小中の 五四四 大 同館 一、二八  
 タゴール研究としては纏りたるものゝ一なるべし。

△森林 生の實現 印、タゴール 小中の 二四八 玄 黃社 〇、八〇

簡人と宇宙との關係以下八章より成る、原著者先年英國に於て之を講演しノーベル賞金を得たるは人の知るところなり。  
 名士のタゴール 觀 清澤 巖編 小中の 三六八 城 南社 〇、六五  
 田中玉堂氏のタゴール流行に就きての一觀察以下二十名家のタゴール觀。

トルストイ人道主義(近代思潮叢書) 加藤 一夫 小中の 二一八 天 弦堂 〇、五〇  
 著者はトルストイ隨喜者の一人として其人道主義を紹介す。  
 人 生 三浦 關造 譯 小中の 四五四 玄 黃社 一、一〇  
 トルストイの六十歳以後に發表せる哲學、宗教等に關する論文、書簡等を集めたるもの。

ニイ超人の哲學(近代思潮叢書) 獨、ブランドデス 小中の 四五二 天 弦堂 〇、五〇  
 ニイチエに關するブランドデスの論文四種を抄録したるもの、原著者はニイチエの第一の發見者、紹介者と認らるる人なりと云ふ。  
 獨和ツアラトウストラ如是說第一編 山口 小太郎 譯 小中の 二〇〇 精 華書院 〇、七〇  
 一節毎に獨和對譯せり。  
 悲劇の出生(現代哲學) 獨、ニイチエ 中 四〇七 早 稲田大學 二、二〇  
 善惡の彼岸(第三編) 金子 馬治 譯 一 四〇七 早 稲田大學 二、二〇  
 前者はニイチエの初期の著述にして、後者は圓熟の境に達したる頃のものなり、共にニイチエ思潮を明にす。

ベルグソン(近代文豪評傳) 中澤 重雄 小中の 三五六 實 業之日本社 一、〇〇  
 ベルグソンの性行思想哲學を闡明せるもの。  
 △ベルグソン哲學(時間と自由意志) 北 吟 吉 小中の 二四一 南 北社 〇、八〇  
 解説及批判第一編(哲學入門) 時間と自由意志、哲學入門の二書を解説す。



ベルグソン哲學の眞髓	稻川 金七郎	神の	四六三	大同館	一、二〇
ベルグソン哲學の傾向、價值、特色等を平明に叙述論評せり。					
△ベルグソンと現代思潮	野村 善兵衛	中	三七八	大同館	一、二九
ベルグソンと現代思潮の關係を説くこと詳密なり。					
△ベルグ物質と記憶	佛、ベルグソン 高橋里美 譯	中	四七五	星文館	二、三〇
物質と意識の相關作用を闡明し、兩者の性質を決定す。					
ルソンの眞髓	原松 本正	男起	三五三	南北社	一、〇〇
ルソンの論文集を和譯せるもの。					
全ルソンの懺悔録(縮刷全譯叢書第二三編)	佛、ルソンの 生田弘治 譯	小	九五四	新潮社	一、八〇
ルソンの眼想録	佛、ルソンの 榎本恒太郎 譯	小	三一九	日東堂	一、二〇
ルソンの絶筆なり、其六十七年間の感想録。					
△印度六派哲學	木村 泰賢	七中	六五〇	丙午出版社	二、三〇
前ミーマンサー、數論、瑜伽、勝論、正理、吠檀多六派の哲學を攻究す。					
優波尼沙土物語	木村 龍寛	小	五二六	新潮社	一、八〇
印度最古の哲學たる優波尼沙土哲學の概念を説き其物語を附す。					
愛し得ざる悲哀	稻毛 金七郎	小	三八四	天弦堂	一、〇〇

ろ 雑 書

生命力としての愛、戦争の心理、批評的精神と創造力、文壇の現状を論ず等の論文集。	宙 三宅雄二	小	七八〇	實業之世界社	一、五〇
縮刷 宇 青柳 猛 解 説					
難解の部分には一々頭註を附す。					
△解 放 の 信 條	田中 喜一	小	二九三	榮文堂	一、二〇
學術、信仰、教育、文藝等に關する評論を集む。					
科 學 と 宗 教	三井 芳太郎	小	二四三	警醒社	一、七〇
巴里大學教授ブートルー氏の「私學と宗教」に據れり。					
近 代 文 明 講 話	大住 舜	小	五五〇	星文館	一、五〇
近代文明の傳統を窮め如何に次代の人民に引續ぐべきかの理想を鼓吹す。					
現 代 批 判 第 一 輯	田部 重治等編	中	一七四	不老閣	〇、五〇
批評の意義、藝術の形象と流動、露國思想家の見たる哲學の現在將來等を輯む。					
△自 我 の 研 究(近代思潮叢書)	野村 善兵衛	小	三四四	警醒社	〇、七〇
基礎的研究、建設的研究の二部に分ちて自我を研究す。					
△思 索 と 體 験	西田 幾多郎	小	三〇八	千章館	一、〇〇
哲學等に關する論文集。					
自 然 論	米、エマソン 片上 伸 譯	小	二二九	南北社	〇、八〇
一八三六年出版の自然論と一八四一年出版の論文中の同題のものを譯出す。					
新 常 識 論(大部分哲學に關す)	加藤 弘之	中	五二二	廣文館	一、八〇
精神 人 論	英、トライイン 村上 次郎 譯	小	二六四	文盛館	〇、九五
通俗的、實踐的なる精神生活論なり。					
人性の自然と 吾邦の前途(大日本學術叢書第二編)	加藤 弘之	中	一八六	大日本學術協會	〇、九〇
前者、自然と倫理の第三補遺なり。					

番 號

番 號



雷 號

觀と思想 <small>(近代思潮叢書 第七編)</small>	岡田 哲藏	小中の	三八二	警 醒 社	〇、八〇
曾て雑誌に掲げられたる著者の宗教、哲學、藝術等に關する論文を集む。					
生の更改と新藝術 <small>(現代思潮叢書 第三編)</small>	内 藤 濯	小中の	二八六	警 醒 社	〇、七〇
宗教、藝術に關する論文集。					
生の創造と道徳	稻 毛 金 七	小中の	四八〇	大 同 館	一、〇〇
著者が過去二ヶ年間に於て雑誌等に發表したる哲學上の論文二十六篇を收む。					
生命中心の哲學 <small>(現代思潮叢書 第九編)</small>	三 並 良	小中の	三五六	警 醒 社	〇、八〇
著者が曾て雑誌上に公にせる新舊の論文約二十篇より成る。					
全 一 生 活	英、ベ 田部重治	小中の	二〇五	不 老 閣	〇、八〇
統一的性格、自然詩人ウオーツウオースと其觀照的態度等を譯せり。					
哲學と宗教	井上 哲次郎	中	七九六	弘 道 館	二、〇〇
過去四五年間に著者が雑誌等に於て發表したる哲學に關する論文、哲學の要求以下十一篇、宗教に關する論文、佛、基二教と神道以下十五篇を收む。					
△哲學と人生	木村 鷹太郎	中	五九三	日 進 堂	二、〇〇
哲學考究に關する數年間の論文集にして世界及人生觀、實體論及知識論、倫理論に三大別す。					
哲學と文藝	桑 木 嚴 翼	小中の	二二四	實業之日本社	一、二〇
科學と哲學、社頭杉、古代研究と思想問題、文藝の影響其他の論文を集む。					
哲學より宗教へ	龜 谷 聖 馨	中	四四九	弘 道 館	一、五〇
哲學と宗教に關する著者の論文を集む。					
△獨逸思想と其背景	朝 永 三 十 郎	小中の	二四〇	實 文 館	〇、七五
神祕説と獨逸思想、獨逸思想と軍國主義、獨逸の現代哲學と其最近背景等の論文を收む。					
破壊と建設	中 澤 重 雄	小中の	三三四	新 潮 社	〇、九〇

は 史 傳

ローラン、オイケン、現代の神秘家、自然主義、親と子、新道徳論等。					
バスカル 感想錄	佛、バ 前田長太	中	四八〇	洛 陽 堂	一、六〇
人生問題を論じたる感想錄。					
萬 有 の 神 秘	白、マ 栗原基譯	小中の	三九〇	玄 黃 社	一、二〇
正義の神秘、神秘の進化、物質の世界、過去、運の五論文を收む。					
文明と哲學的精神	鹿 子 木 員 信	小中の	三八四	慶 應 義 塾	一、二〇
文明、哲學の意義を概説し、哲人の理想、文明の理想を論ず。					
△吾 が 非 哲 學	田 中 喜 一	中	一一二	敬 文 館	〇、六五
主として哲學に關する論文七章。					
△グインデルマント 近世哲學史 第一	獨、グ 村一岡 典 嗣 譯	中	五五五	老 鶴 閣	二、五〇
近世初期の部。					
△近世に於ける「我」の自覺史	朝 永 三 十 郎	中	三〇一	實 文 館	一、二〇
一名を新理想主義と其背景と云ふ、第一編は自覺史の内容を叙説し、第二編はその哲學上の考へ方の發展を叙す。					
自由思想の變遷を概括的に記述しカントに至りて筆を止む。					
西洋 古代哲學史 <small>(哲學叢書 第五編)</small>	安 倍 能 成	小中の	三六八	岩 波 書 店	一、二〇
アルニムの西洋古代哲學、ボイムカーの教父哲學及中世基督教哲學を基礎とせりと云ふ。					
西洋哲學史 <small>(刷縮大西全集 第三、四卷)</small>	大 西 祝 一	小	七四三	警 醒 社	二、〇〇
古代より近世に至る西洋哲學を講究す。					

雷 號



西洋哲學史 米、守、義、孝、譯 一 中 八〇四 目黒書店 二、五〇

西洋哲學史 藤井健次郎等譯 一 中 七六三 富山房 二、二〇

哲學思想の大體の發達を傳へたるものなれば專攻者以外の讀者にも解し得べし。

印度哲學宗教史 高楠順次郎 一 中 五三九 丙午出版社 二、〇〇

吠陀時代より梵書、奧義書を経て經書時代までを包含せり。

オイケン (近代文豪評傳 第六編) 安倍能成 一 中 三〇五 實業之日本社 一、〇〇

オイケンの著書を骨子として其思想を傳ふ。

五大哲學者 桑木嚴翼 一 中 六八〇 文淵堂 一、三〇

デカルト、スピノザ、カント、フイヒテ、ニーチエの哲學批評。

タゴールの傳記と主要作品の梗概とを紹介す。 蘇武綠郎 一 小 九〇四 向陵社 〇、三〇

ベルグソン (近代文豪評傳 第一編) 中津重雄 一 小 三五六 實業之日本社 一、〇〇

ベルグソンの性行思想を紹介す。

### に論理

論理學 (哲學叢書 第四編) 速水汎 一 中 四〇七 岩波書店 一、二〇

哲學研究者の準備的階梯となり又一一般學問研究者が論理的思索の鍛鍊を爲すの需要に應ぜんとしたりと云ふ。

論理學 (縮刷大西全集 第一卷) 大西祝 一 小 三九四 警醒社 一、〇〇  
早稻田大學の講義録に掲げられしもの。  
論理學要領 淀野耀淳 一 中 一四四 大日本圖書會社 〇、三七  
初學者の爲に論理學の要領を敘述す。

### ほ心理

#### 一總記雜書

△グン 心理學要領 速水汎 譯 一 中 二九六 不老閣 一、二〇

△グン 心理學 須藤新吉 一 中 五二四 老鶴園 二、〇〇

斯學の泰斗グント氏心理學の基礎と體系とを詳説し、略傳と著書の解説とを載せたり。

△現代之心理學 速水汎 一 中 四〇八 不老閣 一、五〇

現今に於ける心理學の諸分科の意義と研究成績及び精神機能を概説す。

△個性心理及比較心理 中島泰藏 一 中 五四〇 富山房 一、八〇

個性及精神發達に關し著者の觀察及實驗を纏めたるもの。

△實驗心理學 十講 松本亦太郎 一 中 六〇三 弘道館 二、五〇

實驗心理の歴史及其一般を平易に講述す。

△心的作業及び疲労の研究 原口鶴子 一 中 四二三 北文館 二、〇〇

心的作業及び疲労研究の歴史と著者の實驗と。

△心理學概論 元良勇次郎 一 中 一二四 丁未出版社 三、八〇

曾て哲學雜誌に連載せる心理學を増訂せるもの。



△心理學 審義 福來友吉 一中 一五六六 寶文館 四、八〇

生命の意義を根柢として新に精神を解釋せんとす。

心理學 通義 上野陽一 一中 七五六三 大日本圖書 二、五〇

前著心理學要領の詳解と云ふを得べし。

心理學 要領 上野陽一 一中 二一一三 大日本圖書 〇、五三

師範、學校等の教科書。

△精神 的動作 松本亦太郎 一中 三九一三 六合館 一、五〇

精神的動作に關する研究の論文を集む。

教育 心理 撮要 大瀨甚太郎 一中 二二三八 成美堂 〇、九〇

心理學の教育上の應用に重きを置く、中等程度以上。

教育的心理學(教育講座) 松本亦太郎 小中 三九九四 日本學術普及會 〇、七〇

歐米諸國及我國に於て最近に試みられたる實驗的統計的心理學研究にして、教育に關係ある資料を廣く參考せり。

機智の妙用 破寛 居士 一小 二二二三 東亞堂 〇、七〇

機智を妙用したる内外古今の例。

天才と遺傳 英、ゴルトン 一中 六五七五 早稻田大學 一、八五

英國に於ける實例を多く擧げて、天才と遺傳との關係を研究したるもの。

天才と狂人 伊、ロンプロオソオ 中 三六七五 文成社 一、一〇

天才の特質、天才の原因、精神病者に對する天才を論ず。

天才 論(植竹文庫) 伊、ロンプロオソオ 小 三五〇三 植竹書院 九、五

天才の起因、狂天才、綜合、天才の變質的の諸章よりなる。

笑の研究 佛、ベルグソン 中 二五八三 艮山書店 一、〇〇

可笑味により特に惹起されたる笑の研究。

### 二 群衆心理 記憶術 催眠術其他

群衆の心理 大久保留次郎 一中 一六六三 敬文館 〇、六〇

群衆を善導するの資に供せんとす。

民族心理及群衆心理 佛、ルボソ 中 五三八四 文明書院 一、七〇

ル・ボン博士の二大著と稱せらるゝ民族發展の心理及群衆心理の二書を譯出せるもの、文明協會本と同本。

靈魂信仰と祖先崇拜(心理叢書) 桑田芳藏 小中 一六九五 心理學研究會 〇、七五

民族心理學的研究なり。

最新記 憶術 石川貞吉編 小中 二五二四 實業之日本社 〇、六五

記憶術の概論と記憶力の増進法とを述べたるもの。

和田守新記 憶法 和田守菊次郎 小中 二四三四 國民記憶學會 一、〇〇

著者二十餘年間苦心して記憶法上動かすべからざる根本法則を發見せりと云ふ。



式村上注意術講話 村上辰午郎 一 六三七 明文堂 二、五〇  
注意術とは著者の改稱したる催眠術なり、實例を多く掲げたり。

×お ば け の 正 體 井上 圓了 一 二一三 丙午出版社 〇、五〇  
妖怪に迷へる兒童に讀ましむる目的なれば文章平易なり。

死 後 の 生 命 伊、ロンプロオゾオ 一 三三三 老鶴園 一、三〇  
催眠及心靈現象の研究を譯したるもの。

心 靈 學 講 話 高英、デゼルチス 一 二四六 玄黃社 〇、八五  
交霊現象、交霊術の道德及價值等を講述す。

倫 理

一 總 記

英國功利説の研究(大日本學術叢書) 第五編 中島 力造 一 三二四 大日本學術協會 一、八〇  
ベンザム、ミル、シヂユウキツク、ラシユダール等の學説を研究す。

教育的倫理學講義 中島 力造 一 五二一 弘道館 一、八〇  
同著者の師範學校修身教科書の倫理篇を講述したるもの。

現代倫理思潮 倫理研究會編 小中 三 一〇二七 弘道館 二、二五  
倫理研究會員が歐米の倫理學書又は雜誌より抄譯せるものと、各自の斯學に關する論文とを收む。

實踐倫理要義(教育講座) 第十一編 深 作 安 文 一 三三一 日本學術普及會 〇、八〇  
個人、家族、社會、國家倫理を説き終りに倫理學の初步を述べ。

新倫理學要義 湯本 武比古 一 一八〇 開發社 〇、六〇  
著者が著手しつゝある倫理學の大著の草稿中より其要を摘撮したるものなりと云ふ。

△倫理學の根本問題(哲學叢書) 第六編 阿 部 次 郎 一 三四五 岩波書店 一、二〇  
主としてリプスの著書に據りて記述せりと云ふ。

倫理哲學講話 西 晋 一 郎 一 三九八 育英書院 一、二〇  
實在の兩相、實在と道德一般、一元と多元、實在の發達の階段等を論ず。

ロージ 簡明倫理學史 米、ロージヤリス 一 四三六 早稻田大學 一、六〇  
ヤリス氏 希臘及び近世の倫理學を平明に敘述し且批評す。

東 洋 倫 理 綱 要 服 部 宇 之 吉 一 四二三 大日本漢文學會 一、八〇  
西洋倫理を參酌して東洋倫理の大綱を講ず。

近 世 社 會 德 育 及 教 化 の 研 究 中島 力造 一 四八三 隆文館 二、〇〇  
徳川時代に於ける社會德育の經過殊に庶民教化の點に就いて觀察せるもの。  
 文部省檢定 國民道德綱要 文檢受驗同志會編 一 一一六 三友堂 〇、九〇  
文部省中等教員檢定試験に應ぜんとするもの、參考書。



△國民道德序論 亙理章 三郎 一中

廣く論説を引き事例を擧げて國民道德を講究せる大冊なり。

國民道德の新修養(教育新潮叢書の内)

吉田 靜 致 一中

夏期講習會に於ける講演の筆記。

國民道德要義 深作 安文 一中

我國の地理歴史、家族制、國體、武士道及時勢の進運と國民道德等を論ず。

文檢國民道德要領 明治教育社編 小中

修身の文檢試験に合格したる數氏が執筆したりと云ふ。

國民道德要領 吉田 靜 致 一中

我が國民道德の由來、特質、儒教及佛敎との關係等を述ぶ。

日本倫理 有馬 祐政 一中

前者「日本國道論」に修訂を加へたるもの、故乃木大將の評語を記入す。

大日本倫理思想發達史 岩 橋 遵成 中

儒敎傳來の當時より明治初年に至るまでの儒者を中心として、我が倫理思想發達の跡を系統的に詳述したるもの。

教育勅語要解 大内 青巒 一中

佛敎主義の立場より教育勅語を詳細に解説す。

番 號

二 雜 書

經濟より見たる道德 添田 壽一 小中

經濟的活動は即ち道德的活動なる所以を論ず。

現代と道德 吉田 靜 致 小中

道德と宗教、藝術、政治等との關係、國民教育の德育方針等に關する論文を蒐む。

社會と道德 井上 哲次郎 一中

四五年來の論文中より社會と道德に關係あるもの四十七篇を輯む。

世界心、國家心、個人心 大 島 正 德 小中

人格觀念を根柢として國際關係、國家、國民生活を論ず。

△責任論(自然と倫理補遺第二) 加藤 弘 之 一中

自然科学の實證に倚賴して責任主義を研究したるもの。

忠義の哲學 鈴木 三郎 譯 小中

原著者がボストン市に於て公衆に講演したるもの。

道德革新論(大學講義全集第一) 谷 木 富 中

著者の京都帝國大學に於ける講演筆記、歐洲最近思潮一斑を附録とす。

道德と經濟 中 島 力 造 小中

國富増進の急務、日本人の弱點、質素生活の必用等著者の講演を集む。

道德と品性 遠藤 隆吉 小中

宇宙人生に對する見識、日本道德、人品等を論ず。

番 號



道徳の眞義 高楠順次郎 中 二三四 廣文堂 一、二〇  
 道徳の眞義は反省主義、主觀主義にありとし、この發現は宗教的信念に歸する所以を説く。  
 平和と幸福 英、エーヴペリイ 中 三二五 實業之日本社 〇、七〇  
 要は平和に因て天賦の幸福を享有すべしと言ふにあり。  
 倫理と國民道徳 深作安文 中 八〇三 弘道館 二、八〇  
 著者が過去數年間に公にせる倫理、國民道徳に關する論文四十一篇を蒐む。

### 三教訓

格言大辭典 芳賀矢一等編 小 一〇〇五 文昌閣 二、五〇  
 日本之部は芳賀矢一氏、支那の部は安井小太郎氏、英語の部は服部宇之吉氏擔任せり。

〇

善行一日一訓 蘆川忠雄 中 三七八 誠文堂 〇、七〇  
 古今東西の偉人名士の金言、格言を一日一訓づゝ三百六十五日に割り當てたり。  
 一日一言 新渡戸稻造 小 三六六 實業之日本社 〇、六五  
 其日々々の教訓となるべき古今の格言を三百六十五日に配したるもの。  
 一日一善 山本龍之助 小 二七六 洛陽堂 〇、五五  
 一日一善の來歴、働き、實例、實驗談等。  
 踐實 一日一善講話 山本龍之助 小 三五五 洛陽堂 〇、七〇  
 一日一善に關し各地より得たる材料と著者の所感等を記して此書をなせりと云ふ。

一 喝 錄 大町芳衛 小 三一四 中外社 〇、八五  
 主として教訓、修養に關する事數百題を隨筆風に書きたるもの。

×通俗浮世の重荷 江原素六 小 三七七 甲陽堂 一、二〇  
 著者が教育會、婦人會等にてなせる日常道徳上の通俗講話を集めたるもの。

繪入訓話 大町芳衛 小 三六〇 富山房 〇、五〇  
 主として通俗的の訓話を集む。

悅 樂(大正名著文庫) 幸田成行 小 四一五 至誠堂 一、二〇  
 習學上の教訓を主とす。

恩師訓話 隨錄 岡本貞焦 中 三〇四 實業之日本社 一、〇〇  
 著者の先輩諸賢より親しく訓誨を受けたる談話を集む。

快馬 一鞭 坪野平太郎 小 三一七 日東堂 一、二〇  
 青年の修養に關する短文、談話十數篇を收む。

學生諸君 尾崎行雄 小 一九三 國民書院 〇、三五  
 少年論、文武論、少年の學問病と其治法等。

學生論 奥田義人 小 二六六 實業之日本社 〇、八五  
 學生の教訓、修養となるべき事項を集む。

清澤先生の教訓 浩々洞編 小 一八四 無我山房 〇、六〇  
 清澤全集の中より最も簡潔にして其全體を現はすものを採萃す。

近世立志編 稻村修道 小 三〇五 文陽堂 〇、八五  
 主として地方青年の爲めになせる教訓的講演集。



×勤勉の力 附百人一訓	帝國從業者獎勵會編	小中の	一六四	良書刊行書	〇、三五
勸勉努力の必要を説き活例を掲ぐ。					
教訓叢書	足立四郎吉	小中の	二〇四	文陽堂	〇、三五
第一編孝道講話	第二編處世講話	第四編修養講話	第五編忠勇講話	第六編公民講話	
現書	生學	江口天峯	三三〇	興成館	〇、八五
英國ゴードル氏著少年修身書を基礎とす。					
現代に吾人の覺悟	添田壽一	小中の	一一八	榮文館	〇、五〇
處世上の覺悟と心得、努力の効程、共通の原則より見たる義務觀を述ぶ。					
幸	福	瑞、ヒルテイ	三五二	東亞堂	一、八〇
著者の經驗を基とし仕事をする秘訣、時間節約法、幸福を得る法等を説く。					
國民	二十訓	大隈重信	三二〇	丁未出版社	〇、八〇
國民の公德、日本國民の四大理想等二十篇を收む。					
國民道	徳訓	徳川建孝	四〇四	至誠堂	一、二〇
著者が日本弘道會長として數年間講演したるものを編纂す。					
御即位禮勅語と國民の覺悟	寛克彦	中	一五〇	清水書店	〇、八五
東京市講演會に於ける講演を補正したるもの。					
國家の理想と青年	淺野源吾	小中の	一九七	東北社	〇、五〇
國家の理想の實現と現代青年の地位と責任の大なるを論ず。					
叢書	國民	日常訓	足立四郎吉	中	二三八
從來の教訓書とは聊内容を異にし、極めて新らしき事實を多く採りたるを特色とす。					

番號

根氣の世の中	蘆川克己	小中の	四〇四	二松堂	一、二〇
根氣は最後の勝利者なる所以を實例を多く擧げて説明せり。					
處世	榮根譚	講話	加藤熊一郎	中	五〇四
榮根譚を解釋すると同時に例を擧げて處世の實際に應用するやうに工夫して執筆せるもの。					
自	警	新渡戸稻造	中	四一六	實業之日本社
日日の心得、平生の戒となるべき通俗的の教訓集。					
青年	訓	平田東助	小中の	二九四	平和出版社
青年の不健全なる思想を排し美風の養成を鼓吹せるもの。					
實	行	論	黒岩周六	小中の	三三六
實行主義の著者が曾て雑誌に發表したる空理に馳する勿れ等の論文約二十篇の結集。					
實力の養成	木村定次郎	小中の	二五二	忠武堂	〇、七〇
成功の榮冠は實力、努力の積層の上のみ置かるゝ所以を説く。					
處	世	之道	大内青耕	中	七二四
各所に於て著者が處世の要路を講演したるもの、筆記を輯む。					
心性	新	學	生訓	臣々堂主人編	小
諸名士の教訓を蒐めたるもの。					
新	神	君	御袖鑑	足立四郎吉編	中
原書は補正成が其子正行に遺したる教訓なりしを、徳川家康偶然之を獲て修養に資せりと傳ふ。					
進	取	論	鎌田榮吉	小中の	四〇二
教育、政治、實業等に關する著者の論文集。					

番號



新時代の青年	石田新太郎	小中	三九一	粗山書店	一、二〇
青年に關する諸問題に就て著者の意見を陳ぶ。					
三宅雪嶺 人生訓	衛藤利夫編	小	四二四	東亞堂	一、〇〇
三宅雪嶺氏の文章中より最も感銘せる箇所を編めりと云ふ。					
人生は是れ戰場	井上圓了	小中	三三七	弘學館	一、〇〇
大正の國民特に青年の盡すべき天職を論ず。					
人生の快樂	大内青譽	小中	四三七	文昌堂	一、二〇
福壽、としはじめ、餘慶、安心、好生、願、修道、淑徳、忠實、愛語の力其他十數題目あり。					
人生訓	内ヶ崎作三郎編	小中	九三八	大日本圖書株式會社	一、五〇
人生の教訓たるべき古今東西の資料を宗派、學說等に偏せずして三百六十五日に配せり。					
成功の時機	(人間萬事) 村上專精	小中	三九四	東亞堂	一、〇〇
成功を急がざるものに期せずして成功ある所以を説き實例を擧ぐ。					
實業成業の要義	井上泰岳編	小中	三四三	博文館	〇、六〇
實業に志す青年への成業訓、處世訓を集む、講述者は一木喜徳郎、河野廣中、添田壽一、澁澤榮一等十二名。					
靜思健闘	田中穂積	中	五六四	廣文堂	一、八〇
青年に對する忠告と獎勵と。					
三宅雪嶺 青年訓	(修道文庫) 修道文庫刊行會編	小中	三五二	修道文庫刊行會	一、〇〇
日本及日本人、實業之世界等より拔萃せるもの。					
青年國民の進路	一木喜徳郎	中	二〇三	大學館	〇、六〇
青年の自覺を促し自治心の養成を論ず。					

清貧論	奥田義人	小中	三〇四	實業之日本社	一、二〇
奢侈贅澤を排し質素勤儉の美風を興さんとす。					
前途の望	柳澤政太郎	小中	三一〇	廣文堂	一、二〇
我國の前途を望みて青年の努力奮起を促したるもの。					
村莊小言	澁澤榮一	小中	五一九	實業の世界社	一、五〇
修養、處世、實業、青年、政治、國交、人物等に關する著者の談話を編む。					
増訂 父の書簡	蘆川忠雄	小	四六〇	至誠堂	一、〇〇
父の其子に送る書簡に擬したる處世訓なり。					
通俗教育道話	第一 安藝喜代香	小中	八三	大日本雄辯會	〇、三〇
通俗平易なる訓話數十題。					
通俗教育道話	第二 安藝喜代香	小中	一一二	大日本雄辯會	〇、四〇
卑近の例を引きて青年子女の徳性涵養に資せんとするもの。					
通俗教育道話	第三 安藝喜代香	小中	八八	大日本雄辯會	〇、三五
通俗平易なる訓話を多く集む。					
通俗教育訓話	足立四郎吉	中	三二九	明誠館	一、〇〇
家庭の教養に關する通俗講話を集む。					
通俗常識訓話	安藝喜代香	小中	一三八	黒潮社	〇、三〇
著者は通俗訓話を以て世道人心を正さんとす、此書亦其一助たるべしと云ふ。					
通俗常識訓話	安藝喜代香	小中	一三八	大日本雄辯會	〇、五〇
平常の間に高尚優美の常識を啓發せんと目的にて、教訓となるべき俗談四十三種を採録す。					



註補 帝 範 臣 軌	松本 豊多	小中の	二八三	嵩山房	〇、七〇
帝範は唐の太宗文皇帝が修身治國の道を典籍中より採輯したるもの、臣軌は高宗皇帝の皇后たる則天武氏が下たる者の上に事ふる百規を蒐録したるものなり。					
徹 底 せ よ!	米、マ、西村二郎	小中の	二〇八	通俗圖書中央販賣所	〇、五五
青年の弱點を指摘し熱烈なる忠言を與へたるもの。					
道 義 提 要	大西 虎造	小中の	二三三	尙文堂	〇、六〇
漢籍より當世に切實なる聖賢の語辭を抄録して訓解を施せり。					
同 情 の 力	南條 文雄	小中の	四二七	弘學館	一、二〇
著者の教訓、修養等に關する講話集。					
日 本 男 兒 論	大町 芳衛	小中の	三八六	富山房	〇、四五
日本男兒論、神州論其他の教訓論集。					
金言逸話 の 庫 續編	辻 井 享	小中の	八八〇	大日本圖書株式會社	一、二〇
珍說奇談話 の 廣く東西古今の典籍より選集す。					
人 の 心 (大正名著文庫 第十一編)	加藤 熊一郎	小中の	三八六	至誠堂	一、二〇
人の心を中心としたる著者の感想を見聞とを抄録す。					
人 の 道	社會教育學會編	小中の	四八四	榮文館	一、五〇
人の行くべき正道を指示す。					
平 凡 道	棟居 喜九馬	小中の	一三五	丁未出版社	〇、二五
何人にも容易に實行し得べき平凡道徳を説く。					
野 心 論	澤柳 政太郎	小中の	三八六	實業之日本社	一、二〇
大望ある國家は興り野心ある人は發展す、即ち野心の必要ある所以を論じたるもの。					

山鹿素行先生精神訓	樂 歲 堂 編	中	三五二	大江書房	一、五〇
素行先生の平易、簡明なる精神修養訓五百章を選みたるもの。					
世 の 中	三宅 雄二郎	中	五九〇	實業之世界社	一、八〇
雜誌實業の世界に連載せられたる教訓を集む。					
老 人 より 青年 へ	村 田 保	小中の	三〇五	二松堂	一、〇〇
青年の修養、元氣、克己、奮闘等を説けるもの。					
論語と算盤 (縮刷名著叢書 第三十七編)	澁 澤 榮 一	小中の	四〇九	東亞堂	一、〇〇
仁義と殖利とは相容れざるものに非ずとの主旨の訓話を多く集む。					
二宮 報 德 記 傳	石田 傳吉	中	五二二	大倉書店	一、六〇
二宮翁の傳記と其遺業を通俗的に述ぶ、著者は熱心なる報德教の傳道者なり。					
二宮 尊 德 遺 稿	二宮 尊親 編	中	一〇一	中央報德會	三、六〇
遺稿の中に就て最も報德教の眞髓となすべきものを集む。					
歐米の諺と格言 (原文附)	大澤 定吉 編	小	二九五	竹泉社	〇、八〇
多くの諺と格言を集め之を八十五に分類す。					
寸鐵 一 事 一 言	通俗講話會編	小中の	二六一	通俗講話會	〇、三五
個人、家庭、國家、社會に關する先哲の格言、名歌等を集めたるもの。					



怒るな働け嘉悦孝子	小の	三一四	洛陽堂	〇、八〇
著者の處世法感想等を纏めたるもの、所説穩健。				
×奥様と御女中福録恒子	小の	二二六	洛陽堂	〇、六〇
主婦として心得べき事柄をわかりやすく説きたるもの。				
をりくくさ跡見瀧野	小の	三五二	實業之日本社	一、三〇
著者がをりにふれて雑誌等に寄せたる教訓、追憶記、雑話等を収む。				
女らしく(縮刷名著叢書 第十六編) 棚橋純子	小	三五八	東亞堂	〇、八〇
著者の折に觸れ時に臨みて述べたる談話の筆記なり。				
嫁ぐ娘へ室井きさ子	小	二〇四	有文堂	〇、四五
母親の子供に對する真情溢るゝが如し、婦人の好讀物。				
教訓(監草、女大學(婦人文庫) 婦人文庫刊行會編)	小の	四二四	婦人文庫刊行會	〇、八〇
婦女教訓の代表的著作として此四篇を選び原本の挿繪等は其儘翻刻せるもの、欄外に字句の小解を掲げたり。				
結婚前後の修養 田中久編	中	二四三	尙榮堂	〇、九〇
棚橋、鳩山、跡見、山脇、三輪田、喜悅、下田七女史の女訓を編む。				
現代の婦人へ三輪田元道	小の	三三三	博文館	〇、七〇
具體的事實を基礎として婦人の修養を説く。				
是からの若い女 宮田修	小の	四〇三	養賢堂	〇、八五
是からの若い女の心身の持方等に關する教訓。				

番號

今日爲すべきこと 喜悅孝子	小の	三一四	弘學館	〇、九〇
虚榮、贅澤を戒め、強く、優しく働くべきことを説く、現代婦女子の讀物に好適す。				
女子の修養 下田歌子	中	二四八	尙榮堂	〇、二五
少女、少婦、母親の心得其他。				
新女 四書 太田秀雄編	小	二四八	榮文館	一、〇〇
女誡、女論語、女孝經、内訓の四書を和譯す。				
花より實をとれ(縮刷名著叢書 第二十三編) 喜悅孝子	小	四〇六	東亞堂	〇、八〇
修養、教育、私淑、主婦、食物、經濟、時局、料理の諸篇に別つ、著者の主義を知るを得べし。				
久堅町にて安井哲	小の	四一七	警醒社	一、〇〇
一たび雑誌「新女界」等に掲げたるものを纏む、女訓、修養に關する記事を主とす。				
婦人の生涯 高島平三郎	小の	四二五	洛陽堂	一、四〇
嬰兒より老年に至る婦人の心の特質を擧げ、各時代に出遇ひ易き事柄に注意を與へたり。				
無駄なき生活(縮刷名著叢書 第二十九編) 山脇房子	小	三九四	東亞堂	一、〇〇
女の道、婦人と修養等著者の談話、雑誌に公にせる短文を集む。				

### 四 武士道

西洋武士道 譚栗原基	小の	一九八	北星堂	〇、三五
西洋武士道の起源發達を述べ、其典型的英雄たるアーサー大王の事蹟に及ぶ。				
戦争と國民性 芳賀矢一	小の	一五二	富山房	〇、五〇
忠君愛國の精神を益々盛ならしめんが爲、主として武士道を論ず。				



26  
18  
64

東西武士道の比較 高木武 中 三一四 通俗圖書 一、三〇  
 民族的性情と武士道との關係に筆を起し、東西武士道を比較論評すること詳密、卷末に異同對照表を附して一覽に便せり。  
 東西日本魂と獨逸魂 東西比較研究學會編 小中 一五三 法文館 〇、五〇  
 日本魂と獨逸魂の長短優劣を比較研究す。

### 五 修 養

新井白石修養訓 足立四郎吉編 一小 三四二 文陽堂 〇、六〇  
 白石の著書中より立志修養に資すべき文字を採萃す。  
 安心立命論 佛、ラゲナリ等 内外出版協會譯 一中 三〇一 甲陽堂 〇、六〇  
 曩に出版せる人生の目的、死生觀、人生觀、努力の生涯、安心論を合冊せるもの。  
 伊藤仁齋修養訓 附東涯修養訓 足立四郎吉編 一中 三六一 文陽堂 〇、六〇  
 漢文を註釋す。  
 英雄と修養(縮刷名著叢書) 加藤熊一郎 一小 四二四 東亞堂 〇、九〇  
 古今英雄の信仰、修養を敘述す。  
 學生立身策 青木村田幹太郎 一小 二五六 中村書店 〇、二〇  
 簡明に學生立身の方法を述べ、主なる學校を解説す。  
 活修養(大正名著文庫) 前田慧雲 小中 三六九 至誠堂 一、二〇  
 宗教による修養法。  
 安心逆順論 中野天心 小中 五三八 實業之日本社 〇、九五  
 古今東西の例を引ききて逆境と順境を詳説す。

硬修養 大田黑朝興 小中 二八一 文興堂 〇、五〇  
 某聯隊に於ける著者の講演の筆記。  
 向上の意氣 加藤熊一郎 小中 二二〇 泰山房 〇、八五  
 平易の談話、通俗の文章を以て向上法を説く。  
 向上の鐵槌 鈴木貞太郎 小中 四一九 興成館 一、二〇  
 青年の禪的修養、運命、人の一生、富貴の子弟に與ふ等の文章。  
 向上論 尾崎行雄 小中 二五四 國民書院 〇、六〇  
 青年訓、處世訓を主とし教育觀、海外發展策、國家問題等を收む。

現代國民修養訓 玉井廣平編 一中 三五四 傳育堂 一、〇〇  
 圖書、雜誌、新聞より名家の修養に關する論說等を採萃し各小傳を附す。  
 心の修練(縮刷名著叢書) 大内青巒 一小 四一六 東亞堂 一、〇〇  
 修養、家庭、信仰等に關する著者の講演集。  
 心の力 米、高橋正熊譯 小中 三二一 通俗圖書 〇、八五  
 全篇悉く教導訓誡の文字に滿つ。

今後の國民修養 中島力造編 小中 三六六 目黒書店 〇、九〇  
 中島氏以下讀書會員の修養に關する論文を集む。  
 修身三摩地 平井金三 小中 四〇〇 育成會 一、〇〇  
 三摩地とは如何なるものか其方式等を説く。  
 奮闘修養の初旅 宮地猛男 小中 三一四 山口屋 〇、四〇  
 著者が十五歳より三十一歳迄辿り來りし修養の徑路に就て失敗談、實驗談等を述べたり。







信仰を道徳的陶冶の研究	田中 廣吉	一 中	二 三〇三	廣文堂	一、四〇
基とする道徳的陶冶の研究	田中 廣吉	一 中	二 三〇三	廣文堂	一、四〇
兒童期、青年期の信仰心理及び信仰陶冶の研究	田中 廣吉	一 中	二 三〇三	廣文堂	一、四〇
新興國の青年	建部 遜吾	一 小中	六〇二四	莫爾哀社	一、五〇
國際競争の時機に際し、我日本帝國青年の奮起を促す	建部 遜吾	一 小中	六〇二四	莫爾哀社	一、五〇
新國民の修養	浮田 和民	一 小中	三六二三	群書堂	一、〇〇
個人としての修養法及び國民としての修養法を説く	浮田 和民	一 小中	三六二三	群書堂	一、〇〇
眞修養と新活動	加藤 玄智	一 小中	四六四四	廣文堂	一、二〇
修養に關する著者の口演、論文十數篇を收む	加藤 玄智	一 小中	四六四四	廣文堂	一、二〇
心身修養	高木 兼寛	一 小中	二二二五	廣文堂	〇、八〇
心身修養に關する著者の講演、談話等の筆記を蒐む	高木 兼寛	一 小中	二二二五	廣文堂	〇、八〇
心身修養之礎	米、マ、イ、ア、ン	一 中	三五九三	三友堂	一、〇〇
強健、成功、富有、其他一般の幸福を生み出すべき理由と方法とを説く	米、マ、イ、ア、ン	一 中	三五九三	三友堂	一、〇〇
心身修養療法原論	附 檜山式療養法	一 中	四四四四	忠誠堂	一、六〇
心理作用、生理作用を説き、氣質、體質等の改造法、疾病の治療を論ず	檜山 銳	一 中	四四四四	忠誠堂	一、六〇
人生と努力	英、スマイルス	一 小中	三六四五	佐藤出版部	一、二〇
偉人は總て大努力者なりとし其活實例を多く示せり。世の青年に向上的元氣を興ふる大なるものあるべし	井關 二郎	一 小中	三六四五	佐藤出版部	一、二〇
青淵修養百話	澁澤 榮一	一 中	一〇〇〇四	同文館	三、〇〇
著者の各所に於ける講演を編輯せるもの	澁澤 榮一	一 中	一〇〇〇四	同文館	三、〇〇
青年修養讀本	梶山 彬	一 小中	三二〇五	東亞堂	〇、五〇
國民須知の事項を平易に述ぶ	梶山 彬	一 小中	三二〇五	東亞堂	〇、五〇

青年着手の個所	山本 龍之助	一 小	三二二四	洛陽堂	〇、九〇
通俗平易の文章を以て青年の修養法を説く、熱誠なる著者の精神は讀者に非常なる感動を興ふべし	山本 龍之助	一 小	三二二四	洛陽堂	〇、九〇
青年の奮闘處世法を説く	手島 精一	一 中	二〇〇三	大學館	〇、六〇
青年の奮闘處世法を説く	手島 精一	一 中	二〇〇三	大學館	〇、六〇
青年の修養法として禪を説く	友田 宜剛	一 小中	二〇九三	至誠堂	〇、五〇
青年の修養法として禪を説く	友田 宜剛	一 小中	二〇九三	至誠堂	〇、五〇
修養と青年の進路	遠藤 隆吉	一 小中	二六五四	國民書院	〇、七〇
青年の向上發展の良指導者たらんとすと云ふ	遠藤 隆吉	一 小中	二六五四	國民書院	〇、七〇
名士青年勉強法	實業之日本社編	一 中	四五〇三	實業之日本社	一、三五
現代名士の青年時代に於ける勉學法を主とし、修養談、追憶談等をも加ふ	實業之日本社編	一 中	四五〇三	實業之日本社	一、三五
新西洋品性論(一名品性論講話)	英、スマイルス	一 小	五六八五	東亞堂	一、〇〇
品性の力、家庭の力、仲間の感化其他を説く	栗原 元吉	一 小	五六八五	東亞堂	一、〇〇
積極修養と消極修養	英、ブラック	一 中	三七〇三	實業之日本社	〇、九〇
前田 多門	英、ブラック	一 中	三七〇三	實業之日本社	〇、九〇
制限的修養と進取的修養の特質及び其調和を説く	前田 多門	一 中	三七〇三	實業之日本社	〇、九〇
徹底論	加藤 熊一郎	一 小中	三二六五	實業之日本社	一、〇〇
徹底の精神、徹底と信仰、徹底と修養、徹底と處世を論ず	加藤 熊一郎	一 小中	三二六五	實業之日本社	一、〇〇
×精神道歌物語	鈴木 木魅	一 中	二五〇三	忠誠堂	〇、八〇
道歌中に就き最も風教に補益あるもの百數十首を解説す	鈴木 木魅	一 中	二五〇三	忠誠堂	〇、八〇
士心血努力一貫	小崎 都也野編	一 小中	三〇六三	萬卷堂	〇、五〇
大隈伯以下四十餘名士の立志成功談	小崎 都也野編	一 小中	三〇六三	萬卷堂	〇、五〇



ニ	コ	ニ	コ	論語	牧野元次郎	小	二八四	靜思館	〇、七〇	
ニコく處世法、ニコく宗と樂天主義等すべて著者の主義を鼓吹せんとするもの。										
二	宮	尊	徳	修養訓	(偉人修養叢書第六編) 足立四郎吉編	小	三九五	文陽堂	〇、六〇	
原漢文の一節毎に字義と講義を附す。										
日	本	の	精	神	杉浦重剛	小	三一五	廣文堂	一、二〇	
修養に關する文章五十篇を集む。										
×	人	と	し	て	の	道	小原節逸	小	二七五	
通俗的の修養訓。										
奮	闘	主	義	森村市左衛門	小	三〇五	實業之日本社	一、二〇		
奮闘主義論、奮闘主義の土壘、奮闘の舞臺、奮闘主義と境遇、奮闘主義と社會生活、奮闘主義の利得、奮闘的人物の七篇に別つ。										
安	心	ボ	ケ	ツ	ト	經	典	青木幹一	小	三二五
いろは四十八字を頭とする諺、詩歌等を題として、それく關係ある修養談を平易に述べたり。										
道	は	近	き	に	あ	り	大内青樹	小	四一八	
如何なるものを道と云ふか、と云ふ問題に對して通俗的に説明せるもの。										
吉	田	松	陰	修	養	訓	(偉人修養叢書第一編) 足立四郎吉編	小	四一六	
原漢文を解釋し讀み方を附す。										
道	を	求	め	て	蓮	沼	門	三	小	三五九
著者の講演文章等を蒐む修養、教訓に關す。										
よ	く	ぞ	男	に	八	波	則	吉	小	二二八
修養に關する講話を集む。										

### 六 事 蹟

立	志	傳	村上專精	小	四三五	廣文堂	一、四〇			
立志に關係ある講演數篇を集む。										
立	志	奮	闘	森村市左衛門	中	五一〇	榮文館	一、〇〇		
前に發行したる「自助」に補正を加へ書名を改めたるもの。										
立	志	立	功	幸田成行	小	三五四	東亞堂	〇、六〇		
假空談を藉りて、巧に立志立功の必要を説きしもの。										
立	志	論	村上專精	小	四三五	廣文堂	一、四〇			
青年と立志、修養の模範、人の運命等の講演を蒐集す。										
立	身	論	森村市左衛門	小	二九五	榮文館	一、一〇			
諸雜誌に公にせる著者の談話を編輯して立身論と名づけたるもの。										
賢	母	物	語	渡邊新三郎	小	二八二	實業之日本社	〇、六〇		
東西の賢母二十一名を選び、其事蹟を物語體に面白く書き綴れるもの。										
古	今	孝	子	録	(通俗教育叢書第二編) 通俗教育普及會編	中	九一二	通俗教育普及會	三、〇〇	
古今の著名なる孝子の傳記、小説體。										
新	西	國	立	志	篇	英、スマイルス	小	五七二	東亞堂	一、〇〇
自助論の全篇を平易なる口語に翻譯したるもの。										
改	正	西	國	立	志	編	原名自助論 英、スマイルス	小	五一二	
一時洛陽の紙價を高からしめたるもの、縮刷改版。										



神州正氣集 東三千雄編 一小 五五二 東光園 一、二〇

忠節、禮儀、武勇、信義、實素に關する古今の逸話を集む。

眞正の成功者及其成功談 米、クラフツ 中 二七四 (大阪) 進堂 〇、四〇

一度内外出版協會より出てたるものを發行所を代へたるだけなり。

成功の人物々々 青木幹一 小中 二五〇 中村書店 〇、二〇

濠澤榮一、カーネギー、伊藤博文、ビスマルク、福澤諭吉、ワシントン、瀧澤馬、シエクスピリア、乃木希典、ナポレオンの  
簡單なる事蹟。

修養青年立志編 永田新之允 小中 三三九 文陽堂 〇、五〇

偉人の青年時代を傳ふ。

婦人の典型 英、コークラン 小中 三八九 警醒社 一、〇〇

偉人を助成せし幾多名婦の事蹟を列擧したるもの。

×立志道話 桶刺紅 小中 一五〇 天洋社 〇、四〇

英雄偉人の逸話言行中より立志に資するものを集む。

### 七 禮法

國民作法要義 甫守謹吾 一中 四〇〇 金港堂 一、五〇

學校生徒の作法修練の指針とし併せて國民日常作法の參考に供せんとす、輸入。

女子の禮法 下田歌子 一小 一六九 國民書院 〇、四〇

宴會、參觀、神佛禮拜の心得其他少女の知るべき作法一斑を講ず。

×家庭讀物 少年少女の行儀作法 甫守謹吾 一中 三三〇 啓成社 一、〇〇

少年、少女に必要な行儀作法と將來國民たる時に必要な心得と。

禮儀作法精義 松崎雙葉 一中 五六六 南北社 二、〇〇

日常の禮儀と作法の一般を説く。

禮法かゞみ 日野節齋 一中 三〇一 良文堂 一、五〇

和洋禮式の一般を述べ、美容化粧を附録とす。

### と 東洋哲學附術數

増補近世儒林年表 内野五郎三 小中 一二三 日用書房 〇、五〇

永祿四年より慶應三年に至る儒者の年表。

△周公と其時代 林泰輔 一中 八四七 大倉書店 二、二〇

周公の事蹟、學術、周易との關係等を詳述し周代宗法考を附す。

△支那哲學史講話 宇野哲人 一中 四二二 大同館 一、五〇

上古より清朝に至るまでの支那思想史。

東洋思潮講話 手塚宏壽等 小中 三二九 赤城書店 一、〇〇

東洋思潮の概念を略述す。

○ 王陽明詳傳 高瀬武次郎 一中 三六二 廣文堂 一、五〇

往年出版せる同著の改刷。

縮刷 陽明學新論 高瀬武次郎 小中 五一六 文盛堂 一、〇〇

王陽明の略傳と其哲學と倫理等を説く。

番號

番號



水戸學 高橋義雄 一中 一四七 華文社 〇、八〇  
 義公を中心として所謂水戸學を論ず。

管子纂話(漢文大系) 小柳司氣太校 一中 九五七 富山房 二、五〇  
 管子纂話は安井息軒のもの、外數種の圖書を底本とし、晏子春秋は孫星衍の晏子春秋音義等を參考せり。

近思錄(校訂漢文叢書第十冊) 築田勝二校 一中 一〇六六 博文館 一、〇〇  
 築田勝信著近思錄集解便家詳説なり。

小學句讀口義詳解(校訂漢文叢書第九冊) 宇都宮前(遜菴) 一中 六八四 博文館 一、〇〇  
 平易周到なる國字解。

處世孫子講話 塚原靖 三中 六九五 東亞書店 二、三五  
 我國の實例を引きて評釋せり。

四書大講義 學野哲人 一中 二八二 大同館 一、二〇  
 大學の章句を讀方、字義、通解に分ちて講義す、索引並びは附録として支那哲學に關する論文七篇を添ふ。

忠 孝手塚光貴 一小 二〇四 洛陽堂 〇、六〇  
 忠經孝經の簡單なる解釋なり。

三島老子講義 三島毅 一中 三〇六 期治出版協會 一、五〇  
 一章毎に丁寧なる解釋を加ふ。

論語解義 簡野道明 一中 六九四 明治書院 二、五〇  
 講義の方法は分ちて譯讀、章旨、字義、直解、考異、餘義の六項となす。

刷新論 語 成功雜誌社編 一小 七九二 東亞堂 一、五〇  
 論語の各篇を十數名家が分擔して講述せるもの。

九星學と人生 無位眞人 一中 二六二 東亞堂 〇、七五  
 九星學は如何なる根據を有するかを説き進んで人生との關係に及ぼせり。

住宅と家相 葛野壯一郎 一中 一三七 高岡書店 〇、八〇  
 家相の何たるかを明かにし迷信を解く。

哲學的姓名學基礎 運と姓名 和野田勝啓 一小 二二六 東京堂 一、〇〇  
 姓名より來る運命の關係を述べ。

第四教育

い總記

教育講座 日本學術普及會編 一小  
 第一 宗教の學術的研究 加藤玄智君 二  
 第二 自動主義最新教授論 河野清丸著  
 第三 人類の過去現在及未來 丘淺次郎著 四  
 第四 兒童の精神及身體 高島平三郎著  
 第五 近代文藝の背景 内ヶ崎作三郎著 六  
 第六 教育的心理學 松本亦太郎著  
 第七 現今教育思潮批判 吉田熊次著 八  
 第八 感化教育の研究 加藤淺太郎著  
 第九 教育と衛生 富士川游著 十  
 第十 現今の自由意志問題 中島力造著  
 第十一 實驗倫理要義 深作安文著 十一



教 育 學 概 論

野田 義夫 一 中 八五六 同 文 館 二、三〇

初學者に現代教育學の概念を與へんが爲めに編みしもの、記述平明。

學校教育の倫理的基礎及其實際 獨、ミユンシタルベルヒ中 五二六 目 黒 書 店 一、八〇

原名を心理學と教師と云ふ、譯者の論文三篇を附す。

ゲルトロードは如何にして其子を教 瑞、ペスタロッチ 一 中 三九一 育 成 會 一、二〇

著者の教育主義を發表す。

現今教育思潮批判(教育講座) 吉田 熊次 一 小 三一四 日 本 學 術 普 及 會 〇、七〇

現今流布する教育の根本思潮に對し忌憚なき批判を試みたり。

現 今 の 教 育 入 澤 宗 壽 一 中 四九六 弘 道 館 一、六〇

最近教育思想の根柢を探り其歸結を求めたり、教育雜誌に掲げたる小論文數種を附す。

最近の教育思潮(教育新潮) 大瀨 甚 太 郎 一 中 二八四 教 育 新 潮 研 究 會 〇、六〇

教育上の理想主義と自然主義、人格教育の思潮、公民教育の思潮、美術的教育の思潮及作業的教育思想を録す。

自動教育法の原理と實際 河 野 清 丸 一 中 三〇八 兩 圓 社 一、〇〇

自由主義自動主義の教育法を論じ其代表者として理科教授法を最も詳述せり。

自動教育革新の根柢 自働教育研究會編 一 中 二六五 明 誠 館 〇、七〇

自動教育上より教育の革新を論ず、自動主義教育實際叢書の第一編なり。

社會學と教育(國民教育家修 養叢書第一編) 建 部 遜 吾 一 小 二一五 育 英 書 院 〇、五〇

教育問題と社會學との關係を論じたるもの。

人格的教育と公民教育(國民教育家修 養叢書第三編) 三 浦 哲 郎 一 小 二二四 育 英 書 院 〇、五〇

人格教育、公民教育を説明し、現代思潮を批評す。

人格的教育學と我國の教育 中 島 半 次 郎 一 中 三五八 同 文 館 一、二〇

獨逸に起れる人格的教育學の思潮を紹介し我國の教育に對する關係を説く。

人格的教育學の思潮 中 島 半 次 郎 一 中 六〇一 同 文 館 一、八〇

人格的教育學の紹介、解説及批評。

△新教育の理論及實際 米、バートリッヅ 一 中 四九〇 成 美 堂 一、六〇

原書はスタンレーホール博士の著書三百餘種をバートリッヅ氏が涉獵して系統的に整理したるもの。

新理想主義の教育 米、ホー 一 小 三五〇 大 同 館 〇、八〇

遺傳、環境、意志の教育を論じ、人間作成法の哲學を研究す。

動的 教育 の 原 理 塚 原 政 次 等 譯 一 中 三四四 育 英 書 院 一、一〇

動的表出が學習に必要な所以を論ず、現代教育思潮小觀を附したり。

輓近教育事實の進歩 乙 竹 岩 造 一 中 六四〇 目 黒 書 店 二、一〇

輓近伸展の著しき教育事實を闡明す、生活教育の徹底、圖書教育の發達等約二十題あり。

輓 近 の 教 育 思 潮 入 澤 宗 壽 一 中 三二六 弘 道 館 一、三〇

現今の教育思潮を纏めてその特色を闡明せり。

ペスタロッチ全集 小 市 川 愛 村 一 小 五〇四 大 同 館 一、二〇

始めにペスタロッチの生涯を掲げ次にリエンハルトとゲルトロード外三篇を譯述す。

ソリー女史 教育の原理及實際 今 西 嘉 藏 一 小 一〇八 大 同 館 〇、八〇

原理及實際の要點を傳ふ。



モンテッソーリ教育法真髓 河野清丸 一 中 六三六 北文館 二、四〇  
 モンテッソーリ教育法及歐米學者の評論を熟讀玩味して其真髓を紹介す。  
 リーンハルトとゲルトロルド 瑞、ベスタロッチ 抄 小中 四一七 榮文館 一、三〇  
 抄譯。

感化教育の研究(教育講座) 加藤成俊 一 小 二九〇 日本學術普及會 〇、七〇  
 不良少年の生理、特質等を論じ之が感化教育法に及ぶ。

△宗教々育原論(大學講義全集) 谷本富 一 中 七二七 大日本圖書 二、三〇  
 宗教教育の基礎、標準、内容、方法を論じ、現代大哲學者の宗教觀を附す。  
 最新職業教育の研究 川本宇之介 一 中 四六一 目黒書店 一、六〇  
 職業教育の發達、現今の職業教育、職業教育と陶冶、我が國と職業教育其他。

ろ 雜 書

我 觀 人 生 福井彦次郎 小 中 三一〇 日東堂 一、一〇  
 多年育英に盡したる著者の人生雜感を輯む、時に人の意表に出づるものあり。  
 教育及教育學の改造 湯原元一 一 中 五九八 目黒書店 二、〇〇  
 著者の教育及教育學に對する不平の聲なり、實際的教育を主張す。  
 體育 教育 講話 乙竹岩造 一 中 二一〇 柔道會本部 〇、八五  
 柔劍道講習會に於ける講演の筆記。

教育者の新修養(教育新潮叢書第八卷) 乙竹岩造 一 中 二九〇 教育新潮研究會 〇、六〇  
 教育者特に初等教育家の修養法を説く。

教育と人格 下田次郎 小 中 四一六 敬文館 一、〇〇  
 教育と人格に關する著者の短文講演等の結集。

教育の衛生(教育講座) 富士川游 一 小 二一六 日本學術普及會 〇、七〇  
 身體的教育の衛生、精神的教育の衛生に分ち、教育の方法が兒童に及ぼす作用を研究し、兒童の身體に起るべき障礙を除くの手  
 段を講ず。

教育の革新 稻毛金七 小 中 五五一 米倉書店 一、三〇  
 廣く教育界の全般の革新を論ず。

教育の悲劇 稻毛金七 小 中 一七〇 内外教育評論社 〇、四〇  
 エドモンド、ホームズ氏の原著を骨子とせりと云ふ、要は獨斷主義を排し自由主義を取るにあり。  
 勤勞學校の意義及其經營法 白土千秋 一 中 五三八 弘道館 一、五〇  
 勤勞學校の意義特徴を論じ其經營法に及ぶ。

現代思潮と教育 稻毛金七 一 中 四一六 大同館 一、四〇  
 我が國教育界の現状と其思潮の概觀を評論し終りに著者の所謂創造本位の教育觀を述ぶ。  
 今後の教育を如何にすべきか 藤原喜代藏 一 中 五一六 金港堂 一、五〇  
 今後の我學制を如何にすべきかの一編主要部を形成す。

實踐教育上兒童の模倣 福島政雄 一 中 三二四 老鶴園 一、二〇  
 より見たる(通俗學藝叢書第壹編) 兒童の模倣と教育の關係を論ず。  
 新時代の教育 成瀬仁藏 一 中 四二〇 博文館 一、〇〇  
 新時代教育の方針論と方法論。



世界の大勢と大正教育の方針 佐々木吉三郎 一中 六〇四 目黒書店 一、九〇  
 抽象的教育論を排し、世界の大勢日本の進運に伴ふ具體的方針の教育を主張す。  
 農民教育 山崎延吉 一中 三七八 二松堂 一、二〇  
 教育會に於ける講演の筆記に基く。  
 桃太郎主義の教育(縮刷名著叢書 第四編) 巖谷季雄 一小 三五六 東亞堂 〇、九〇  
 桃太郎主義とは開發主義なりと云ふ、常識小觀を附録とす。

慶應義塾 甲府講演 慶應義塾編 一中 三五四 慶應義塾 〇、八〇  
 朝鮮の學制大要、清朝史、經濟學要領、公民教育の講演。  
 通俗資料集誌 第二卷第一輯 加藤熊一郎 一中 二〇一 明誠館 〇、六〇  
 本輯には御即位及大嘗祭に因める講演資料等あり。  
 國民戰時訓話卷一 帝國教育研究會編 一中 二〇七 明誠館 〇、六〇  
 今回歐洲戰亂の由來現狀を述べたるもの。

### は史傳

歐洲教育の進化(大學講義全集 第二輯) 谷本富 一中 五九七 大日本圖書株式會社 一、八〇  
 希臘時代の教育より十九世紀の教育に至る、明治教化の起原を附録とす。  
 近代教育思想史 入澤宗壽 一中 七二四 弘道館 二、〇〇  
 第十七世紀より現今に至る泰西教育思想史。

△提 要 世界教育史 米、モンロー 一中 六四四 文明書院 一、九〇  
 原著は米國に於て廣く採用せらるゝ教育史の教科書なり、文明協會本と同本。  
 文部大臣を中心日本教育之變遷 横山達三 一中 三八四 中興館 一、五〇  
 維新後の文部大臣と併せて其教育の大勢の推移に於ける關係を評論す。

### に兒童研究

學校精神検査法指針 上野陽一 一小 二二〇 心理學研究會 〇、六五  
 各種精神能力の検査法及知能の検査を説明す。  
 個性鑑別法の研究 今村惟善 一中 一六二 清水書店 〇、六〇  
 教育上、刑事政策上、如何にせば個人の性格を察知し得るかを研究す。  
 兒童智腦の發達及教育法 池上弘 一中 四六六 廣文堂 一、八〇  
 神經系統の發達と訓練、養護の實際を説き現代生活との交渉に及ぶ。  
 兒童の世紀 瑞、ケ(エレン) 實譯 一小 四七二 大同館 一、三五  
 兒童中心の教育思潮を徹底的に説けるものなり。  
 兒童之精神及身體(教育講座 第四) 高島平三郎 一小 三五九 日本學術普及會 〇、七〇  
 兒童の精神及身體の發達其教育上の注意等を講述す。  
 兒童の精神生活(教育新潮叢書 第二期第八卷) 高島平三郎 一中 二六六 教育新潮研究會 〇、七五  
 兒童の智力、感情、意志の生活を研究す。  
 兒童保護の新研究 岡村準一 一中 六七三 洛陽堂 二、二〇  
 歐米各國の兒童保護施設を比較し我邦の現狀に説き及ぼせり。



△縮 青年期の研究 米、ホ、良、勇、次、郎、等、譯 小中の 六五四 同文館 一、二〇  
 縮刷を出すに當り譯文の不穩當なる箇所等を改めたりと云ふ。  
 青年期の心理及教育 和、ホ、琳、熊、譯 小中の 五三七 警醒社 一、〇〇  
 諸方面より青年の特質を論じ是が教育法に及ぶ。  
 犯罪と個性の教育 伊、ホ、ム、浦、關、造、譯 一中 四七六 隆文館 一、八〇  
 原名を惡の原因と改善と云ふ。  
 幼児の精神査定及幼児取扱法 三、田、谷、啓 一中 二四五 兒童書院 〇、八〇  
 講習會に於ける講演の筆記なり、著者は醫師なれど講述平易を旨とす。  
 劣等兒童教育の實際 小、林、佐、源、治 一中 五二〇 目黒書店 一、六〇  
 著者六年間の實際經驗。

### ほ 教育行政及法規

△教育行政研究 建、部、遜、吾 一中 八七〇 金港堂 二、七〇  
 廣く歐米各國の行政を視察研究す。  
 日本教育行政法論(教育講座第十編) 武、部、欽、一 一小 四一五 日本學術普及會 〇、八〇  
 教育行政機關、學校、學校衛生等を論ず。  
 教育類典 警、眼、社、編 一小 一四四三 警眼社 一、五〇  
 教育に關する主要なる法規を類別蒐輯す。

法令彙纂	文部省編	一中	二二二九	文部省	二、五〇
------	------	----	------	-----	------

### へ 學校案内

江、田、島、生、活、海、の、中、尉 小中の 五一六 武俠世界社 一、二〇  
 海軍兵學校の學生々活を面白く描きたり。  
 向、陵、生、活、彌、生、ケ、岡、草、人 小中の 三二〇 牧民社 〇、七五  
 第一高等學校の學生々活を趣味深く描きたり。  
 最近東京遊學案内 東、華、堂、編 小中の 二四六 東華堂 〇、五〇  
 遊學者の注意と各學校の規則と。  
 卒業就學顧問 實、業、之、日、本、社、編 小中の 二八九 實業之日本社 〇、四五  
 目的の立て方、各種の職業、學校案内、學生と學費の四篇に分つ。  
 東京活苦學案内 森、總、之、祐 小中の 二五〇 東華堂 〇、三八  
 苦學生に適する職業の一般と學校案内とを收む。  
 東京遊學案内 教、育、會、編 小中の 三七六 大洋堂 〇、五〇  
 東京の主なる學校の規則及入學試驗問題等を收む。  
 私學の三、田、生、活、東、奥、逸、人 小中の 三八八 研文社 〇、七五  
 慶應義塾の過去現在未來を描く、大養毅氏其他諸名士の在學中の逸話など面白し。



と 試 験

最近十ヶ年 試験問題集 川西繁次郎編 二小 一〇三〇 修學堂 七、六〇  
 文部省檢定 受験規則を附す。  
 小學 教員 受験之 槩 日本師範學會編 一中 三九八 日本師範學會 〇、八〇  
 檢定試験問題の解答と受験手續を附す。  
 文部省教員檢定受験案内 佐藤鍾太郎編 小中 三九五 東華堂 〇、六〇  
 第二十五回より二十九回に至る試験問題と各科の参考書目とを附す。  
 文部省檢定 國語漢文受験要訣 吉波彦作編 一中 四二六 内外教育評論社 一、〇〇  
 中等教員 國語漢文受験要訣 吉波彦作編 一中 四二六 内外教育評論社 一、〇〇  
 教育大意受験法並問題解答等を附す。

官立學校 入學試驗 受験者の通弊 試験制度調査會編 小中 二五七 甲陽堂 〇、四〇  
 現今受験生の通弊を指摘し反省を促がせるもの。  
 官立 入學試験問題答案解釋 東華堂編 小中 六二〇 東華堂 〇、七〇  
 高等學校を始め陸海軍の諸學校をも網羅す。  
 高等學校程度 入學受験參考書 積善館編 一中 五二〇 積善館 一、二〇  
 各高等學校教授が試験問題を解釋せるもの。  
 高等 受験の眞隨 高等受験學會編 一中 二八五 明治出版協會 〇、九五  
 各高等專門學校教授及合格者等の談話を主とす。

諸官立 入學試験問題集 東華堂編 小中 二五〇 東華堂 〇、一五  
 官立學校全部。  
 諸官立 入學試験問題集 家田徳仁編 小中 二二〇 芳流堂 〇、一七  
 官立學校全部と東京に於ける專門學校入學者檢定試験問題を蒐む。  
 諸官立 入學試験問題答案詳解 家田徳仁編 小中 七八七 芳流堂 〇、八五  
 大正五年度の入學試験問題を解釋す。  
 選抜 成績 講評 岡本學編 一中 二三三 明治出版協會 一、〇〇  
 各高等學校教授の意見講評。  
 各府 中等學校 入學試験問題集 研文館編 小中 五一三 文研館 〇、五〇  
 縣立 中等學校の問題四千餘を網羅す。  
 中學校 新撰 入學準備書 寶文館編 一中 三一八 寶文館 〇、五〇  
 中學校、女學校入學試験に必要な國語、算術の二科を記述す。  
 中學校 入學試験合格法 積文館編 一中 一八〇 積文館 〇、三五  
 勤勉法、受験心得、模範答案等を掲ぐ。  
 中等 模範 入學準備書 東京教育會編 一中 二二六 東雲堂 〇、三五  
 中學校、高等女學校、實業學校入學の準備として國語と算術を講ず。  
 東京府 各學校入學試験問題及答案 三友堂編 小中 二〇九 三友堂 〇、二二  
 東京府下にある官公私立中等諸學校大正五年度の入學試験問題を集め解答を附す。



ち 海外教育事情

- 歐米學校參觀記 宇都宮虎雄 一中 五四八 大日本圖書 一、五〇  
 著者が明治四十四年六月より翌年七月まで海外に遊び學校に關して見聞したる事項を纏む。  
 歐米教育界の新趨勢 湯原元一 一中 四五三 金港堂 一、五〇  
 主として初等教育界實際的方面の新趨勢を説けり。  
 歐米教育の印象(國民教育家修養叢書第四編) 小林照朗 小中 二〇七 育英書院 〇、六〇  
 著者歐米留學中に得たる教育上の感想を述べ。  
 獨逸の教育 吉田熊次 一中 三八六 富山房 一、三〇  
 獨逸の初等、中等、高等教育、實業教育、女子教育等を論究せり。  
 滿洲 觀幣原坦 一中 三三四 寶文館 一、二〇  
 滿洲殖民教育視察記。

り 教授訓練

- 應用問題に關する新研究 肥後盛熊 小中 四五二 東京出版社 一、三〇  
 各學年の教材に關連したる應用問題の選擇排列には最も注意したりと云ふ。  
 各科教授の實際的革新 濱幸次郎 一中 二九四 教育新潮研究会 〇、六〇  
 (教育新潮叢書第二卷) 形式教授を排し實質主義興味中心主義の教授法を説く。  
 科任教授の研究 吉田賴吉 一中 二二〇 尙文館 〇、七〇  
 小學校上級に於ける科任制の可否效果等を論ず。

教授方面の施設(小學教育實際叢書第三卷)

小學教育研究會編 一中 一九八 目黒分店 〇、六〇  
 各教科目の教授に關する研究施設を論じ各地小學校の實例を擧ぐ。

現代教育教授思潮

乙竹岩造 一中 五六六 目黒書店 一、八〇  
 教育教授に關する新思潮、新意見を批判評論す。

高等小學各科教授細目

第三編 東京青山師範附屬小學編 一中 八〇三 廣文堂 一、五〇  
 修身科、唱歌科、體操科、英語科、商藥科。

最新教授論(教育講座第二編)

河野清丸 一小 三一三 日本學術普及會 〇、六〇  
 英米獨佛の教授論を集めて其長所短所を闡明す。

作業主義教授の新研究

梯英雄 一中 五六四 目黒書店 一、八〇  
 勤勞作業主義の教授法を總論、各論に別ちて詳論す。

各科教授法要義

愛知第一師範附屬小學校編 一中 一二八 成美堂 二、八〇  
 現行法令と國定教科書を活用すべき教授の實際的方面を詳述す。

實驗複式教授法

中島鐵三郎 一中 二二二 明治出版協會 〇、七五  
 二個學年以上を以て編成したる一學級に對する教授法即ち複式教授法を述べ、悉く著者の實驗より成れるもの。

實効主義の各科教授(小學教育實際叢書第四卷)

小學教育研究會編 一中 二九〇 小學教育研究會 〇、六〇  
 各科教授上の缺陷を説き其救濟法を述べ。

實際研究に基きたる初學年教育の革新

久原忠太 一中 六八六 榮文館 二、二〇  
 著者等五箇年餘の實地經驗に基き干渉抑壓の教育を排したるものなり。

分團教授の實驗

清水甚吾 一中 五九三 弘道館 一、八〇  
 學級教授に個別教授を加味したる分團教授の方法と範圍と程度とを説明す。



分團式各科動的教育法 及川 平治 一中 六八二 弘學館 二、二〇  
 動的教育部法を採用すれば分團式教育の精神を徹底する所以を詳論す。  
 分團式動的教育法 及川 平治 一中 五三二 弘學館 一、六〇  
 分團式動的教育法の理論と具體的方案。  
 モンテッソーリ 教育法と其應用 河野 清丸 一中 六三六 同文館 二、〇〇  
 モンテッソーリ 教育法の根本原理を小學兒童に應用せんとす。

形式的取扱を主としたる 國定讀本の文章講話 加勢 藏太郎 一小 四〇四 目黒書店 一、三〇  
 尋常小學讀本十二卷の文章を綜合的に解説し教授者の參考に資せるもの。

國語教育及教授の新潮 保科 孝一 一中 八五四 弘道館 二、五〇  
 歐米各國に於ける國語教育及教授の現況。

國定讀文詳解及取扱方 高成田 忠風編 一中 五六八 目黒書店 一、八〇  
 國定小學讀本の韻文集め形式内容の詳解を試む。

最近國語教授上の諸問題(教育新潮叢書) 保科 孝一 一中 三〇四 教育新潮研究會 〇、六〇  
 國語教授上改良すべき點、國語讀本の改善、國語教育と教員等に就て論じたるもの。

最近綴り方教授の新潮 保科 孝一 一中 四七二 同文館 一、五〇  
 著者の英佛獨に留學中視察して得たる綴り方教授法の改善策。  
 實際的研究 讀方綴方の新主張 友納 友次郎 一中 五〇〇 目黒書店 一、五〇  
 現時の國語教授に對する著者の所見主張を披瀝す。

新潮を汲める 綴り方教授の實際(教育新潮叢書第二期第九卷)

花田 甚五郎 一中 二七九 教育新潮研究會 〇、七五  
 新らしき綴り方教授の方法と實際とを述べ、

綴り方教授の根本的研究 平野 秀吉 一中 五一六 六合館 一、五〇  
 著者多年の研究を積める綴り方教授法を詳論す。

讀方教授の根本的研究 蘆田 惠之助 小中 四五八 育英書院 一、三五  
 尋常一年より高等科に至る讀み方教授法を研究す、著者多年の實地教授を基礎とせり。

讀方教授の新しい研究 山口 德三郎 一中 三七八 以文館 一、三〇  
 讀方教授の研究と實驗。  
 讀方教授法要義 友納 友次郎 一中 四六〇 目黒書店 一、五〇  
 著者多年の研究と實地の經驗とを縷述す。

教科書の活用 地理教授上の諸問題(教育新潮叢書第二期第十卷) 島田 牛稚 一中 三一六 教育新潮研究會 〇、七五  
 を主としたる

地理教授の精神、地理的要素の取扱等を述べ、教科書の活用 歴史教授上の諸問題(教育新潮叢書第二期第十一卷) 白井 規一 一中 三〇七 教育新潮研究會 〇、七五  
 を主としたる

最近變動世界地歴教材集成 第一輯 根來 可敬編 一中 五〇〇 隆文館 一、八〇  
 普通教育に於ける地理歴史に關する最近變動の教授材料を集輯す。



最算術教授法

安東壽郎 一中 四〇七 良明堂 一、七〇

最もソロバン教授に就て力説せり。

擴充 小學校珠算教材及其取扱法 小波邊千代吉 一中 二七五 東出版社 〇、七五

教材取扱法と教授細目及び教材を記述す。

初等數學教授に就きて 大上茂喬 一中 三四二 大倉書店 一、二〇

著者の數年間に亘る實地教授の經驗と大學院に於ける研究とを基礎として、初等數學は數學初步と云ふ意味にあらずとの説を主張す。

珠算教授の目的、教材、教法を叙述し各學年教授の實際案を示せり。

珠算教授法精義 岡千賀衛 一中 四八二 大同館 一、五〇

感覺的指算教授法新免恭恭 小中 三五四 弘道館 一、〇〇

表出主義的指算教授法

指を以て必然的の計數器なりと判斷し、指算の教授法を論ず。

兒童理化實驗の研究

大森乙五郎 一中 二二六 廣文堂 一、二〇

文部省編纂の小學理科書に準據し簡易の實驗法並に兒童に行はしむべき實驗法を説述せり。

物理教材の研究實驗法 折井精四郎 一中 四一六 目黒分店 一、五〇

簡明に物理學を説き小學校教育に適應す。

小學理科書の活用 (教育新潮叢書) 松田良藏 一中 二八八 教育新潮研究会 〇、六〇

尋常小學校五學年より高等小學校に至る小學理科書の各課を追ひて活用法を説きたり。

小學校に農業教授の理論及實際 大塚孫市等 二中 一六一六 六盟館 五、六〇

於ける 小學校農業科の教授參考書、第一編理論、第二編、實際とに分ち下卷は上卷に續きて各材料に就て教授の實際を解説せり。

文部省編纂 小學農業書研究 卷二 農業教授研究会編 一中 四〇〇 六盟館 〇、八〇

文部省編小學農業書乙種の教材の解説、取扱上の注意等を記述す。

歐米諸國手工(教育新潮叢書第十卷) 岡山秀吉 一中 二九二 教育新潮研究会 〇、六〇

教授の實況(教育新潮叢書第十卷) 著者二ヶ年餘の留學中實地視察したる狀況を述べたり。

學校體操教授要目の精神 永井道明 一中 三〇〇 教育新潮研究会 〇、六〇

(教育新潮叢書第五卷) 學校體操教授要目の精神と其實施上の注意等を述べ。

學校體操の原理及び教授法 向井虎吉 一中 三九〇 洛陽堂 一、五〇

體操の根法原理の方面を主として論述したりと云ふ。

詳説 學校兵式教練 河原楠彌 一中 五八二 六盟館 一、八〇

學校教練の精神と並に各動作の根本意義を記述す。

技能科教授論 内海靜 一中 二三八 育英書院 〇、九〇

幼稚園の手工、小學校の手工、圖畫等の教授論。

技能教科實際問題の解決體操編 藤五代策等 一中 三七二 尙文館 一、四〇

數年間の經驗と研究とを基礎とす。

技能教科實際問題の解決唱歌編 市橋なみ等 一中 四四三 尙文館 一、六〇

に於ける 教授上の實際問題に對する解答を集む。



技能教科 實際問題の解決	藤五代策等	一中	二四六	尙文館	一、六〇
に於ける 圖畫編					
東京女子高師附屬小學校に於ける實際の経験よりなる。					
手工科應用 玩具の研究及製作法	藤五代策編	一中	二一〇	目黒書店	〇、八〇
教材としての					
兒童教育の任に當れるもの及玩具製造販賣者の參考に供せんために編めるもの。					
小學校裁縫教授の實際	東京女高師附屬小學校研究會編	一中	二四六	寶文館	〇、八五
教員の參考用。					
小學校家事教材集成	家事教授研究會編	一中	四四二	隆文館	一、六〇
小學校女學校等の家事家政を教授する教師の參考書なり。					
小學校女學校遊技法精義	石橋藏五郎編	一中	二二八	以文館	〇、八五
中學校遊技法精義	寺岡英吉編	一中	二二八	以文館	〇、八五
團體、個人、小團體遊技の多くを解説す。					
尋常唱歌教授書第四學年	田村虎藏	一中	二七六	明治出版協會	〇、七五
教授概論、教授の實際、教授細目に分つ。					
新定畫帖の精神及其利用法	教育新潮叢書第二期第四卷	一中	三〇二	教育新潮研究會	〇、六〇
外國の例等を引ききて新定畫帖の精神と利用法とを説く。					
心理的分類 運動遊戯法體系	川瀬元九郎	一中	三六七	老鶴園	一、二〇
法に従へる	手島儀太郎	一中	三六七	老鶴園	一、二〇
アーノルド博士の心理的分類法に則りて遊戯を十部門に分類せり。					
普通教育 法制の綱領及其教授	教育新潮叢書第二期第三卷	一中	二九四	教育新潮研究會	〇、六〇
に於ける					
歐洲大戰前に於ける列國の形勢を附録とす。					

番號

### ぬ 家庭教育

訓練方面の研究施設	小學教育研究會編	一中	一七四	目黒分店	〇、六〇
各地小學校の訓練實施案を多く掲げたり、小學校教育實際叢書の第五卷とす。					
現今訓練上の諸問題	教育新潮叢書第十一卷 森岡常藏	一中	三〇七	教育新潮研究會	〇、六〇
道徳的訓練と身體的訓練とを論ず、小學校の本旨を附録とす。					
嬰兒よりし	つ け 高橋立吉	一小	二四〇	東亞堂	〇、四〇
中學までの					
優良なる一兒童を假設し、其生ひ立ちを述べてしつけの必用を説けるもの。					
家庭教育の原理及實際	麻生正藏	一中	五九二	北文館	二、四〇
家庭教育の基礎、胎教、良習慣養成法、本性格教育等を論ず。					
×學校より觀たる兒童と家庭	青木折造	一小	二〇三	敬文館	〇、四五
家庭教育の必要、兒童の性質、其育て方を通俗的に詳述す。					
に於ける 家庭生活の準備	教育新潮叢書第二期第七卷				
主として各科教授と家庭生活準備との關係を論じたるもの。					
小學生を父兄保護者のために	葭原善曉	一中	二二一	敬文館	〇、八〇
學校と家庭との連絡、教師と協同に就て平易に講述す。					
母と	子 下田次郎	一小	二三五	實業之日本社	〇、七五
前著胎教の姉妹篇たり、母の情、子の養育等を説く、言文一致體。					



## る 初等教育

- ×新  
すれば 優等生になれる 市川 源三 小中 一二八 學文堂 〇、三五  
子供を伶俐に育て優等生ならしむる方法を平易に説明す。  
最新心理學 初學年新教育 下澤 瑞世 一中 二五七 東京出版社 〇、七五  
児童心理研究に據りて初等教育を解説せるもの。
- 小學教育最新の傾向 山松 鶴吉 一中 二九二 教育新潮研究会 〇、六〇  
小學教育近時の缺陷、畫一教育の打破、小學校經營策、學習法の刷新等を論ず。  
小學教育の現代的革新 小學教育研究会編 一中 二八八 小學教育研究会 〇、六〇  
小學教育實際叢書の第二巻として出でたるもの、個人、家庭、郷土、社會、國民教育等の革新を論ず。
- 小學教育の實際的研究 加納 友市 一中 五五八 實文館 一、八〇  
初等教育の教授訓育等に關する實際問題を研究せるもの。
- 小學教育の新傾向 (小學教育實際叢書臨時増刊) 山松 鶴吉 一中 二一六 小學教育研究会 〇、六〇  
我が國の小學教育は將來如何なる方向に進むべきかを論ず。
- 兒童あさらひの仕方 佐々木 秀一等 小中 四三〇 實業之日本社 〇、六五  
東京高等師範及女子高等師範兩附屬小學校教員諸氏が各科のおさらひ方を丁寧に説明せるもの。
- モンテソリ女子史 池田 藤四郎譯 小中 一三二 實業之世界社 〇、五〇  
モンテソリ女子史の幼児の自由尊重主義を紹介す。

## を 女子教育

- 現代少女と其教育 沼田 藤次 小中 二八六 同文館 〇、九〇  
式的、模倣的教育を排す。
- 少女の教育 馬上 孝太郎 一中 五四三 目黒書店 一、八〇  
著者の經驗と研究。

## わ 學校訓話 附運動會學藝會其他

- お話の研究 水田 光 一中 三九五 大日本圖書株式會社 一、五〇  
父兄及教員の爲に兒童のお話を教育的方面より研究したりと云ふ。
- 學校食卓談話 高野 松次郎 一中 四三八 實文館 一、五〇  
食後の五分乃至十分を利用して子女に話すべき興味ある談話材料百五十を收む。
- 小學校に於ける揭示教育及新講話の新材 酒井 不二雄 小中 三三八 廣文堂 〇、八〇  
毎月其月に關係ある揭示教育及講話の教材。
- 小學校に於ける式辭と訓話 小川 儀三郎 小中 一四七 榮文館 〇、四〇  
式辭と訓話の方法、心得等を述べ實例を挙げたり。
- 國定準據人物講話方資料集成 山崎 定英 一中 六八七 榮文館 二、〇〇  
日本古今の偉人、傑士等約二百人の逸話。

- 小學校に於ける學藝會と運動會 野澤 正浩等 一中 四四二 目黒書店 一、四〇  
學藝會、運動會の種類、價值、從來の通弊、方針等を説き、各學年別及合同の學藝會運動會の例を擧ぐ。



小學校に於ける學藝會及資料 實文館編 一中 四九八 實文館 一、五〇

小學校に於ける一坪農業の實地經營法 野村勝三郎 一中 一四五 成美堂 〇、五〇

### か 國民教育

×國民小讀本 大隈重信 一中 一六〇 丁未出版社 〇、三五

青年義勇讀本 遠藤隆吉編 一中 一九〇 軍友協會 〇、三五

×都市實業新讀本 甫守謹吾編 三中 一五六 明誠館 〇、九〇

立憲國民教本 土屋良造 一中 一二八 實文館 〇、二五

大隈伯著 國民教育の大本 大隈重信編 一中 三二六 明誠館 一、〇〇

國民教育論 (通俗大學文庫 第二編) 大隈重信 一小 一八四 通俗大學會 〇、三〇

獨佛英米 國民教育の比較研究 (教育新潮叢書第二期第六卷) 中島牛次郎 一中 二九五 教育新潮研究會 〇、七五

ケルシエン公民教育及補習教育論 佃井久滿治 小中 二七八 大同館 〇、九〇

ケルシエンシユタイネル氏の公民教育及補習教育論を解説し、評論を試みたるもの。 川本宇之介 一中 四六二 大同館 一、六〇

公民教育の史的觀察と、其理論と實際とを述ぶ。

### よ 少年團 青年團

英少年義勇團の組織と其教育 今西嘉藏 小中 二四九 同文館 〇、八〇

英國少年義勇團の組織、訓練、鍛鍊、愛國心等を紹介す。 社會的國民教育 (一名青年義勇團) 田中義一 小中 一五三 博文館 〇、三〇

少年軍團教範 深尾 小中 四四六 中央報德會 〇、八〇

少年團と青年團 森下岩太郎 小中 四一五 文會堂 〇、八〇

歐米の青少年團の沿革現狀を詳説し我國の優良青少年團に及ぼせり。



新 青 年 團

青年團の組織、事業、經費其他に就ての著者の意見を發表せり。 一八三 目黒書店 〇、五〇

青 年 團 指 針

日英名士數十名の青年團に關する講話集。 二〇〇 青年團研究會 〇、六〇

地方青年團の現在及將來

著者の觀察攻究を發表せるもの、青年團の自覺を促し將來の振興策に及ぶ。 五三四 洛陽堂 一、八〇

我が青年及青年團

(與風叢書 第四卷) 山崎延吉 四〇四 (興風書院) 〇、七五

青年及青年團を訓戒し善導するを目的とす、良著なり。

た 圖書館 讀書法

圖 書 館 小 識

日本圖書館協會編 一〇二四 日本圖書館協會 〇、七〇

讀書の趣味と其方法

平井駒次郎 一七八 國民書院 〇、五〇

讀書 書 法 遠 藤 隆 吉

著者の經驗を基礎として讀書の方法を親切に教へるたもの。 一八四 集團學會 〇、六〇

第五 文 學

い 總 記

新 文 學 百 科 精 講

新潮社編 二一四 新潮社 六、〇〇

文 學 寶 典

伊賀駒吉郎編 三一〇 東洋大學 三、五〇

懷疑と沈黙の傍より

島村瀧太郎 二二一 新潮社 〇、七一

△ギョーリ 社會學よ 藝術

佛、ギョーリ 大西克禮譯 七七三 老鶴園 三、〇〇

近 代 文 藝 の 解 剖

馬場勝彌 四三三 廣文堂 一、五〇

藝術上の理想主義

池崎忠孝 四〇四 洛陽堂 一、三〇

神祕主義者の思想と生活

(近代思想叢書第十編) 吉江喬松 一七八 天弦堂 〇、五〇

東 西 文 學 比 較 評 論

高安三郎 六三一 高安三郎 三、〇〇

東西の重なる詩、劇、小説等及其作者を比較論評す、二十年來研究の結果なりと云ふ。



美術と文學	英、ラ、ス、キ、ン 澤村寅二郎譯	一 中	六〇八	有朋堂	一、二〇
批評	論 稻毛金七	一 中	四二五	大同館	一、〇〇
文學の本質	松浦一	一 中	三七六	大日本圖書株式會社	一、二〇
文學思潮	論 厨川辰夫	一 中	二二〇	大日本圖書株式會社	一、〇〇
文學と人生	藤代禎輔	一 中	四八二	不老閣	一、三〇
文學批評論	波、キ、ン、チ、エ、ス、タ、イ 植松安譯	一 中	五〇五	大成堂	一、三〇
文學批評論	高、山、林、次、郎 神崎正治等編	一 小	九三二	博文館	一、三〇

△比較文學史 佛、ロ、リ、エ、大日本文明協會譯 一 中 六七四 文明書院 二、〇〇  
有史以前より現代に至る世界各國文學の盛衰を説くこと精細を極む、文明協會本と同本。

### ろ 日本文學

### 一 總記史傳

國文口譯叢書	文會堂編	一 中	五	文會堂	鏡 芳賀矢一著
第一編 徒然草	芳賀矢一著	一 中	二	編大	
第三編 萬葉集	折口信夫著	一 中	三	自三	博文館
註國文叢書	池邊義象等校	一 中	四	至四	
第七、八册 源平盛衰記	第九册 水鏡、大鏡、今鏡、增鏡	第十册 榮華物語	第十一册 宇治拾遺物語、池の藻屑(荒木田麗女)		
松陰日記	第十二册 蜻蛉日記、更科日記、濱松中納言物語、とりかへばや物語、方丈記、月のゆくへ	第十三册 宇津保物語上卷	第十四册 宇津保物語下卷、狭衣、住吉物語、堤中納言物語	第十五册 義經記、承久記、北條九代記、第十六册 今昔物語上卷	第十七册 今昔物語下卷古今著聞集
第十八册 神皇正統記、梅松編、櫻雲記、吉野拾遺、十訓抄、十六夜日記					
文藝叢書	吉田成行等校	一 中	七	三	博文館
第六、七、八册 南總里見八犬傳					
第十册 忠義復讐傳					
第十二册 世話浄瑠璃名作集					

近代文藝雜誌 佐々政一 一 中 三六四 育英書院 〇、九〇  
主として江戸時代の文藝に關する研究の断片を輯む。集林子の詩論、西鶴に顯はれし物價、能樂後史其他十餘の題目あり。

△鎌倉室町時代文學史 藤岡作太郎 一 中 五四六 大倉書店 二、〇〇  
大學に於ける故著者の講義を整理したるもの。



日本文學新史 尾上 八郎 一 中 三一〇 東亞堂 一、三〇

△文學に現はれたる我が國民思想の研究 津田 左右吉 一 中 五九三 洛陽堂 二、〇〇  
本卷にては貴族文學の發達時代より其沈滯時代たる承久頃までを研究す。

きのふけふ(明治文化史) 内 田 貢 小の 五三六 博文館 一、四〇

著者の序に「亡友の遺事及事件の追憶を後の文化史を編むものゝ資料として提供す」と、山田美紗、硯友社のむかしの憶出、二葉亭四迷等を收む、行文流麗。

現代作家論 中 村 八郎 小の 三六二 甲陽堂 〇、六〇

日本現代の主なる作家と作品とを評論す。

樗 牛 兄 弟 太 田 資 順 編 小の 五四七 有朋館 一、〇〇

高山林次郎(樗牛)、齋藤良太、同信策(野の人)三兄弟の傳記なり、執筆者大隈伯以下四十餘名士。

德 富 蘆 花 と 哲 學 現代思潮研究會編 小の 三二八 二松堂 一、〇〇

蘆花の人生問題と運命觀、宗教問題と戀愛問題、信仰と心靈問題等を論ず。

德 富 蘆 花 と 其 哲 學 覆 面 冠 者 小の 三六〇 嵩山房 〇、七〇

蘆花と儒教主義、基督教主義、自然觀、人生觀、社會觀、藝術觀等を批評す。

二合集

色 烏 夏 目 金 之 助 一 小 五四一 新潮社 一、二〇

思ひ出すことなど 夏 目 金 之 助 一 小 二六〇 春陽堂 〇、四〇

著者の病床にありし頃の思ひ出を記したるもの、小説二百十日を附す。

金 剛 草(大正名著文庫第二二編) 夏 目 金 之 助 小の 四五四 至誠堂 一、二〇

著者の評論、講演、小品、小説を蒐集す。

子 規 遺 稿 高 濱 清 編 小の 一〇〇四 靑山書店 三、〇〇

嘗て世に出でたる子規句集、竹の里歌、子規小品文集、子規小説集、子規書簡集を合して一冊としたるものなり。

自 然 と 愛 金 子 雄 太 郎 一 小 二三五 新潮社 〇、五五

四季の自然に關する文章、兒を愛する歌等を收む。

集し 菊 中 村 孝 也 小の 二〇四 大日本雄辯會 〇、四〇

月かげの記以下散文、韻文二十餘篇を收む、其名の如く清麗なり。

想 華 及 小 品(増補縮刷樗牛) 高 山 林 次 郎 小の 七九二 博文館 一、五〇

小説春日芳艸之夢其他新に發見したる遺稿多し。

旅 と ふ る 郷 若 山 繁 一 小 二四八 新潮社 〇、五五

著者の紀行文、感想錄、歌等を蒐む。

透 谷 全 集 星 野 天 知 等 編 小の 七九八 同文館 一、五〇

透谷氏が二十五才より其辭世の二十七才に至る作品を全部集めたるもの。

綠 の 國 吉 江 喬 松 一 小 二五八 植竹書院 〇、八〇

前者綠雲、青空、砂丘、旅より旅への五書より小品文、散文、詩等を選集せるもの。

三 物語 草子 日記



宇津保物語 (校註國文叢書 第十三册)	池邊義象校	一中	七六四	博文館	一、三〇
源氏物語 (世界名著物語 第十二編)	窪田通治	一小	二七六	實業之日本社	〇、四〇
訂源氏物語詳解 第一帙	紫式部 池邊義象等編	五中	五二〇	博文館	三、五〇
源氏須磨明石	紫式部 沼波武夫編	一小	一二七	新潮社	〇、三八
新釋源氏物語 卷之二	藤井正男等	一中	五七三	新潮社	二、三〇
古今著聞集 (校註國文叢書 第十七册)	池邊義象等校註	一中	四八七	博文館	一、三〇
古今昔物語集 本朝部上	芳賀矢一編	一中	一〇九	富山房	二、五〇
今昔物語 (校註國文叢書 第十六册)	池邊義象等校訂	二中	一三三	博文館	二、六〇
新譯竹取物語	土屋孤城譯	一中	六九	鐘美堂	〇、三〇
新譯紫式部日記	與謝野晶子	一小	二七六	文淵堂	一、三〇

番號

徒然草 (國文口譯叢書 第一編)	芳賀矢一	一小	二六八	文會堂	〇、八〇
徒然草講話	沼波武夫	一中	七〇〇	東亞堂	二、八〇
徒然草新譯	石井直三郎	一小	四三〇	東京出版社	〇、七五
徒然草新釋	青木保太郎	一小	五八〇	有精堂	〇、八〇
新譯徒然草	吉田兼好 與謝野晶子譯	一小	三三五	阿蘭陀書房	〇、九五
釋註徒然草	坪内孝	一小	三六四	共同出版社	〇、六〇
方丈記評釋	内海弘藏	一小	一七四	明治書院	〇、四五

四文集

イ選集

名士の金科玉條	守田有秋編	一小	二七四	日吉堂	〇、三〇
---------	-------	----	-----	-----	------



傑作文壇の花 日本文藝協會編 一小 四八五 明治出版協會 〇、七〇  
現代文豪の名文四十二篇を蒐む。  
 孤蝶馬場勝彌 現代文集 馬場勝彌後援會編 一中 一三二七 實業之世界社 一、九〇  
氏立候補後援  
 夏目漱石を筆頭に、現代文壇の名家八十氏各一篇以上を寄せて馬場氏を後援す、蓋し空前のことなり價低廉。  
 今日 本軍記 文選 遠山守謹 編 一中 五四八 良書刊行會 二、〇〇  
古今の日本軍記中より趣味多き名文數十篇を採萃す。  
 評釋 新文範 前田 晁 編 小中の 三四二 島村書房 〇、四五  
森鷗外、田山花袋、廣澤柳浪、大町桂月、小栗風葉、夏目漱石等の文章を評釋す。  
 萬朝報懸賞文庫 中央書院編 一小 四〇二 中央書院 〇、五〇  
 余が可笑味を感じたる實例、余が最も感動せし實例、我が自慢話、余が最も痛快を感じたる實例を收む。

### 口家集

銀杏の葉 蔭 茅原廉太郎 一小 二三六 實業之日本社 〇、五五  
自然と人事に關する著者の感想文を集めたり。  
 硝子戸の中 夏目金之助 一小 二七四 岩波書店 〇、六〇  
著者の書齋の硝子戸を通じて見たる人生觀、感想等を收む、一たび東京朝日紙上に連載せられたるもの。  
 銀と 藍日向 小中の 二七三 丁未出版社 〇、八五  
著者の隨筆集なり、文學趣味のもの多し。  
 金門より 梅本 誠一 一中 四五九 新橋堂 一、五〇  
著者の米國に於ける見聞談なり、文に趣味あり。  
 草と 人水野盈太郎 小中の 三九四 植竹書院 〇、九〇  
著者の十年間に亘る小品文の主なるものを選集す。

番號

桂月文選 大町 芳衛 一小 九三五 至誠堂 一、三〇  
紀行、叙事、抒情、議論、書簡、雜の各類に分つ。  
 三太郎の日記 第一 阿部 次郎 二小 一一九三 岩波書店 一、一三  
思想と實行、社會と思想、思想と文章、印象の批評等著者の文章を集めたるもの。  
 透谷選集(代表的名作選集) 北村 門太郎 一小 一五二三 新潮社 〇、三〇  
浪漫主義、主情主義の運動を以て當時の文壇に新聲を鼓吹せし著者の論文「富嶽の詩神を思ふ」以下二十一編を收む。  
 小ひささ窓より 上 司 延 貴 小中の 三一九 大同館 〇、七五  
著者の人生觀、社會觀、感想錄なり。  
 藤村文集 島崎 春樹 一小 三〇六 春陽堂 〇、六五  
著者の青年時代の文章のみを集む、利根川だより、西花餘香、葡萄の木蔭、雲、七曜のすきび其他。  
 日記及消息(増補縮刷本) 高山 林次郎 一小 七〇六 博文館 一、五〇  
全集第六卷牛 姉崎正治等編  
 少年時代の日記「光陰誌行」等を増補す。  
 人間と自然(縮刷名著叢書) 大町 芳衛 小中の 四二〇 東亞堂 一、〇〇  
前著月影集に我が文章の一部を加へて斯く名づけたるもの。  
 筆 草 大町 芳衛 一小 二五〇 榮文館 〇、三五  
著者の文集。  
 文 と 筆 佐々木 信綱 小中の 四二四 廣文堂 一、二〇  
和歐國文學一般、旅行等に關する著者の短文集。  
 有聲 錄 小中 村 清 炬 一中 四八二 廣文堂 一、五〇  
著者の遺稿。

番號



幽 芳 集(大正名著文庫 第十八編) 菊池清 小中の 五一四 至誠堂 一、二〇〇  
 著者の洋行記を主とし小品、雜感集等を加ふ。  
 冷汗 記 大町芳衛 小 三八五 富山房 〇、五〇〇  
 著者の文集。  
 我半生の筆 大町芳衛 小中の 五〇六 廣文堂 一、〇〇〇  
 著者の叢に公にせる「半生の文章」、「筆」の二書を合冊したるもの。

### ハ 論 文

歐洲戦争と思想問題 茅原廉太郎 小中の 二〇三 三友堂 〇、六〇〇  
 歐洲戦争の發展と政治、思想問題を論ず。  
 改造の試み 田中喜一 一中 三二四 新潮社 一、二〇〇  
 文藝に關する論文集。  
 近代生活の解剖 岩野美衛 一中 四二四 廣文堂 一、五〇〇  
 新日本主義、婦人問題、宗教等に關する著者の論文集。  
 御風論集(現代評論選集 第三編) 相馬昌治 小 一五二 新潮社 〇、三五〇  
 生を味ふ心以下十二篇を收む。  
 藝術と哲學との間 石坂養平 小中の 三四一 高踏書房 一、〇〇〇  
 文藝、哲學等に關する著者の論文集。  
 孤獨の悲哀 茅原廉太郎 小中の 四七三 甲陽堂 一、二〇〇  
 大正三年中「萬朝報」「第三帝國」等に掲載せる著者の論文を輯めたるもの。

三 又 書 翰 竹越典三郎 小中の 二八〇 西社 〇、六五〇  
 一たび世に出でたる三又書翰に續編を加へて一冊とす、書簡録なれど政治上の議論等多し。  
 殘 飯 永井柳太郎 小中の 四一四 南北社 一、〇〇〇  
 超人耶穌、死生、現代、政治、女性、黃人白人、凡非凡等の演説の集録。  
 自 傷 錄 湯原元一 小中の 二八〇 實業之日本社 〇、九〇〇  
 世態人事に關する著者の所見及所感を蒐めたり。  
 時代と思想(警世叢書 第一編) 谷本富 小中の 三五六 日月社 〇、九〇〇  
 明治二十年頃より現今に至る著者の論文集にして、孔學總論以下三十篇、哲學教育に關するもの多し。  
 舌の先とペンの先 平沼淑郎 小中の 三八四 榮文館 一、〇〇〇  
 社會、經濟等に關する著者の口演、論文を編む。  
 縮時務一家言 徳富猪一郎 小 四〇〇 民友社 〇、六〇〇  
 當今内外の問題に對して著者の意見を開陳したる論文集にして曾て國民新聞に連載せられたり。  
 社會と人生 浮田和民 小中の 五四〇 北文館 一、一〇〇  
 社會篇には社會及倫理問題、宗教時論、宗教問題を、人生篇には人生問題、青年問題、家庭及婦人題、教育問題を收む。  
 時論及思索(増補縮刷樗牛 高山林次郎 全集第四卷) 姉崎正治等編 小 九一四 博文館 一、三〇〇  
 本卷には政治、宗教、其他國家社會等に關する著者の評論を蒐集せり。  
 眞を慕ひて 大住舜 小中の 四〇〇 健全社 一、二〇〇  
 著者の論文三十五篇を收む。  
 戦後文明の研究 海老名彈正編 小中の 二〇四 洛陽堂 〇、五〇〇  
 戦後の國家主義、社會的形勢、宗教道徳、哲學思潮、美術界、平和運動等に關する諸名家の論文を集む。



想 痕 三宅雄次郎 中 一三六九 至誠堂 三、八〇

蘇峰文選 德富猪一郎 中 一四三四 民友社 三、五〇

大正の青年と帝國の前途 德富猪一郎 中 六八〇 民友社 三、八〇

男子の意氣 佐々木安五郎 小 三五五 泰山房 一、〇〇

海外東西生活の批判 茅原廉太郎 中 四八三 甲陽堂 〇、八〇

獨語と對話 上田敏 小 三二一 弘學館 〇、九〇

怒濤 一 蹴 珮越善重郎 小 五三一 日東堂 一、四〇

人及び女として 興謝野晶子 小 三三四 天弦堂 一、〇〇

舊き文明より新らしき文明へ 中澤重雄 小 三二〇 實業之日本社 〇、八五

無限の道片 上伸 小 二七五 日月社 〇、九〇

著者の最近二三年間に書きたる文藝上の論文を集む。

番 號

番 號

山路愛山講演集 第一、二編 山路彌吉 中 三二九 大江書房 〇、六〇

理想と現實 浮田和民 小 三七九 日月社 一、〇〇

臨川論集(現代評論選集) 中澤重雄 小 一五六 新潮社 〇、三五

黎 明茅原廉太郎 小 四三四 實業之日本社 一、二〇

我等如何に生くべきか 相馬昌治 小 三四六 米倉書店 〇、九〇

最近一ヶ年間の著者の論文集なり、生活上、思想上、文學上の問題を主とす。

### 二紀行文

紀行文 編(文藝叢書) 幸田露伴校 中 七〇二 博文館 一、三〇

名家山水紀行 文章講習會編 小 三三八 東盛堂 〇、三五

名家松韻濤聲 新井無二郎編 小 二五六 共益商社 〇、七〇

古今名家の趣味ある紀行文を蒐む。



艸枕、旅すがた 田山 繇彌 一小 五三八 隆文館 一、〇〇

紀行文を集む。  
 文集 山 水 寫 生 久保 得二 一小 三四七 中央書院 〇、七八

著者の紀行文集なり。  
 紀行 旅 か じ み 遅塚 金太郎 一小 三二四 甲陽堂 〇、五〇

著者の紀行文十數種を蒐む。

### ホ 雑 集

思ふがまゝに 山路 彌吉 一小 三九二 春陽堂 一、〇〇

論文、隨筆等。

狂 犬 厨川 辰夫 一小 三一八 大日本圖書株式會社 〇、七五

強者 弱者 白柳 武司 一小 四二六 東亞堂 〇、九〇

著者の文集。

故郷 他郷 澁川 柳次郎 一小 四〇〇 誠文堂 一、三〇

幼年の思出、南溪和尚、何養主義の發揮、奉天會戰、著述の苦患等內容雜多なり。

雜記 帳 興謝野 晶子 一小 三一六 文淵堂 〇、六五

著者の感想文十數篇を收む婦人問題に關するもの多し。

刷趣味と人物 横山 達三 一小 四六四 中央書院 一、〇〇

著者の文集、人物に關するもの多し。

樂しき思ひ出 原口 鶴子 一小 三九一 春秋社 一、二〇

著者のコロンビア大學々生生活を中心として米國にありし頃の思ひ出。

ダリアの前にて 横山 達三 一小 三五三 大日本雄辯會 〇、五〇

著者の隨筆人物評論等を集む。

田園花と人生 天野 藤男 一小 三一七 洛陽堂 一、二〇

趣味花と 多くの花を咲く時期に分類し其趣味を宣傳せんとす。

花の物語 内山 舜 一小 二七六 實業之日本社 〇、四五

花に關する傳説等。

社會八面 子巖 谷季雄 一小 二三一 大日本雄辯會 〇、五〇

活語 著者一家の社會觀とも云ふべし。

半農 生 活 五十嵐 力 一小 二六二 弘學館 〇、六〇

著者が半農生活の感想、興趣など。

凡人 淨土 相馬 昌治 一小 二四〇 新潮社 〇、六〇

著者最近の感想を縦横に記録せるもの。

マドロスの悲哀 米窪 滿亮 一小 三一四 中興館 一、二〇

美しき海洋文學。

### 五 和 歌

### イ 總 記



現代和歌選集叢書 植竹書院編

第一編 黑曜集	前田洋三著	五小	植竹書院
第二編 萬物の世界	土岐善麿著	第二編 行	人 行
第三編 萬物の世界	樹尾上八郎著	第四編 灰	の 音
第四編 遠			與謝野 實著

韻文講話	山本茂	一中	三九五	共益商社	一、八〇
日本詩歌論	野口米次郎	小中の	二七四	白日社	一、〇〇
露風詩話	三木操	小中の	二二四	白日社	一、〇〇

和歌史の研究 (大日本學術叢書第三編) 佐々木信綱 一中 四二四 大日本學術協會 一、六〇

### 口歌話作歌法

歌に入る道 金子雄太郎 小中の 二六三 盛文館 〇、七〇

歌の作りやう 與謝野晶子 小中の 二四九 文淵堂 〇、七五

著者の経験を主として作歌の方法、心得を説く。

歌道 小倉博 一中 四四三 有朋堂 一、五〇

歌道に關する一切の事項を説く。

作歌問答 窪田通治 小中の 二八二 東雲堂 〇、七〇

初學の人の疑問を起すべき事項を親切に解答す、和歌に關する問答として最も其意を得たるもの。

短歌新講 尾上八郎 小中の 三三六 大日本雄辯會 一、〇〇

修辭學的基礎に立ちて各時代の和歌を研究したりと著者は云ふ。

短歌髓 尾上八郎 小中の 一九六 明治出版社 〇、六〇

歌論集。

和歌作法集 (校註和歌叢書第七册) 芳賀矢一 校 一中 六八二 博文館 一、三〇

松田直光著言葉の直路以下古人の作歌法十數篇を收む。

和歌寶典 武島又次郎 二中 二八三 大正書院 〇、七〇

第一編 詠歌入門 第二編 初學和歌談

### 八選集

現代名家歌選 (校註和歌叢書第六册) 芳賀矢一 校 一中 六二六 博文館 一、三〇

元祿以降明治の初年に至る名家の歌集を收む、賀茂翁家集以下八篇。

現代名歌選 橋田東聲 小中の 三〇〇 白日社 〇、八五

直文、子規、左千夫、寛、晶子、節、信綱、柴舟、薰園、夕暮、牧水其他の名歌を選びて評釋せり。



番 號

三十六人集 (校註和歌叢書第五册) 芳賀矢一編 中 七一〇三 博文館 一、〇〇

一名歌仙家集とも云ふ、大納言公任の選したるもの。

新譯 日本秀歌選 物集高見編 一小 三二九五 嵩山房 〇、八五

有史以來最も傑出せる短歌二百八十餘首を選び之に新譯及註解を加へ、又龜頭には古來の歌人が此等の歌に對する批評を掲げたり、日本短歌變遷史を附録とす。

大正 一 萬歌集 尾山篤二郎編 小の 四三〇三 岡村書店 〇、九五

四季、海、羈旅、戀等に類別せり。

萬葉集上卷 (國文口譯叢書第三篇) 折口信夫 小の 四八六五 文會堂 一、五〇

解釋平易、普通讀者の通讀に便なり。

萬葉集新釋卷一 豐田八千代 一中 三八〇五 廣文堂 一、八〇

解釋は簡明を旨とす。

萬葉短歌全集 土岐善麿編 一小 五五九四 東雲堂 一、二〇

萬葉假名を悉く現今の假名遣ひに改め、讀み易すからしめ、且つ作者別に排列す。

續萬葉集選 (詩歌叢書第二編) 窪田通治編 一小 二九六四 日月堂 〇、五五

萬葉集より短歌及長歌を選び一々解釋を附す。

### 二 家 集

明治天皇 御製謹註 やま と 心 佐々木信編註 小の 二三〇三 博文館 〇、八〇

御製三百餘首を謹録し、註解を加ふ。

英和 對照 明治昭憲兩陛下御製集 英、ロムバード編 小の 一〇〇四 警醒社 〇、六〇

兩陛下の御製を拔萃し一々英譯を附せり。

番 號

昭憲 皇后 御歌百話 足立四郎吉 一中 二二八三 中外出版社 〇、六五

御歌百首を修身上の總目に配列し解釋し奉りたるもの。

金子 薰園集 金子雄太郎 小の 三〇九四 新潮社 〇、六〇

「亡き母の戀しくなりて日もすがら山のおくつきめぐりみしかな」等によりて氏の作風を知るに足るべし。

鴉 と 雨 與謝野 寛 小の 二三四四 東京堂 一、〇〇

著者の歌集。

雲 母 集 北原 隆吉 一小 三六一四 阿蘭陀書房 一、五〇

著者の歌集。

黒 曜 集 (現代和歌選集叢書第一編) 前田 洋二 一小 二四三四 植竹書院 〇、六〇

著者の舊作中より約千首を選集す。

行人行歌 (現代和歌選集叢書第二編) 若 山 繁 一小 二四五四 植竹書院 〇、六〇

著者別離外四冊の中より選集す。

さ く ら 草 與謝野 晶子 小の 三五二四 東雲堂 一、〇〇

短歌四百二十一首、新體詩二十餘篇を収む。

唱 名 中 西 赤 吉 一小 一三五五 抒情詩社 〇、四五

著者の短歌集なり、哀調を帯ぶるもの多し。

白 き 路 尾 上 八 郎 一小 二八一三 有朋館 〇、七五

著者の歌集。



椎園家集海上嵐平 <small>小中の</small>	三九四	元文館	一、四〇
短歌三百講 <small>自作の歌集中より三百首を抜き一々解釋を附す。</small> 典謝野品子 <small>小中の</small>	二八六	文淵堂	一、〇〇
潮 <small>雜誌心の華主筆千亦氏の歌集なり。</small> 鳴石樽千亦 <small>小中の</small>	一九一	竹柏會	〇、八〇
灰 <small>音(現代和歌選集) 著者の歌數百首を選みたもの。</small> 與謝野寛 <small>小中の</small>	二〇四	植竹書院	〇、六〇
舞 <small>著者の最近歌集。</small> 與謝野品子 <small>小中の</small>	二七五	天弦堂	一、〇〇

### ホ新體詩

校歌 <small>一高、三田と一橋、早稻田、高師其他の校歌とそれに伴ふロオマンスを描く、面白し。</small> ロオマンズ出口 <small>小中の</small>	二四四	實業之日本社	〇、六五
--	-----	--------	------

### ママンダラ詩社編

有明、露風、白秋、米次郎、胡夷、醉者、敏達氏の組織するマンダラ詩社の第一詩集なり。	一、二五	東雲堂	〇、七〇
---	------	-----	------

### イ總記

俳諧叢書 <small>佐々政一校</small> 中	五	博文館	
第四編 俳論作法集	第五編 名家俳文集		
第六編 俳人逸話紀行集	第七編 芭蕉翁全集		
俳諧名著文庫 <small>俳書堂編</small> 小中の	第二編 去來抄	向井兼時(去來)著	
第一編 おら が 春	第四編 新花摘	谷口信章(無村)著	
第三編 花屋日記	第六編 芭蕉書簡集	河合曾良(宗悟)著	
第五編 新五子稿	第八編 雪まろげ附奥の細道		
第七編 陸奥千鳥			

新撰俳諧辭典 <small>岩本米太郎編</small> 小中の	六九三	大倉書店	二、五〇
----------------------------------	-----	------	------

俳味と佛法 <small>芭蕉、蕪村、子規の句を引きて布教の資料にせんとするもの。</small> 比叡義圓 <small>小中の</small>	三三二	無我山房	〇、七〇
---	-----	------	------

俳人芭蕉山崎藤吉 <small>芭蕉の史傳及其俳諧を研究す。</small> 一小	三四五	俳書堂	〇、八〇
---	-----	-----	------



花屋日記 (俳諧名著文庫) 釋文 曉 小中 九六五 俳書堂 〇、五〇  
芭蕉終焉記

口俳話作句法

句評及俳話 内藤素行 武田櫻桃四郎 一中 三〇八五 雲泉堂 〇、七五  
宗鑑より其角に至る句評と俳句の意義、要訣、綱領とを述ぶ。  
類祭書屋俳話 正岡 正規 一中 四四二三 文淵堂 〇、七五  
俳諧史、俳諧論、俳人俳句、俳書批評等。  
俳句と自分 高濱 清 小 二八〇四 實業之日本社 〇、四〇  
俳諧論、著者の俳句の註釋等を輯めたる小冊子なり。  
俳句の大道 高濱 清編 小中 一四六五 實業之日本社 〇、四〇  
故子規の俳諧論議を補註したるもの。  
名流俳話 沼波武夫編 小中 二二六五 大日本俳諧講習會 〇、六〇  
巖谷小波氏の伯林夏の季題、淡島寒月氏の國の手形其他數十名家の俳話を集む。

新俳句自在 中内義一 小中 四三二五 二松堂 一、二〇  
初學者の爲に俳句の作りやうを教へたるもの。  
俳句自由自在 武田櫻桃四郎 小 四五二五 いろは書房 〇、七〇  
初歩の人に俳句の作りやうを教へたるもの。

俳句と其作り方 沼波武夫 小 二一四五 平和出版社 〇、五〇  
雜誌等に發表せる俳句に關係ある文を集めたるもの。

俳句とはどんなものか 高濱 清 小 一八八三 實業之日本社 〇、四〇  
雜誌ホト、ギスに六箇月間俳句講義と題し連載したるもの。

俳句のちか道 内藤 素行 小 四五四五 廣文堂 〇、八〇  
俳句に關する著者の談話、辯論、評釋等を集む。

俳句の作りやう 高濱 清 小中 一八八三 實業之日本社 〇、四〇  
説き方極めて平易。

俳句練習法 (文藝練習法叢書) 沼波武夫 小中 一七三三 新潮社 〇、三〇  
初心の手引。

俳諧 便覽 通 巖谷 季雄 小 一〇四二五 博文館 一、五〇  
俳諧の練習法、季題と例句等を掲ぐ。

俳論作法集 (俳諧叢書) 巖谷 季雄 校 中 七〇四三 博文館 一、〇〇  
俳諧或問、俳諧増補提要録、貞享式海印録、俳諧寂菜等を收む。

八選集

元祿、天明、明治時代俳句選 柳下一郎編 小 二〇〇四 木太刀社 〇、三〇  
各句の時代を明にしたるのみならず、季題に一々解釋を附す。  
國定 俳句和歌通釋 附俳句入門 佐々 政一 小中 三七〇五 育英書院 〇、九〇  
國定教科書にある俳句と和歌を平易に解釋したり、俳句入門は口述の筆記なり。



番號

春	夏	秋	冬	正岡正規編	一小	二〇三	叢山書店	〇、六〇		
明治時代の句を集めて春、夏、秋、冬の部の四冊とし出版したるを今回合冊したるもの。										
續	春	夏	秋	冬	河東乘五郎編	一小	五〇四	叢山書店	〇、六〇	
時候、人事、天文、地理、動植物等に別ちて集めたる句集なり。										
新	春	夏	秋	冬	松根豊次郎編	一小	六五〇	叢山書店	〇、八〇	
舊版、春之部、夏之部、秋之部、冬之部の合本。										
新	五	子	稿	(俳諧名著文庫)	靱山仁三郎編	一小	八四五	俳書堂	〇、五〇	
太祇、蕪村、青藜、曉齋、關更五子の作を合して題したるもの。										
新	選	俳	句	大	觀	下山儀三郎編	一小	五〇二	實業之日本社	〇、八五
大正元年より五年まで諸新聞雑誌に掲載せられたる俳句を蒐集して分類す。										
大	正	一	萬	句	今井柏浦編	一小	四〇二	博文館	〇、五五	
ホト、ギス、日本及日本人より蒐集せるもの。										
大	正	句	選	いろは	會編	一小	三三〇	東陽堂	〇、五〇	
新年、春、夏、秋、冬に大別せり。										
中	外	俳	句	抄	内藤素行編	一小	二七八	求光閣	〇、六〇	
明治三十九年以降約五ヶ年問中外商業新報社に掲載せられたる俳句集。										
俳	新	五	萬	句	伊達秋航編	一小	九五〇	如山堂	二、五〇	
新派の秀句と天文、地理等六門別として收めたり。										
模	範	俳	句	大	成	沼波武夫編	一小	四九二	東亞堂	一、五〇
俳諧發端の時代より明治に至る大家百餘名の作句を蒐集す。										

二 家 集

ホト、ギス	雜詠集	高濱清編	一小	二三四	四方堂	〇、五〇			
春夏秋冬に大別し、更に時候、人事等に細別す。									
名家俳句集附、附合集	(俳諧叢書)	佐々政雄一編	中	八四一	博文館	一、〇〇			
延寶二十歌仙、芭蕉句選拾遺、綾錦、俳諧古選、俳諧新選等の諸書を收む。									
子規	寒山落木より	寒川陽光編	一小	三二四	政教社	〇、九〇			
子規の句を季別として編纂す。									
虛	子	句	集	高濱清編	一小	二二五	植竹書院	〇、六五	
ホト、ギスと東京朝日新聞より選集す。									
去	來	抄	(俳諧名著文庫)	向井信章編	一小	一一二	俳書堂	〇、五〇	
俳句を集めたる外、俳論あり、俳諧の最も醇なるものを傳へたりと稱せらる。									
縮	子	規	句	集	河東乘五郎等編	一小	二二六	叢山書店	〇、三五
季節、人事等に分ちたる故子規氏の俳句選集。									
新	子	規	句	集	千葉保編	一小	三二一	東亞堂	〇、六〇
「子規句選」を増補して書名を改めたるもの。									
新	傾	向	句	集	河東乘五郎編	一小	三六七	日月社	一、〇〇
著者の嘗て雑誌に掲載せる旅中句集、海江堂詠草等を合編したるもの。									
芭蕉翁全集	(俳諧叢書)	佐々政雄一編	中	六二六	博文館	一、三〇			
繪詞傳、泊船集、續七部集、七部拾遺等を收む。									

番號



番號

芭蕉句集講義 冬之卷 角田眞平編 小中 二二四 博文館 〇、三八  
 諸家に就て誤謬を質し講義の綿密周到ならんことを期したりと云ふ。  
 燕村句集講義 夏之部 高濱清編 小中 四四五 艮山書店 〇、六〇  
 燕村遺稿講義 鳴雪、子規、虚子、紅綠、碧梧桐、四方太等論議筆記したるものを輯む。  
 縮刷 燕村遺稿講義 正岡正規等 小 一一七 艮山書店 二、四〇  
 合本 燕村遺稿の兩講義を縮刷合本したるもの、講述者は子規、鳴雪、碧梧桐、虚子等なり。  
 碧梧桐句集 河東乘五郎 小 二二八 俳書堂 〇、六〇  
 新俳句、春夏秋冬、ホト、ギス、日本新聞、續春夏秋冬、蚊遣草、日本俳句鈔、新傾向句集等より碧梧桐の句を選集す。  
 陸奥千鳥 俳諧名著文庫 天野桃郷(太白堂) 小中 九二五 俳書堂 〇、五〇  
 元祿九年著者が常磐奥羽に行脚したるときに俳句を集む。

### ホ 俳 文

奥の細道 新釋 萩原藤吉 小 一一〇 抒情詩社 〇、二五  
 評論を交へて奥の細道に現はれたる俳句を解釋す。  
 おらが春 俳諧名著文庫 小林信之(一茶) 小中 六六五 俳書堂 〇、五〇  
 著者が文政二年の日記なり。初めの句に「目出度さもちゆう位なりおらが春」とあり。  
 新花摘 俳諧名著文庫 艮山仁三郎編 小中 五八五 俳書堂 〇、五〇  
 天明頃の卯月八日より水無月十六日までの谷口燕村が俳諧日記なり。  
 俳諧書簡集 手紙雜誌社編 小中 三一八 山木屋 〇、七五  
 俳句入の書簡を集む。

番號

名家俳文集 俳諧譯書 第五册 巖谷季雄編 一中 六九八 博文館 一、三〇  
 許六の風俗文選以下其角、也等有等の俳文を輯めたるもの。  
 俳人逸話紀行集 俳諧叢書 第六册 巖谷季雄編 一中 六三四 博文館 一、三〇  
 紀行と逸話に關する俳書を集めたるもの。  
 芭蕉書簡集 俳諧名著文庫 第六篇 俳書堂編 小中 七〇五 俳書堂 〇、五〇  
 芭蕉翁の書簡三百二十二通を収む。  
 雪まろげ 俳諧名著文庫 第八編 河合曾良編 小中 一二三 俳書堂 〇、五〇  
 芭蕉の奥の細道を附す。

### 七 謡曲 俗曲

謡曲解説 第一編 川島金五郎 小 二九四 謡曲解説發行所 一、五〇  
 熊野、松風外十番を通俗に解説す。  
 謡曲講義 鈴木暢幸 小中 五二六 甲陽堂 一、三〇  
 高砂、嵐山、田村、取長、巴、熊野、羽衣等數十番を解釋す。  
 校註 謡曲叢書 芳賀矢一校 三 二二三 博文館 三、九〇  
 愛壽、忠信以下三百數十番を収む。  
 小 山家鳥蟲歌、小歌惣まくりの二書を校訂註釋せるもの。  
 唄 上田敏編 小 二三四 阿蘭陀書房 〇、六五



新選うた澤端唄全集	湯淺觀明編	小中の	四二六	いろは書房	〇、九〇
新選長唄全集	小関根只誠編	小中の	七九四	いろは書房	一、五〇
江戸長唄三百七十番を採録す。	奥田綾野編	小中の	一九八	有斐閣	〇、三五
俗	子守唄、婚禮唄、盆踊唄、馬子唄等に分ち趣味深きものを選びたり。				
童話及傳説	空想の研究	一中	二六〇	以文館	一、〇〇
童話的空想に就き其種類、内容、特質、系統等を述ぶ。					
俚謡	集文部省編	一中	七四五	共同販賣所	一、二〇
北海道、京都府、外三十縣の俚謡を集む。					
俚謡集拾遺	高野辰之編	一中	四七五	六合館	一、五〇
大竹舜次編					
義に公刊されたる文部省の俚謡集に漏れたるものを輯む、明治年間流行唄を附録とす。					

### は支那文學

#### 一 總記

訂校漢文叢書	久保得二校	五中	二	博文館	
第八册 毛詩國字辨	宇野成之(東山)著		第九册	小學句讀口義評解	宇都宮的(遜菴)著
第十册 近思錄集解便學詳説	築田勝信著		第十一册	古文眞寶前集抄	笑雪著

第十二册 古文眞寶後集抄	笑雪著	七中	富山房	
漢文大系	富山房編			
第十卷 左氏會箋	下上竹添進一郎	第十八卷	文章軌範補注	島田正鈞一校
第十一卷 國策正義	安井小太郎校	第二十卷	淮南子孔子家語	服部宇之吉校
第十九卷 管子	秋話小柳司氣太校	第二十三卷	近楚思錄	岡田正之校
和漢名家の漢詩文中より精神修養に資すべきものを採りてこれを解釋す。	久米卯之彦編	七九四	東京出版社	一、五〇
靖献遺言講話	加藤熊一郎	三四九	東西堂	一、〇〇
字句の解釋と評論。				

#### 二 詩

初等作詩法	森川竹溪	小中の	六三四	文會堂	一、〇〇
春、夏、秋、冬雜等に分ち各題に就いて作例を擧げ解釋を附せり。					
新作詩自在	井土經重	小中の	七〇五	二松堂	一、六〇
初等、高等の二篇に分ち作詩法を詳説す。					

〇



韓 詩 講 義 森 泰 二 郎 <small>小の</small>	一〇〇五	文 會 堂	二、二〇
韓退之の詩に就いて槐南氏の講義せる速記を、門人が整理して一書を成せるもの。			
漢 詩 獎 勵 恩 田 重 信 <small>小の</small>	一八四五	恩 田 重 信	〇、三五
主として和漢名家の漢詩を解釋せるもの。			
山 陽 詩 鈔 註 譯 奥 山 正 幹	一三三三	大 橋 敏 郎	四、〇〇
句義字解詳密を極む。			
東 湖 吉 田 松 陰 正 氣 歌 評 釋 長 田 權 次 郎 述	二三四	大 學 館	〇、二〇
文天祥、藤田、石徂徠の擊蛇笏銘を評釋して卷末に附す。			
續 和 漢 名 詩 鈔 結 城 琢 編	一〇七二	文 會 堂	一、五〇
詠史、讀書、懷古、古跡、名勝等の詩を多く收む。			
新 中 學 名 詩 全 集 池 永 忠 太 郎	四一〇四	春 秋 社	〇、六五
中等教科書に掲載せられたる漢詩を蒐め一々解釋を附す。			
評 註 名 詩 新 選 久 保 得 二 編 <small>小の</small>	五五〇三	博 文 館	〇、八〇
古今東西の名詩を集め一々箋註を施せり。			
富 嶽 詩 集 小 西 古 香 編	五九五	東 京 堂	〇、八〇
富嶽に關する詩を蒐むること三百餘種總て故人の作にして元中五年より大正元年に至る。			
明 治 名 詩 鈔 鷗 夢 吟 社 編	三五〇四	鷗 夢 吟 社	〇、八五
明治時代の名詩を訓話し難句を解説す。			
李 義 山 詩 上 中 卷 森 泰 二 郎 <small>小の</small>	五六八二	文 會 堂	二、四〇
馮浩の施註本、玉溪生詩詳註の次序に據れりと。			

批 點 和 漢 絕 妙 詩 選 杉 山 孚 富 編 <small>小</small>	二八七三	尙 文 堂	〇、六五
邦人の詩は平安朝時代より大正まで漢人の詩は漢代より清朝までを集めたり。			
註 和 漢 百 人 一 詩 岩 垂 憲 德 編 <small>小</small>	二六四三	昭 文 堂	〇、七〇
讀み方と註釋を附す。			
註 和 漢 名 詩 選 附 作 詩 初 歩 奥 村 梅 卓 編 <small>小</small>	三二九四	文 江 堂	〇、六〇
和漢の名詩數百首を選び一々其讀方と大意とを附し、作詩初歩、詩語一覽を附録とす。			
和 名 詩 類 選 評 釋 簡 野 道 明 <small>小</small>	一〇〇〇三	明 治 書 院	一、七五
勸學、節序、名勝、詠史、閨閣、宴會、豪俠、贈答等に分類して評釋す。			

### に 歐 米 文 學

#### 一 總 記

世 界 文 學 物 語 富 山 房 編 <small>小</small>	七八四	富 山 房	一、二〇
失樂園物語外五篇。			
歐 洲 文 壇 印 象 記 野 口 米 次 郎 <small>小の</small>	二七八	白 日 社	一、〇〇
著者が歐洲にありて直接交際したる、バーナード、ショウ以下拾數名家の印象記。			
近 代 思 想 十 六 講 中 澤 重 雄 編 <small>小の</small>	五二四	新 潮 社	一、五〇
ダ・ギンチ、ルツソオ、ニイチエ、スチルナー、トルストイ、ドストイェフスキイ、イブセン、デアキン等の思想の解剖なり。			



縮近代文學十講 厨川辰夫 小中 六一三四 大日本圖書 〇、八五

歐洲近代に於ける文藝思潮の大勢を説く。 歐洲文學の主要なる集團と運動との研究。 十九世紀文學主潮第六篇 矢口達譯 一中 四四〇三 新陽堂 二、〇〇

歐洲文學の主要なる集團と運動との研究。 十九世紀上半の歐洲文學に於ける主要なる集團と運動との研究。 △ゲオルク十九世紀文學の主潮第一 吹田順助譯 一中 九八二四 老鶴園 三、五〇

そゞろあるさ 鹽谷榮 小中 二五〇五 至文堂 一、〇〇

シエレーが西風の歌、キプリングと彼が散文等、英文英詩に關する研究を集む。 縮文學評論 夏目金之助 一小 七四六四 春陽堂 一、三〇

著者の帝國大學に於ける講義を訂正したるもの。 アチソン、スキフト、ポーブ、デフォー四家を評論す。 △文藝復興 興英、貝部重治譯 一中 二九二四 北星堂 一、五〇

所謂文藝復興期の大勢、特色、及主なる作家作品等を評論す。 英文學精講 月川明三 小中 三〇〇四 東亞堂 一、〇〇

雜誌英語世界に連載したるを基とす、簡明に英文學の現勢を知らしむ。 〇

近佛蘭西文學 後藤末雄 一中 三五〇三 文榮堂 一、二〇

ブッチ、ド、ジェルヴェイルの文學史等に據りて近代佛蘭西文學の一般を紹介したるもの。 〇

マロン、ロオランの(近代思想叢書) 思想と藝術(第七編) 内藤濯 小中 一九二四 天鼓堂 〇、五〇

佛國現代の文豪ロオランの思想と藝術を簡単に紹介す。 〇

露國現代の思潮及文學 昇直隆 小中 七五六四 新潮社 一、八〇

露國現代思潮の依つて來れる道を通り、代表的作家數十名と作品とを比較論評す、著者十年來の研究を發表せるものにして出色の好著。 露西亞文學印象記 瀨戸義直譯 小中 三〇五三 中興館 一、〇〇

露西亞印象記の後半を重譯したるもの。 〇

### 二史傳

近代評傳叢書 中興館 一小 三 中興館 〇、五〇

第一卷 アーグスト・ストリンンド 加能作次郎 第二卷 ドストエーフスキイ 瀨戸義直

近代文豪評傳叢書 實業之日本社編 六中 第二編 ツルゲーニエフ 昇直隆著

第一編 ベルグソン 中澤重雄著 第四編 ゴーリキイ 相馬昌治著

第三編 イブセン 中村吉藏著 第六編 オイケン 安倍能成著

第五編 モオパッサン 永井壯吉著 第六編 オイケン 安倍能成著

現代思想家(近代思潮叢書) 第五編 小松武治 一小 二九〇三 警醒社 一、七〇

メチニコフ、オストワルト、メーテルリンク、シヨール、オイケン、ベクグソンの評傳。 〇



シエイクスピア 齋藤 勇 <small>小の</small>	四二六	丁未出版社	一、五〇
シエクスピアの生涯と其作物等を評傳す。			
ドストイェフスキイ 新城 和一 <small>小の</small>	三八四	洛陽堂	一、三〇
評傳。			
トルストイ 佛、瀨正一 <small>小の</small>	三五〇	新潮社	〇、九五
幼年時代よりの生ひ立ちを説き其著書を透して人物を評論せり。			
子の見方 トルストイ 播磨 檜吉 <small>小の</small>	三五二	新潮社	〇、八五
第三子イリヤの父翁回想記を譯したるもの。			
人及藝術家 トルストイ並に 露、メレジュコフスキ <small>小の</small>	六四九	玄黄堂	一、五〇
としてのドストイェフスキ 森田 草平 等 譯			
人として(森田草平譯)、藝術家として(安倍龍成譯)。			
文藝復興の三大藝術家 英、ロ 中山 昌樹 抄譯 <small>小の</small>	一五一	洛陽堂	一、〇〇
三大藝術家を比較論評す、三十餘の作品を挿みて解説を附したり。			
△リッヒアルト・ワーグナー 田村 寛貞 編 <small>中</small>	四七三	岩波書店	三、八〇
ワーグナーの傳記を主とし、思想作品等に亘りて詳叙す。			

### 三文

ギンガ スケッチ・ブック 講義 米、ア 保治 譯 <small>小の</small>	九八四	日進堂	一、七〇
一句一文極めて原文に忠實に譯述せり。			
妹の見たるニイチエ 磯部 泰治 譯 <small>小の</small>	二五四	新潮社	〇、五七
ニイチエの隨筆までを其實妹たるフリドリヒ、ニイチエが自叙傳體に書きたるもの。			

スケッチブック 釋義 河、ア 清彦 譯 <small>小の</small>	六二六	阪東書房	〇、八〇
譯文は漢文直譯體なり。			
西洋徒然草 大村 井知三 編 <small>小の</small>	二二四	北文館	〇、七五
ジョンフォール以下三人の語録の英和對譯、各篇首に原著書の小傳を添ふ。			

○

來るべき時代のために 瑞、ケイ(エレン) 小の 三四二 | 北文館 | 一、二〇 |

現代は若き人々に何を求むるか、平和問題、更新的修養論、少數の四篇を譯せり。

善 惡 の 觀 念 英、イ 宮 允 小の 四一四 | 東雲堂 | 一、二〇 |

英國現代の詩人イエーツの文藝、美術等に關する論文數十を收む。

智 慧 と 運 命 白、メ 谷 正 信 譯 小の 五〇二 | 南北社 | 一、〇〇 |

著者の高遠なる思想を詩の如き散文にて叙述す。

トルストイ論文集 第一 藝術論 露、ト 昌治 譯 <small>小の</small>	五九二	早稻田大學	一、三〇
藝術論はエールマア、モッド氏の英譯より、沙翁論はチエルトコフ氏等の英譯より重譯したりと云ふ。			
人間的な餘りに人間的な(全集一) 生、田 弘 治 譯 <small>小の</small>	五三〇	新潮社	一、六〇
原著者は後に自ら此書を自由思想家の爲めの書冊と云へり。			
ユウゴオ 論 說 集 佛、ユ 恒太郎 譯 <small>小の</small>	二七八	春秋社	〇、八〇
ユウゴオの全集中より最も傑出したる章句を抄譯す。			



新沙翁警句集 坪内士行編 小 三六七 東京毎日新聞社 〇、八五  
沙翁の諸作物より警句を抄譯し人生、死、戀愛、悲哀、女性等に分類す。

### 四詩

- ウラルズマス詩集 英、ウラルズマス 小の 二五〇四 聖書研究社 〇、五五  
原著者の代表的作品五十七篇を選譯し、解説註解を加へたり。
- 英詩評釋 櫻井彦一郎 小の 三九四三 丁未出版社 一、二〇  
名詩の對照評釋。
- 英詩藻鹽草 南日恒太郎 小の 一八三五 北星社 一、〇〇  
スコットの某貴婦人に寄す其他名家の詩數十篇の英和對譯。
- ヴェルレーヌ詩抄 佛、ヴェルレーヌ 小の 三七三四 白日社 一、〇〇  
ヴェルレーヌ詩集を抄譯し卷末に評傳を附す。
- 現代獨逸詩人 秋元喜久雄 小の 三七〇四 南江堂 〇、八〇  
獨逸詩人に關する論文と獨逸の詩歌に關する紹介等を輯む、一度雜誌に出してしもの。
- 湖上の美人 (薔薇叢書) 英、スコット 小の 二〇五四 植竹書院 〇、七〇  
直。
- 詩沙羅の木 森 林太郎 小の 二三四四 阿蘭陀書房 一、〇〇  
譯詩、沙羅の木、我百首の三部より成る。

雷 號

- 失樂園物語 (世界名著物語) 今井國三 小の 二六四三 實業之日本社 〇、四〇  
第八編
- 神曲 地獄 伊、ダンテ 小の 四一三 警醒社 一、二〇  
詳細なる註釋あり
- 聖バウロ 英、マイアズ 小の 一六二四 丁未出版社 〇、五〇  
註解、概評等を附し又卷首に原作者の内的生活史を述ぶ。
- ホーマー物語 (世界名著物語) 松山二郎編 小の 二六八三 實業之日本社 〇、四〇  
イリアッドとオデッセイの梗概。

雷 號

### ほ 印度文學

- 印度文學講話 松村武雄 小の 四七四 阿蘭陀書房 一、二〇  
印度文學の歴史特質を論じ、神話文學、叙事詩、戯曲、寓話等の例を擧げて紹介す。
- 印度文學史 (文學叢書) 英、マクドネル 小の 七〇四五 向陵社 二、五〇  
特に梵文學、婆羅門思想等に就て詳説せり。
- カピールのとタゴール 齋木延太郎 小の 三〇二四 東華堂 〇、九〇  
カピールの哲學、タゴールの詩の研究、詩的宗教論の三編より成る。
- タゴールの捧物 印、タゴール 小の 一三八四 東文堂 〇、四〇  
タゴールの最も尊き詩集と稱せらるゝギタンヂャリの譯なり。



ギタンチヤリ(歌の祭贊) 増野三郎 譯 小中の 二五八 東雲堂 〇、九〇  
 タゴール短詩約八十首を譯したり。  
 英和對タゴールの詩と文 花田兼定 譯 小中の 一二四 ジヤパンタイムス學生號出版所 〇、三〇  
 新月、ギタンチヤリ、美の實感の對譯。  
 名士のタゴール 觀清澤巖 編 小中の 三六八 城南社 〇、六五  
 田中王堂氏のタゴール流行に就ての一觀察以下二十名家のタゴール觀を集む。

### 近代戰爭文學

歐洲戰 痕 佛、ゲエルギエー 小中の 三二四 洛陽堂 一、〇  
 爭美談 涙 岡田次郎 譯 小中の 三二四 洛陽堂 一、〇  
 主として今回の戰爭中に於ける佛蘭西國民等の美談を集む。  
 恩賜の義脚 大塚文雄 一中 三二四 修養會 一、二〇  
 日露戰役に一脚を失ひたる著者の追憶記。  
 近代戰爭文學(自由講座) 村上靜人 編 小中の 二六七 自由社 〇、四五  
 歐洲各國文學者の作品より戰爭を題材とせるものを採り梗概を解説す。  
 雜 囊櫻井忠温 小中の 二八一 丁未出版社 〇、七五  
 歐洲戰を主題となるいろいろの物語。  
 戰爭と巴里島崎春樹 小中の 三三九 新潮社 〇、七五  
 戰時の巴里に於ける見聞、感想記。

### と戯曲

番號

△繪入 淨瑠璃史 水谷弓彦(不倒) 三大 三三四 精華書院 四、五〇  
 繪入淨瑠璃の沿革を述べたるものにて多くの標本を收めたり。  
 演劇脚本集(文藝叢書) 第九册 櫻庭與三郎(纂村) 校 一中 七一二 博文館 一、〇〇  
 河竹默阿彌 河竹繁俊 一中 五八三 演藝珍書刊行會 二、〇〇  
 明治初期に於ける作家默阿彌の傳。著者は故人の孫なり。  
 淨瑠璃名作集(文藝叢書) 第十二册 櫻庭與三郎(纂村) 校 一中 七二四 博文館 一、三〇  
 淀川出世瀧澤以下近松門左衛門、紀海音等の世話物三十二編を收む、文藝叢書は本書を以て完結す。

番號

史劇 十種 山崎小三(紫紅) 小中の 三二〇 啓成社 一、〇〇  
 墮天女 其他四種 坪内雄藏(逍遙) 小中の 一八八 金港堂 〇、五〇  
 南蠻等門前 太田正雄(木下李太郎) 小中の 四二二 春陽堂 一、〇〇  
 俳諧享句樂(現代脚本) 吉井勇 小中の 一五六 通一舎 〇、四五  
 向日葵 武者小路實篤 小中の 六四〇 洛陽堂 一、五〇  
 默阿彌物語 河竹繁俊 編 一小 四三二 春陽堂 〇、八五  
 近代劇 十篇 英、ホーソン等 細田秀造(枯萍) 譯編 小中の 三九三 敬文館 〇、九〇















雪の夜がたり	雪の線路を歩いて	由縁文庫	縮寄生木	盲目の川	夢遊病者 <small>(反響叢書 第四編)</small>	道草	小説 <small>家庭まご</small>	まご	坊ちゃん <small>(代表的名作 選集第二編)</small>	歩	ふたおもて	半生	母なき兒 <small>(家庭文藝叢書 第一編)</small>	鳩の家
長田幹彦	小川健作 <small>(未明)</small>	泉鏡太郎 <small>(鏡花)</small>	徳富健次郎 <small>(蘆花)</small>	長興善郎	江部藏圓 <small>(鴨村)</small>	夏目金之助 <small>(漱石)</small>	稲岡正文 <small>(奴之助)</small>	波邊勝 <small>(霞亭)</small>	夏目金之助 <small>(漱石)</small>	柳川専之 <small>(春葉)</small>	田口鏡次郎 <small>(掬打)</small>	正宗忠夫 <small>(白鳥)</small>	石丸五平 <small>(梅外)</small>	佐藤治六 <small>(紅緑)</small>
一小	一小	一小	一小	小中の	小中の	一中	一中	二中	一小	一小	二中	一小	一小	小中の
四九二	六六二	八四七	一〇一〇	八二五	四六一	四三四	二七五	五八六	一五八	二〇〇	六四四	三九六	一五三	九八二
春陽堂	岡村書店	春陽堂	警醒社	洛陽堂	日月社	岩波書店	東盛堂	春陽堂	新潮社	新潮社	新潮社	春陽堂	團樂社	菊屋
〇、八五	一、〇〇	一、五〇	一、〇〇	一、三〇	一、〇〇	一、五〇	〇、八五	一、五五	〇、三〇	〇、三五	二、三〇	〇、九五	〇、二〇	一、七〇

番 號

白羽箭	稻馬鹿	浪六	縮生	虎	時は過ぎゆく	露	ちりひ	ちか	ちか	断腸	袖垣	姿見	人生の旅	新渦
鏡太郎 <small>(鏡花)</small>	田鹿	全	か	公	長田幹彦	森林太郎 <small>(鷗外)</small>	菊池清 <small>(幽芳)</small>	柳川専之 <small>(春葉)</small>	柳川専之 <small>(春葉)</small>	堀内文麿 <small>(新泉)</small>	泉鏡太郎 <small>(鏡花)</small>	牛井列 <small>(桃水)</small>	村上信 <small>(浪六)</small>	勝霞亭
一小	一小	九小	小中の	小中の	小中の	小中の	小中の	小中の	小中の	一中	小中の	一中	一中	一中
一九七	九八八	六七三	一一四	七六四	三八二	五九二	五三〇	三八二	一六〇	二九〇	二八三	三一五	二七三	二七三
千章館	明文館	至誠堂	文淵堂	菊屋	新潮社	春陽堂	千章館	春陽堂	至誠堂	東亞堂	獻文堂	星文館	明文館	隆文館
〇、三五	一、三〇	一、一〇	二、〇〇	一、七〇	一、二〇	〇、九〇	〇、六〇	一、〇〇	一、二〇	〇、八〇	〇、七五	〇、九〇	〇、九五	〇、九五

番 號











熱い血と冷い頭	長谷川左湘	近	四〇八	東京堂	一、〇〇
衛生小説。					
即智一休和尚	淡路呼潮	編	二七一	大屋書房	〇、四八
月給トリ物語	盜跖犬生		二二二	東亞堂	〇、七〇
野球光榮之勝利	安倍季雄(村羊)		三六一	春秋社	〇、六〇
青年教師の歩める道	稻毛金七(詛風)		五〇九	大同館	一、一〇
世感 想 錄	村上信(浪六)		三二〇	如山堂	一、〇〇
卒業してから	牛後迂人		二九五	佐藤出版社	〇、五〇
大學生の兵隊さん	(奥野他見男)		二八〇	甲陽堂	〇、三五
内珍 談 集	鏡陽學人編		二五六	靖獻社	〇、五〇
新ふるらす物語	永井莊吉(荷風)		五五四	博文館	〇、八〇
若旦那の兵隊さん	たまむし生編		四一八	松陽堂	〇、三五
吾輩の見たる亞米利加上編	保坂歸一		四五四	日米出版協會	一、四〇

世界軍事探偵物語	平井駒次郎(晚村)	中	三二〇	國民書院	〇、五六
戰陣スケッチ	水野廣徳	小	二三五	實業之日本社	〇、三五
次の一戰	(海軍中佐)	中	二六〇	文淵堂	一、二〇
露獨の來襲	原田政右衛門(指月)	中	四二七	新潮社	一、三五

世界名著物語 實業之日本社編

第一編	ホーマー物語	松山二郎(思水)著	第二編	シルレル物語	白鳥省吾著
第三編	ゲーテ物語	谷崎精二著	第四編	ア・サ・エル物語	内山舞(春風)著
第五編	ハレーイ物語	仲木貞一著	第六編	モリエール物語	後藤末雄著
第七編	ユゴーイ物語	廣澤和郎著	第八編	失楽園物語	今井國三(白楊)著
第九編	十日物語	矢口達著	第十編	水滸傳物語	鈴木悅著
第十一編	ゾラ物語	丘草太郎著			

刷噫 無情	佛、ユ、周六(派香)譯	小	六四〇	扶桑堂	一、二〇
哀史(ラブル)	(西洋大著物語) 佛、ユ、周六(派香)譯	小	二二四	新潮社	〇、五〇
教育愛と操上	瑞、ベ、スタ、ロッ、野田、豊、實、譯	中	六七二	隆文館	一、八〇

「リエンハルト、ウント、ゲルトホルド」及其續編とも見るべき「クリストファ、ウント、エルセ」の全譯にして所謂淺膚なる教育小説に非ず、百數十年前の瑞西國農民生活に材を取り、ベ氏獨特の人生觀社會觀を以て、人心根柢の眞教育に對し所見を述べた



るもの。

愛の奇蹟	露、クイブリン	一	九四五	山田書店	〇、八五
アイヴァンホー (世界名著選 第二篇)	大町芳衛(桂月)譯	小	三四四	植竹書院	〇、八〇
赤い部屋	瑞、ストリンドベルヒ	小	五〇七	新潮社	一、六〇
アーサー物語 (世界名著物語 第四編)	内山舞(春風)編	小	三九六	實業之日本社	〇、四〇
アダム以前	米、ロンドン	小	二六五	洛陽堂	〇、八〇
アンナ、カレナニ (西洋大著物語 叢書第四編)	生、田弘次(長江)編	小	二〇三	新潮社	〇、五〇
刷何處へ行	波、シエンキウキツテ	小	六五四	文榮堂	一、一〇
クオ・ワヂス (世界名著選 第三編)	波、シエンキウキツテ	小	三三九	植竹書院	〇、八〇
新イソップ物語 (模範家庭文庫 第四編)	大町芳衛(桂月)譯	中	四四五	富山房	二、二〇
エソップ物語 (模範家庭文庫 第二編)	楠山正雄譯	中	四四五	富山房	二、二〇
イワン・イリツチの死 (トルストイ 叢書第二編)	福士幸次郎譯	小	二九八	新潮社	〇、七〇
ウキンダーミヤ夫人の扇	輪、沼直	小	一九五	不老閣	〇、六〇
小説宇宙戦争	光、用エ	小	四〇六	秋田書院	〇、六〇

雷 號

お菊さん	佛、上豊一郎(白川)譯	小	三七四	新潮社	〇、九〇
叔父の夢	露、ドストエフスキ	小	四一八	東亞堂	一、二〇
オスカアワイルドの傑作	英、ロイヤル	小	二二三	榮文館	〇、八〇
金	飯、田旗郎(旗軒)譯	中	七二二	博文館	一、七〇
カラマゾフの兄弟	露、ドストエフスキ	中	一〇一	文淵堂	二、六〇
カラマゾフの兄弟 (西洋大著物語 叢書第五編)	米、川正夫譯	小	二六三	新潮社	〇、五八
刷巖窟王	佛、チ周六(涙香)譯	小	一一〇	扶桑堂	一、六〇
陷	佛、ゴックウ	中	四六一	博文館	一、三〇
クリスマスカロール (善後叢書 第五編)	英、チッケン	小	一四四	植竹書院	〇、五〇
グリムお伽噺 (模範家庭文庫 第三編)	中、島茂(孤島)譯	中	四八四	富山房	二、三〇
グリムお伽噺講義 上巻	小、笠原昌齋編	中	二九一	精華書院	〇、五〇
獨和對譯。					
グリムの童話 (附評 獨逸國民文庫 第一編)	獨、中根吉譯	小	二〇七	南山堂	〇、五〇
新伊蘇布クルイロフ物語	露、クレイロフ	小	三六二	大盛堂	〇、九〇
現獨逸短篇小説 第二輯	獨、谷真洋譯	中	一三〇	精華書院	〇、四五

雷 號



湖	畔 (獨逸叢書第一編)	獨逸語發行所	〇、七〇
アグリシ	ゴルゴンの首 (世界夜話集第一編)	大有社	〇、一八
死人の家	(近代西洋文藝叢書第六册)	博文館	一、〇〇
小説	サンファミュー	岩田僊太郎	一、〇〇
虐げられし人々		新潮社	二、二〇
懺悔	(近代西洋文藝叢書第十册)	博文館	一、三〇
島娘		扶桑堂	一、七〇
シヤロツク・ホルムス		天竺堂	二、一〇
新アラビヤンナイト	(模範家庭文庫第一編第二編)	榮文館	一、三〇
新アラビヤンナイト	(模範家庭文庫第一編第二編)	富山房	三、八〇
教育	醉人の妻	博愛館	三、六〇
小説	を假りて原著者の教育主義を發表したるもの。	洛陽堂	〇、五〇
ストツクホルム	(ストリンドベルの殉教者) (グ著作集第二卷)	國民書院	〇、八〇
セヴァス	トオボリ	早稲田大學出版部	一、四〇
生の悦び	(近世文學第四編)		

番號

全	戦争と平和 (縮刷全譯)	新潮社	四、五〇
戦争	と平和 (西洋大著物語叢書第二編)	新潮社	〇、五〇
小説	祖國の爲に	博文館	〇、七〇
奇襲	大英國の危機	如山堂	〇、七五
タ	イ	警醒社	一、〇〇
癡人の懺悔		洛陽堂	一、六〇
罪	(カツツエシユテイヒ) (近代西洋文藝叢書第八編)	博文館	一、三〇
罪	と罰 (植竹文庫第三編)	植竹書院	一、四〇
泥濘	結婚の幸福 (近代西洋文藝叢書第九册)	植竹書院	一、四〇
全	天路歷程	博文館	一、三〇
十日	物語 (世界名著物語第九編)	實業之日本社	〇、四〇
獨	探日記	民友社	〇、五〇
トル	ストイ偶意小説集	警醒社	〇、八〇
トル	ストイ民話集	洛陽堂	一、一〇
ド	ン、キホーテ	植竹書院	六、四〇

番號



全 ド ン、 キ ホ ー テ	如 意 杖	縮 野 の 花 (涙香譯縮刷) 第三編	ハ ー デ イ 物 語 (世界名著物語) 第五編	バ ッ ト ボ ー イ 日 記	ハ ニ ヤ	春 の 水	反 逆 者 ユ ダ	復 活 (植竹文庫) 第四編	フ ラ ン ス 文 豪 小 品	ヘ ル マ ン ド ド ロ テ ア (譯註獨逸文學) 叢書 第一編	ポ ン ペ イ 最 後 の 日 (世界名著) 選第一編	貧 し き 人 々	全 名 犬 物 語 (コナン Doyle) 第三編	モ リ エ ー ル 物 語 (世界名著) 第六編	
西、セルゲンテス	佛、ジラルダン	英、ハーデイ	仲木 貞一	伊東六郎	波、シセンキエツチ	露、ツルグーニエフ	露、アンソレーフ	露、トルストイ	佛、ツレモア	湯、浅温	英、リットル	露、ドストイエフ	廣、津和郎	英、コナン Doyle	加藤信正(朝鳥)
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四三三	三四〇	五〇二	二六三	四〇四	二九四	三〇四	二一三	六八四	三二二	一七三	三六四	三七四	四一五	二二三	二〇三
東亞堂	扶桑堂	實業之日本社	高踏書房	東文堂	文正堂	赤坂書院	植竹書院	洛陽堂	南山堂	植竹書院	天鼓堂	天鼓堂	天鼓堂	實業之日本社	實業之日本社
一、五〇	一、〇〇	一、三〇	〇、四〇	〇、八五	〇、八〇	〇、七八	一、八〇	〇、八五	〇、八〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、九五	〇、四五	〇、四〇	〇、四〇

番 號

ユ ー ゴ ー 物 語 (世界名著物) 第七編	ユ ー ト ビ ア (一名理想郷)	ユ ー モ ア 十 篇	幽 霊 塔	アラビ ア 傳 説 ラ ン プ の 大 通 力 (上世界夜話) 卷集第二編	西 一 話 一 言	西 洋 頓 智 集
佛、ユリ	英、モ	米、マクドウェン	英、ベン	野、田	燕雨樓主人	馬場勝彌(孤蝶)
一	一	一	一	一	一	一
二六三	三一〇	二八五	五四六	一〇四	二八二	二七四
實業之日本社	東京堂	丁未出版社	扶桑堂	大有社	丁未出版社	實業之世界社
〇、四〇	〇、七五	〇、八〇	一、三〇	〇、二〇	〇、七五	〇、三五

番 號

### 第六語 學

### い 日 本 語

### 一 總 記

國語の話 (中學國語漢文) 叢書の内 大島庄之助著 小の 六〇九五 英語研究社 〇、七五

主として中學程度讀本を解釋す。



國語 百談 日下部重太郎 小中 二五八四 丁未出版社 〇、七〇

國文 解釋法 塚本哲三 一小 五五四 有朋堂 〇、七五

國文解釋上の心得、受験の注意等を總説篇とし外に解釋篇、文法編あり。

國語解釋要説(高等受験參考) 内海弘藏 小中 五一三五 寶文館 〇、九〇

國語解釋の用意と要件とを盡せり。

國語作 入學試驗及第法 内海弘藏 小中 四八〇 誠之堂 一、〇〇

各高等專門學校入學試験に應ずる人々の爲に著はせる國語解釋、作文、文法の受験準備書。

高等諸學校 國語精義 吉川秀雄 小中 三九一 文洋社 〇、六〇

最近五年間主要官立學校國語問題模範解答集を附す。

諸官立學校 國語問題逐字模範註釋 小山龍之輔編 小中 四三六 北星堂 〇、六〇

入學試験 國語問題逐字模範註釋 小山龍之輔編 小中 四三六 北星堂 〇、六〇

明治四十年以後の問題を解釋す。

諸官立學校 國語模範答案集 吉川秀雄編 小中 三四二 寶永館 〇、六五

入學試験 國語模範答案集 吉川秀雄編 小中 三四二 寶永館 〇、六五

明治四十年より大正五年に至る十ヶ年間の入學試験國語問題と模範答案とを集む。

國定 受験準備國語教本 徳重仲次郎 一中 三二三 中興館 〇、六〇

中學校、女學校、實業學校等に入學する者の自習書。

二字書

×國語學 生辭典 宮内典三郎 中 四七〇 廣文堂 〇、三五

漢文 尋常小學五六年、高等小學、中等諸學校初級程度のもの。

桂新案 日用辭典 大町芳衛 一小 六〇二 盛陽堂 〇、八〇

音と畫とより引くを得、又地名人名の如きは訓方書方の兩方より引くを得るが新案なりと云ふ。

羅馬字 漢辭典 近藤久吉 一小 一〇五四 啓成社 一、〇〇

字索引 中學程度諸學校の生徒などには手頃のものならん。

發音 國語辭典 龍居松之助等編 一小 一三八四 京華堂 一、二〇

橫引 外國語辭典と同じく發音のみによりて索引するを得、印刷も横組なり。

羅馬字 國語辭典 上田萬年 一小 一〇九〇 富山房 一、〇〇

び 羅馬字二十二字のみを用ひて語句を配列しあるが故に搜索に便なり。

△語 原類 解 松村任三 中 三六一 丸善 三、〇〇

日本語の動詞、形容詞、副詞、數詞及び活用例等の語原を研究せるもの。

増こ と ば の 泉 補遺共 落合直文 小中 二六一七 大倉書店 五、五〇

明治四十一年發行したるもの、縮刷。

辭 海郁文舎編 小中 二四四〇 郁文舎 三、〇〇

我國古今雅俗の言語、漢語、洋語を網羅し且和漢の人名地名等主要のものを挿入し、字音假名遣表、註訓地名姓氏字引、和漢

年號早引等を附録せり。

×國語 實用新辭典 友田宜剛 一小 一一〇三 至誠堂 一、五〇

一般實務に従事する人又は學生向にして最も輕便に實用的なり。



國語新辭典 金港堂編 中の 二四七三 金港堂 二、〇〇  
 國語、漢語及び外國轉化語等を五十音順に排列し音訓解釋を附す。  
 漢新辭林 上田保景 二小 一四九二 廣文堂 〇、九〇  
 中等教科書にある單語、熟語を網羅せりと。  
 ×新式自習辭典 橋本留喜編 中の 四八八五 寶文館 〇、五〇  
 小學校教科書、中等國漢教科書等より漢字、熟語、國語等約二萬五千語を蒐む。  
 新國語漢文辭典 小山左文 二小 三五二四 松堂 二、五〇  
 著者新體國語漢文辭林に四萬餘の語句を加へたるもの。  
 大いゝろは引辭典 物集高見 一小 六三七四 盛陽堂 〇、八〇  
 普通一般に用ひらるゝ語辭をいろは順に排列す。  
 大日本國辭典 第一、二卷 上田萬年 二大 二四七三 富山房 一三、五〇  
 アよりシに至る、日本百科大辭典に次ぐ大出版物なり。  
 松井簡治  
 増外來語辭典 勝屋英造編 二小 七三二二 松堂 一、一〇  
 外國語にして今日日本邦人の間に使用せらるゝもの數千語を蒐め之に解釋を加ふ、附録に新語及神話小解あり。  
 日外來語辭典 上田萬年等編 一小 四五六四 三省堂 一、五〇  
 外來語を羅馬字順に排列して解釋す。

### 三文典

△國語の組織 大島正健 中の 三一七三 長風社 一、〇〇  
 主として國語の轉音轉韻等に就いて述べたるもの。  
 問題國文法講義 山根莖園 中の 四四九三 芳流堂 〇、九〇  
 解説 國語法の中に誤り易き點を列舉し實例に就いて一々これを説明せり。  
 新實用日本文典 岡田正美 一中 六〇〇五 金港堂 一、五〇  
 實用を旨とし簡易平明に記述す。

### 四作文イ總記

作文叢書 新潮社編 中の 三三三九 新潮社  
 第十一編 最新描寫法講話 本間久雄著  
 第十二編 最新描寫法實例 本間久雄著  
 新式作文大成 武島又次郎等著 七中 三 博文館  
 第一編 文章法 第二編 作文法例 書翰文  
 第三編 作文法例 敘事文 第四編 同 敘情文  
 第五編 同 儀式文 第六編 同 議論文

美文作新辭典 文學研究會編 一小 四九八 盛林堂 〇、七〇  
 國民文學辭典を改題發行したるもの。  
 新美辭寶典 西村眞次 一小 四二六 富山房 〇、五〇  
 有名なる文學書中より自然に關する美しき敘述を採萃し分類したるもの。



新 描 寫 辭 典 相馬 昌治 一小 四〇六 新潮社 〇、六五

自然、人事の描寫法を簡単に説明し多くの實例を挙げたり。

文字操 舩 明 鑑 柴山 啓一郎 一小 五三三 山陽堂 一、二〇

文字作文に對して側面より中等學生の國漢文に關する知識を養成する資料とす。

讀書 正しき用字法 大町 芳衛 一小 五五六 有精堂 〇、八〇

問違ひ易き文字の正確なる使用法を説明せるもの。

文章 百科 全書 山岸 辰藏 編 一中 一六二八 修學堂 二、五〇

書翰文、記事論說文、祝辭弔祭文、美文の作法、作例を集む、公會演說法を附録とす。

### 口 作方及文範

學生 文 範 巖 谷 季雄 一小 二〇三 廣文堂 〇、四〇

少年男女學生の模範たるべき文を集めたるもの。

模範 紀 行 文 小林 杖吉 一小 三四四 宋榮堂(阪大) 〇、三五

簡潔に紀行文の作法を叙し多くの作例を掲ぐ、語法正確。

作法 議 論 文(新式作文大 大町 芳衛 等 一中 三〇四 博文館 〇、五五

或 第六册) 議論文の内容と體式の整頓法を説明し作例を掲ぐ。

現代 女子 作文 内 山 舜 一中 四八二 博育堂 一、四〇

女子文章の作り方を述べ、書翰文、論說文等の實例を掲ぐ。

資料 現代 新 美文 大庭 三郎 編 一小 三四三 山口屋 〇、三〇

新年、四季、人倫等に分類して短句を集めたるもの、近代名家文範を附す。

高等 女子 新 作文 五十嵐 力 一中 六九五 大日本圖書 二、三〇

高等女學校、女子師範學校の作文教科として又一般婦人の文章稽古の參考書として著したりと云ふ。

最新 描 寫 法 講話(作文叢書 本 間 久 雄 一小 二〇三 新潮社 〇、三〇

新しい文章と古い文章、新らしい描寫法、各種の文章の新味、文範に對する注意と批評に對する態度等の諸論よりなる。

最新 描 寫 法 實例(作文叢書 本 間 久 雄 一小 二〇二 新潮社 〇、三〇

人物、氣分、季節等の描寫實例を挙げ之を評論す。

作 文 及 第 法 岡 本 金 延 一小 一〇三 新進堂(戸神) 〇、三八

中等學校入學試験準備用。

縮 作 文 講 話 及 文 範 杉 谷 虎 藏 編 一小 七一八 富山房 一、六〇

縮刷と同時に増訂せり。

作 文 五 十 講 大 町 芳 衛 一小 四二五 中外社 一、〇〇

文章に關係ある雜話を集めたるもの。

官立學校 作 文 速 成 友 田 宜 剛 一小 二二二 大日本雄辯會 〇、五〇

入學準備 作文受驗者の通弊を指摘し適切なる文例を多く集めたり。

諸官立學校 作文答案文例集 文章 研究 會 編 一小 二四三 東京出版社 〇、五五

入學試験 講義篇と答案實例篇の二部に分つ。

作文 文法 要 說(高等受驗參考 叢書 第二編) 内 海 弘 藏 一小 四八一 寶文館 〇、九〇

作文の良法と適切なる文例と文法體得の方法とを講述す。

作 文 模 範 文 例 集、吉 川 秀 雄 編 一小 二五四 寶永館 〇、四八

官立學校の入學試験問題を集め、模範文として名士大家の文章を選みたり。



雄辯 舌	と	筆 樋 口 秀 雄	小中の	四〇六	二 松 堂	一、二〇
辯論と文章を統一的に研究し初學者を指導せんとするもの。						
小品文練習法(文藝練習法叢書)	第四編	水野 盈 太郎	小中の	一八七	新 潮 社	〇、三〇
十行乃至二十行位の小品文を作る方法を説明す。						
作法叙 景 文(新式作文大成)	第七冊	大町 芳 衛 等	一中	二七六	博 文 館	〇、五五
叙景文上達の手段方法を説明し多くの模範文を挙げたり。						
叙景文練習法(文藝練習法叢書)	第五編	金子 雄 太郎	小中の	一八八	新 潮 社	〇、三五
自然描寫の方法を述べ實例を擧ぐ。						
作法叙 事 文(新式作文大成)	第三冊	久保 得 二 等	一中	三三三	博 文 館	〇、五五
記體文、説明文等の記載文全體に涉る、過半は文例。						
作法叙 情 文(新式作文大成)	第四冊	武島 又 次 郎 等	一中	二九四	博 文 館	〇、五五
始めに叙情文の作法を述べ、次に各種の作例を挙げたり。						
中等學校 新式作文自在		龜 山 興 市	小中の	一六八	積 文 館	〇、三〇
入學準備 普通文及書翰文の準備上の心得と答案例を收む。						
新式 文 上 達 法		文章講習會編	小中の	二二五	東 盛 堂	〇、五〇
普通文、手紙の文の作り方と作例とを掲ぐ。						
新式 文 章 作 法 手 引		文章講習會編	一中	三〇八	東 盛 堂	〇、六〇
普通文、書翰文の作法及作例。						
新撰 記事 文 講 話	佐々 政 一	小中の	三九〇	育英學院	〇、八五	
科學的記事文、美術的記事文に二大別して其作法を述べ、模範文を掲ぐ。						

番 號

番 號

新撰 叙事 文 講 話	佐々 政 一	小中の	四〇〇	育英書院	一、〇〇
叙事文の主想觀察點其他を説明し模範文を挙げたり。					
新體 日記 文 範(新體作文叢書)	樋口 秀 雄 編	小中の	二四二	文 盛 堂	〇、三〇
集むるところ頗る多方面なり面白し。					
大正 秀才 文 集 第二集	友田 宜 剛 編	小中の	四一〇	金 港 堂	〇、五五
中學生等の作文を集めたるもの。					
中 等 作 文 講 話	竹 林 貫 一	小の	三四六	東京出版社	〇、六五
専ら中學程度の生徒に向つて平易に實際的に講述せり。					
現代 二 文 章 作 法 講 話	小室 由 三 編	一中	五一三	萬 卷 堂	一、五〇
十名家 逍遙、歐外、雪嶺、露伴、漱石、醒雪、等二十名家の講話を集む。					
文 章 十 講	内 海 弘 藏	小中の	五九六	日 進 堂	一、二〇
作文根本の用意を講述す。					
文 章 速 達 法	堺 利 彦	小中の	二四六	實業之世界社	〇、六〇
著者三十年來の經驗を基礎として簡明に文章の熟達法を説明す。					
文 章 の 作 り 方	堀 江 秀 雄	小中の	四一九	金 文 館	〇、七五
作文の方法、文體、言語、文字、文法等の話を收む、欄外に金言集あり。					
文 章 の 作 の や ろ	水野 盈 太郎	小中の	二八二	南 總 堂	〇、五〇
従來の型を脱し新しく面白く文章の作りやうを説けり。					
文 章 法(新式作文大成)	武島 又 次 郎 等	一中	三一六	博 文 館	〇、五五
實用を旨とし平易に文章法を説く。					



ハ儀式文

儀式文範 <small>(學生文庫 第四編)</small>	松原至文	一八四	國民書院	〇、三五
祝辭、弔詞等儀式に關する文範を蒐め卷首に作法を説けり。				
近代名家祝賀弔祭文集	小林磐水	三三八	嵩山房	〇、六〇
警察作文教範	警眼社編	三四八	警眼社	〇、一一
警察官に必用なる電文、電報文等を説明し、警察官執務心得等を附す。				
公文用字例	江原善植	四八〇	清水書店	一、〇〇
公文と普通文との差異を示し公文用文字を説明す。				
最新式辭と演説	青年雄辯會編	四一八	二松堂	一、一〇
諸種の典禮儀式に關する式辭と演説とを編めるもの。				
式辭及演説	中央書房編	四八四	中央書房	一、三〇
式辭と模範演説の實例を多く蒐む。				
官吏必携書翰と式辭	鈴木魅編	二五〇	丁未出版社	〇、八〇
主として實例を多く採りたるもの。				
大正式辭と演説	青年雄辯會編	四六八	二松堂	一、二五
落成式、開通式、發會式、博覽會、開學校、卒業式、祝賀會、送別、慰勞會、歡迎會等に於ける式辭と演説とを蒐む。				

ニ書簡文

一日	信	水野盈太郎	一小	三九六	阿蘭陀書房	一、一〇
一年間の手紙の實例を作つて一日に一信づゝを記したり。						
儀式書翰文範	大町芳衛	八八〇	文會堂	一、五〇		
儀式文範、書翰文範の二篇に分つ、題目甚だ多し。						
現代文士の書簡	澁谷八郎編	二九二	連文社	〇、六五		
森田草平、高濱虚子、島崎藤村、響庭篁村其他文士の書簡を蒐む。						
現代代名家書翰集	富山房編	五七五	富山房	一、〇〇		
書翰文講話及文範の別篇なり。						
國定讀本を基礎とせる實用書翰文	淺石恒太郎等	二二〇	齋藤堂	〇、四五		
小學卒業生に對し其學習せるところを基礎として、必用なる日用文に關する知識を與へんとするもの。						
書翰	十ヶ月	大町芳衛	一中	三五三	弘學館	一、〇〇
各月に必要な文例を多く掲ぐ。						
作法書翰文 <small>(新式作文大成 第二册)</small>	大町芳衛編	三〇三	博文館	三、〇六		
書翰文を作る上に適切な用意と、一定の標準とを指示す。						
縮書翰文講話及文範	芳賀虎藏編	六四五	富山房	一、五〇		
縮刷と共に改訂せるところもあり。						
作法書翰文大全	關根正直編	六一八	實業之日本社	一、八〇		
書翰文の變遷、作法書式を叙し終りに古今名文の文範を掲ぐ。						
新實用書翰文	高橋毅堂	一四〇	朝野書店	〇、四五		
高等小學生、中學初級生程度。						







ロ、マ、字、文、自、在、日、下、部、重、太、郎、小中の 二〇〇五 寶文館 〇、五五  
文字の話、言葉の話、文章の話に分つ。

### ろ 漢語(支那語ヲ含ム)

#### 一 總 記

- 漢文解釋要説(高等受驗參考) 池田四郎次郎 小中の 五〇二五 寶文館 〇、九〇  
漢文攻究法、解釋篇に分ちて説明し附録として故事成語と白文數篇を添へたり。  
中等漢文講義 野中元三郎 小中の 三〇〇四 光風館 〇、五〇  
漢文讀法、漢文學修法、漢字學修法の三編より成る、著者二十年來の經驗より案出せるものなりと。  
自修漢文自修新書 福田重政編 小中の 二六〇四 博育堂 〇、六五  
參考用漢文、類似、同文異訓、名數、故事熟語、訓點、句點、返點、復文、桑言妙語、語格等の十篇より成る、中學上級生卒業生程度。  
受驗漢文精解 漢文研究會編 小中の 五九二五 光世館 〇、九〇  
日本外史、十八史略、文章軌範、孟子、論語、史記等より抜粹し講義と語句の解釋を附したるもの。  
文法應用漢文速成新樂 金橋 中 一七五三 山海堂 〇、四五  
三十三講  
最近十五年官學校入學試驗 漢文問題解釋 遠山操編 小中の 六二五五 東華堂 〇、八〇  
漢文問題を集め、之に模擬的の答案と解釋とを施せり。  
官立學校入學試驗漢文問題釋義 塚本哲三編 小中の 五四八五 有朋堂 〇、六五  
明治三十五年より大正四年に至る十四年間の入學試驗問題を解説す。

- 官立學校入學試驗 漢文問題新釋 佐野保太郎編 小中の 四二二五 有精堂 〇、六〇  
最近十年間の試験問題を解釋す。  
中學漢文の話(中學國語漢文叢書の内) 大島庄之助 小中の 五七七八 英語研究社 〇、七五  
獨學にて中學程度の漢文科の實力をつけんとする人々の良參考書なり。

### 二 字 書

- 漢語 海佐久節等編 小 三六〇四 大日本漢文學會 〇、七〇  
中等程度以上の者に適す、語句の解釋簡明。  
五段排列漢字 典露、ロゼンベルグ 小中の 四九三三 興文社 一、五〇  
漢文の形態に就て統一分類するを主義として五段排列をなす。  
漢和大辭書 芳賀剛太郎 小中の 二、五七〇四 興文社 特二、五〇  
著者には前に「漢和大辭林」及其増訂本あり。本書はそれと全く別物にして、十一年の苦心の結果に成りしもの、本字のみならず故事熟語をも加へ、又普通用現代支那語をさへ加ふ。  
縮刷漢和 大辭書 芳賀剛太郎 小中の 九七七四 興文社 特一、五〇  
前者の縮刷。  
線音雙引漢和 大辭典 後藤朝太郎 小中の 二三四一 集文館 二、七〇  
部首畫自由索引を附す。  
和文海字 典 水島慎次郎 小中の 一〇三六 文海堂 一、二〇  
排列は康熙字典に據れり。武田霞堂書の日用語類楷行草字體を卷末に附す。  
最新漢和辭典 岡部精一編 小 五六六四 文永館 一、二〇  
訓み易からざる語詞約五萬を選び、其訓み方を示し、まゝ簡易なる解説を施す、又發音引の詳細なる假名索引を附したり。



新漢和辭典 松平圓次郎編 一小 一九〇四 大倉書店 一、二〇  
 英和辭書體に排列したるを新式とす。  
 縮新譯漢和大辭典 濱野知三郎編 小の 一八八四 六合館 一、五〇  
 漢字一萬六千餘、故事熟語五萬五千餘を輯録し訓義を施せるもの。  
 大漢和新辭 林蓮沼 庄助 小の 七六一三 明誠館 一、〇〇  
 専ら實用に意を注げり中等程度以下の生徒に適す。  
 支那語大辭彙 石山福治 小の 九二四三 文求堂 四、五〇  
 蒐むる所の語數三萬三千以上。

### 三 文典 文字 作文

漢文 譚山岸 輯光 一中 二二九五 奎文館 〇、六五  
 漢文の助辭、語辭、添減法、主客文字排列法、字法等を述べたり。  
 中等漢文 法西脇 玉峰 小の 二六八四 文藝社 〇、七五  
 所説簡明。

誤れる文字 文章 大町 芳衛 一小 四〇〇四 有精堂 〇、六〇  
 字畫の正誤、音訓の正誤、漢語の正誤、文法の正誤、文章の正誤の五章に分つ。  
 訂漢字音の系統 後藤朝太郎 一中 四〇四六 六合館 一、五〇  
 漢字音の法則、分類等を明瞭に説明せり。

番 號

番 號

漢字の形音義 岡井 慎吾 一中 四二六五 六合館 一、五〇  
 漢字の形、音、義に涉りて説明せるもの。  
 文字の起源 (通俗大學文庫) 後藤朝太郎 一小 二〇六五 通俗大學會 〇、三〇  
 簡明に文字の起源を説く、詳細なる索引あり。  
 文字の訓 練 後藤朝太郎 一中 四三〇五 泰山房 一、七五  
 生徒の文字に關する知識は訓練によりて擴張せらるるとの見地よりして之を公にせりと云ふ。

支那語書翰文講話 石山 福治 小の 四一六四 文求堂 一、二〇  
 獨學者の用に供せん目的にて丁寧に説明す。

## は 英 語

### 一 總 記

受験英 語 講 義 清水 起正 一中 三四二 門部書店 〇、五五  
 参考 英 語 講 義 清水 起正 一中 三四二 門部書店 〇、五五  
 ゼ、ニュース、オヴ、ライフ、讀本拔萃、大家小品、文法、翻譯等の講義。  
 英 語 便 覽 長井 氏 最 一小 一〇二一 英語研究社 一、二〇  
 發音、綴字、語法、文法、修辭、イデオム、語彙等。  
 A・B・C より (學生文庫) 第六編 生田 弘治 小の 二〇〇五 國民書院 〇、三五  
 英語の獨修入門書。



最新英語獨修	若目田武次	小の	三一七五	博育堂	〇、八五	
初學者の獨習用として丁寧に語法、熟語其他を説明せり。						
新英語獨修書	吉田幾次郎	小の	三八〇五	寶文館	一、〇〇	
本書は英語讀本卷一の程度より講義を始む。						
新英語獨修初歩	吉田幾次郎	小の	二三三五	寶文館	〇、六五	
全く英語を知らざるものゝ爲に發音より始めて單語までを講述す。						
最高等英語獨習書	吉田幾次郎	小の	四一〇五	寶文館	一、二〇	
中學三年程度以上の學力あるものに適す。						
大英語獨習初歩	英語獨習會編	小	五六三	盛花堂	〇、六〇	
教師に就かずして最初より英語を獨習せしむるを目的とす。						
獨英吉利語研究(外國語研究)	元木貞雄	小	三八五四	日進堂	〇、六〇	
速成的に英語を獨習せんとするものゝ參考書。						
諸官立學校英語試驗問題答案	英語研究會編	小の	一〇八九	芳流堂	一、五〇	
最近十五年間						
英文和譯、和文英譯、文法の三試驗問題を採輯し答案及註譯を附す。						
最近十三年	英語問題解義	野村傳四編	小の	八四九	日進堂	〇、九〇
入學試驗						
英語問題を集め之に詳細精密なる解釋を加ふ。						
最近八年	英語問題答案註解	英語教授法研究會編	小の	七〇一五	東華堂	〇、七五
間官立諸學						
校入學試驗						
一題毎に其翻譯を附したり。						

試驗問題講義	英語之部	瀨川克三編	小	二九三	東海堂	〇、七〇
英文和譯問題を講述す。						

### 二字書

新し	英字	岩森堂	濱五郎保	小	二四五	英語五千字會	〇、四五
現代の新字、新句、新俗語を集む。							
上英和	大辭典	井上十吉	小	二三六	至誠堂	二、五〇	
羅馬字を以て發音を示したるは新式なり。							
英語根柢三千句(根柢英語全書第一編)		勝俣銓吉郎編	小	二七四	有朋堂	〇、五五	
中學三年級以上の程度。							
初英和	辭典	博育堂編	小	八三〇	博育堂	〇、八〇	
専ら初學者の爲に編纂せしもの、中學程度の教科書に現はれたる語を標準とす。							
袖英和	辭典	熊本謙二郎編	小	七一五	有朋堂	、六〇	
		南日恒太郎編	小	七五三	有朋堂	、六〇	
熟語英和	大辭典	林弘三	小	二〇六	松雲堂	一、八〇	
平易簡明なる譯語を用ひたり。							
英和熟語大辭典		神田恒太郎	小	一六五	有朋堂	二、〇〇	
十六世紀以降の熟語成句のみなりと。							
熟語英和中辭典		齋藤秀三郎	小	一五九	日英社	二、五〇	
主なる語には解釋の外熟語を擧ぐるこ豊富。							



新々英和辭典 三省堂編 一小 一四五三 三省堂 一、三〇  
中學程度とす、片假名にて發音を示せり。  
 現代英話 ダイヤモンド辭書 元田作之進編 一小 九八〇三 興文社 〇、九〇  
最小形。

### 三文典

生きた英文法 語學研究會編 小中の 三二〇五 四方堂 〇、七五  
譯讀を兼ねたる範例を用ゆ、趣味ある説明振りなり。  
 英語前置詞用法正解 吉田俊男 小中の 一八五三 尙榮堂 〇、四〇  
前置詞の種々なる正用法を指導す。  
 表解英語力の基礎 住友彦太郎 小中の 四二三 博育堂 〇、二八  
動詞の活用を明瞭に理解せしむ。  
 受験英文法解釋秘訣 間崎勝義 一小 二五三三 敬文館 〇、五〇  
英文法中受験者の知悉すべき事實の大綱を述ぶ。  
 英文法研究 市河三喜 小中の 二九二五 研究社 一、〇〇  
雜誌英語青年に連載せるものを取纏め訂正増補す。  
 英文法講義 山田巖 小中の 五一一三 建文館(大阪) 一、二〇  
中學生及受験生の自修用として平易に説けるもの。  
 英文法辭典 入江祝衛 一小 一三〇四 博育堂 二、二〇  
英作文を作らんとするとき語句の文法關係を知るに極めて便なり。

分類 英文法受験要領 本多孝一 小中の 一九四三 東京堂 〇、五〇  
入學試験問題を蒐集して分類研究す。

作文 英文法新話 吉田幾次郎 小中の 六六七五 英語研究社 一、〇五  
「初等英文法の話」を改訂増補したる者解説の丁寧平明なるを特色とす、第一卷は名詞篇第二卷は代名詞篇第三卷は形容詞篇なり。

英文法の先生 花園兼定 小中の 三〇二五 北星堂 〇、七〇  
英文法に關する印象的講述と挿話なりと云ふ。

英文法の手ほどき中巻(ABC研究) 英語研究社編 小中の 一一一四 英語研究社 〇、三五  
本巻には名詞代名詞形容詞等に就きて親切に解説せり。

英文法の學び方と答へ方 間崎勝義 小中の 二五三四 敬文館 〇、六〇  
高等諸學校受験生參考用。

英文法例題通解 酒井溫理 小中の 三七二二 大同館 〇、七五  
中學上級生以上の程度。

自英文法研究 大島隆吉 小中の 三三五五 日進堂 〇、七五  
中等教科書を參照して解釋し、類例を多く引用せり。

前置詞の意義と用法 高木尙介 小中の 二九四二 實業之日本社 〇、七〇  
前置詞の正確なる使用法の一斑をも記述す、中等程度。

中英文法自修捷徑 元木貞雄 小中の 五二五四 文盛堂 一、〇〇  
中等英文法諸教科書を參考し解釋を平明ならしめたり。

中英文法詳解 吉田潔 小中の 四〇三三 芳流堂 〇、九〇  
平易簡明。



邦語英文法捷徑 中等英語研究会編 小中の 二七三 中等英語研究会 〇、五〇  
 中學生向。  
 邦中學英文法初步 中等英語研究会編 小中の 二二六 中等英語研究会 〇、五〇  
 同會編邦語英文法捷徑の稍程度高きもの。

### 四 作文

英語の作文 高片山 清三郎 寛 小中の 二八五 至文堂 〇、八〇  
 文章の構成法より簡易なる文章を作る方法に入り更に高尚なる程度に進む。  
 英和英語の手紙 橋本 弘 小中の 二七八 南北社 〇、七〇  
 英米のレターライターより拔萃せるもの大部分を占む。  
 英文の講話 英語研究社編 小中の 三一五 英語研究社 〇、五〇  
 やさしく英文の初歩を講述す。  
 英文自修捷徑 元木 貞雄 小中の 四一三 文盛堂 一、〇〇  
 中學上級程度。  
 英文の手引 吉田 俊男 小中の 一二一 英語研究社 〇、三五  
 例題を多く掲ぐ。  
 英文構成法 牧島榮太郎 小中の 一六九 建文館 〇、四〇  
 英文に於て第一困難とする處の語句配置法を精しく説明す。  
 英文の手 八丁岩 堂 保 小中の 一九六 昔語五千字會 〇、四五  
 日用語の活用法を實例を以て示したるもの、熟語等には脚註を施せり。

番 號

番 號

實地英文書翰集 駒井 華南 小中の 三六七 日進堂 〇、九〇  
 著者が約二十年間英米人と往復したる書翰を集めたるもの、書き方作例を附したり。

淺田先生遺稿英文日誌 片山 寛 編 小中の 一七一 文會堂 〇、五〇  
 故淺田榮次氏の日記の一節なり、磯矢剛氏の譯文及註釋あり。

面白き英語の手紙 桑田 正 編 小中の 四六一 富山房 一、〇〇  
 英米人の書きたる面白き手紙を集め西洋郵便切手の話を附す。

自修英文作文 石原 益治 小中の 四八四 研究社 一、〇〇  
 英文に最も大切なる基礎的構造を充分會得せしめんと云ふ。

自問自答英文通解 正則英語研究会編 小中の 九四九 日進堂 一、五〇  
 主として中等程度の英文教科書にある問題を輯め之を解釋したるもの。

時事英文講義 森 正 俊 小中の 二四六 ジャパンタイムス學生會出版所 〇、五〇  
 最近の時事問題を材として英文を講述す。

新日英手紙の書方 前田 定之介 小中の 三〇六 盛花堂 〇、四五  
 英語手紙の書き方を獨習者にも了解するやう平易に述ぶ。

太郎の英文作文(太郎の英語研究叢書 卷四) 今井 信之 小中の 一七九 英語研究社 〇、三五  
 日田太郎なる少年が先生の批判を仰ぐに仕組みて英文の方法を平易に述べたり。

### 五 會話書取

英語會話 口と 口岩 堂 保 小中の 二一〇 英語五千字會 〇、五五  
 著者の實踐せる對話を採録したりと云ふ。



英語會話作文講義	山口 健太	一中	九八五	日進堂	三、〇〇
會話作文共に實用を主として講述したるもの。					
英語會話の會話	高田 千壽	小中	三六七	松南會	一、二五
會話の熟達法、活用法を説く、附録に爲替相場換算表あり。					
英語時事會話(合本)	頭木 元貞	一小	二七二	ジャパ ン タイムス社	〇、五〇
時事問題を探りて會話の材料としたるもの。					
英和社交用會話續編	富田 源太郎	一小	二〇六	善	〇、八五
イデオム俗語等は詳細に註解す。					
近世會話	米、バックスバーム	一小	一二六	善	〇、四〇
十五種の場合に於ける會話を載す、演劇對話二編を附す。					
大正日英會話	英、サマーズ	一小	六〇二	博文館	〇、八五
著者の日本の學生に教へたる會話を集む。					

### 六 讀本

受驗 英語書取の新研究	中學英語研究会	小中	一五一	光世館	〇、三〇
英語書取の諸注意と入學試験問題とを收む、附録として正誤文例一百題あり。					
自修リーダー研究 一卷	正則英語研究会編	小中	六二三	日進堂	一、〇〇
現今我國中學程度の學校にて最も弘く採用せらるゝ十數種の英語讀本を、課を逐ひて解釋したるもの。本巻には先づ第一讀本のみを收む。					
自修リーダー研究 二卷	正則英語研究会編	小中	七三四	日進堂	一、〇〇
中等程度の學校に採用せらるゝ十數種のリーダー第二卷を解釋せり。					

自修リーダー研究 三卷Aノ部	正則英語研究会編	小中	四二〇	日進堂	
自修リーダー研究 三卷Bノ部	正則英語研究会編	小中	四二〇	日進堂	〇、七〇
自修リーダー研究 外二三種の中教教科書の解釋。					
自修リーダー研究 四卷Aノ部	正則英語研究会編	小中	六七四	日進堂	一、六〇
十數種の中程度英語讀本を解釋す。					
自修リーダー研究 五卷	正則英語研究会編	小中	四六七	日進堂	〇、九
神田、井上、中西、岡倉の各リーダーを解釋す。					
新スタンダードチヨイス	大正英語學會編	一小	一三二	三光堂	〇、三〇
訂 第一讀本研究會 (ABC研究) 叢書第九卷	英語研究社編	小中	二一〇	英語研究社	〇、七〇
各種第一讀本の主なる課を研究す。					
讀本ごつこ (ABC研究叢書第五、六卷)	英語研究社編	小中	二三三	英語研究社	〇、七〇
二十餘種の第一讀本の比較研究。					
ナショナル 第二自修詳解	元木 貞雄	小中	四七八	文盛堂	〇、九五
原文對照。					
ナショナル 第四讀本研究	熊本謙太郎編	小中	四八三	長風社	一、二〇
二十名の英學家が嘗て英語青年に連載せるもの。					

### 七 英文和譯



アチーヴメント	米、マリーデン	中	三五二	光世館	〇、五〇
マリーデン博士の「成功」を英和對譯せるもの。					
アルフレッド大王上編(マイ、ライプ)	長谷川康	小	一七〇	健文館	〇、二〇
中學三四年程度の學生に課外讀物として英語實力を養ふに適當ならん、					
和英いくさの花	大橋榮三編	小	一九八	四方堂	〇、五〇
英文藻鹽草	南日恒太郎	小	二八三	北星堂	〇、九〇
スマイルス、スチール、アチソン、マクス・オレル等の文を抄出し譯文を附す。					
英語小泉八雲文抄	英、ハ、達	小	二六二	中興館	〇、六〇
對譯					
英和練習シエイクスピア物語	勝田孝典	小	二四三	健文館	〇、七五
發音解説					
青年英文學叢書	三省堂編	小	三九〇	三省堂	〇、四五
第廿七編天才の内幕、廿八編イノック・アーデン、廿九編世界一周三十編理想の紳士、三十一編クオレ。					
バイオグラフィカル	ストウリズ詳解	上	二〇二	集文館	〇、四五
原文を多く挿み、單語、熟語等には一々譯語を附す。					
パレロの部(第二編)	紀太藤一譯	小	一六〇	集文館	〇、二〇
歐羅巴の部(第九編)	紀太藤一譯註	小	一〇四	光堂	〇、二五
英語修學の目的を以て原文と其詳解とを掲ぐ。					
ハムレット(物語第一編)	英、シエイクスピア	小	一〇四	光堂	〇、二五
後藤二郎譯					
英和對照として且難解の語句には一々詳しく註解を施したり。					

品性論講義	英、スマイルス	高井貞吉譯	小	四〇三	光世館	〇、六〇
原文を掲げ一節毎に譯註を附せり。						
フエイマス・ストウリズ講義	米、ボールドウキン	本多孝一譯	小	二四六	日進堂	〇、四〇
全體を意譯し難句には譯註を施せるもの。						
英みだれ草片山寛			小	二九八	富山房	一、〇〇
雜誌學生に連載せる英和對譯の短文を集む。						
ユーズ・オヴ・ライフ講義	英、ラボツク	清水起正譯	小	三三七	北星堂	〇、七〇
譯註詳密。						
ライジングイン	詳解講義上	間崎勝義	小	四九一	敬文館	一、一〇
ザウアールド						
原文と對譯し、類例を多く挿めり。						

〇

英語公式の研究	吉岡源一	吉岡源一	小	二二七	明誠館	〇、五〇
英語公式を骨子としたる英文を註解し、以て公式中の公式を充分復習せしめんとするもの。						
英語模範範答案	吉村友喜	吉村友喜	小	四一三	明治出版社	〇、八〇
各官立校入學試験練習用書。						
準備英文解釋活法	村井知至	村井知至	小	四四六	明誠館	〇、七五
高等專門學校入學志望者の爲に編纂せるもの。						
受驗英文解釋法	佐久間信恭	佐久間信恭	小	二二七	甲寅出版社	〇、四八
本位						
各高等專門學校の入學受驗準備書。						



受驗英文解釋法	篠田眞道	小中	三七六	東條書店	〇、五五
準備英文解釋法	山田宇三郎	小中	二四三	ジャムスン社	〇、五〇
必讀英文解釋法	山田宇三郎	小中	二四三	ジャムスン社	〇、五〇
難句を集めて適宜の方法に分類し譯註を施せり。					
分類英文義釋	横地良吉	小中	五八二	芳流堂	〇、六五
難語難句難文其他日本語と慣用を異にする諸種の形式を蒐集し之を分類して解釋す。					
英文は斯の如く和譯せよ	間崎勝義	小中	四七八	敬文館	〇、六〇
最近三十ヶ年間の官公立諸學校入學試験問題を骨子とす。					
受驗英文和譯	上田明甫	小中	四三三	健文館	〇、九〇
高等專門諸學校受驗生及中學上級生等の參考自修書にして、卷末に難語を詳解せる字引を添ふ。					
英文和譯軌範	山口健太	小中	三七七	文陽堂	〇、八〇
中學四五年及入學試験に應ずる者の參考用。					
英文和譯研究	佐川春水	小中	二〇四	日進堂	〇、六一
中等教科書、高等試験問題集等より難解の文を集め、必要なる單語熟語を解釋す。					
英文和譯の基礎	井上彰	小中	二八七	有精堂	〇、六五
高等諸學校受驗生の參考用。					
英文和譯秘訣	間崎勝義	小中	二四五	敬文館	〇、八五
各種の構文を比較分類し簡明なる様式の下に一括して類例の和譯法を説く。					

は 和文 英譯

英文和譯法	南日恒太郎	小中	四九四	有朋堂	〇、七〇
中學上級生及專門學校受驗者の自修用。					
公式英文解釋	語學研究會編	小	二五〇	四方堂	〇、五〇
英文を組織する諸語の措置と關係とを公式的に括約し之を解釋す。					
應用英文解釋研究	山崎貞	小	一八四	英語研究社	〇、七〇
前者英文解釋研究に新試験問題を加ふ。					
滑稽誤譯集	佐川春水	小	一一〇	建文館	〇、二五
噴飯に價する誤譯例百五十句を集む。					
最新英文和譯問題集	元木貞雄編	小中	一五四	文盛堂	〇、二五
明治四十四年より大正四年までの官立學校入學試験問題集。					
新著英文解釋模範	傳法久太郎	小中	五六二	典文社	〇、八〇
多様な英文の中に潜める一般形式を剔出して詳密なる解説を施せり。					
翻譯の仕方と名家翻譯ふり	東俊造	小中	三五五	實業之日本社	〇、八五
翻譯の仕方を説き誤譯を示し終に名家翻譯文の例を挙げたり。					
受驗模範英文解釋法	佐川春水	小中	二九二	隆文館	〇、六〇
明治大學高等豫備校の學生への講義筆記。					



英文法誤譯三百題正譯詳解 横山 有策 小中の 三二〇 寶永館 〇、五五  
 誤譯三百題を掲げて一々之を訂正詳解す。  
 此の如き邦文は如何に英譯する？ 山川 作治郎 小 二六六 二松堂 〇、六五  
 和文英譯は言葉を譯さず其意味を譯すべきことを教ふ。  
 教師の 和文英譯實例 神原 彌 小中の 二三五 健文館 〇、七〇  
 添削せる 和文英譯實例 神原 彌 小中の 二三五 健文館 〇、七〇  
 和臭なき英文らしき英文の構成法を會得せしめんとす。  
 最新和文英譯問題集 元木 貞雄編 小中の 一二七 文盛堂 〇、二五  
 諸官立學校の入學試験問題を集めたるもの。  
 尋常小學讀本卷一英譯 岩部 省保編 一中 六三 英語五千字會 〇、二五  
 小學讀本卷一の各課を英譯し一々活用範例を示したるもの。  
 尋常小學讀本卷二英譯 岩部 省保編 一中 五七 英語五千字會 〇、三〇  
 譯文の外、用語と譯法の研究を掲ぐ。  
 和文英譯研究 佐川 春水 小中の 一三八 日進堂 〇、四五  
 單語熟語又は全文を譯すに就ての順序等を説明し解答は別冊附録とす。  
 和文英譯講義 習慣の差より 佐川 春水 小中の 二三〇 建文館 〇、七〇  
 見ての部 石原 益次 小中の 二三〇 建文館 〇、七〇  
 彼我の言葉の習慣の差を説く。  
 和文英譯十講 佐久間 信恭 小中の 二六八 郁文堂 〇、四五  
 英文の構成並に英語の辭句の活用法等を説明す。  
 和文英譯受驗準備 篠原 増之助 小中の 二七〇 勉強堂 〇、六〇  
 受驗者及中學上級生の參考用。

受驗 和文英譯新法 清水 起正 小中の 一八四 門部書店 〇、五〇  
 參考 和文英譯新法 清水 起正 小中の 一八四 門部書店 〇、五〇  
 材料は入學試験問題のみにて成り立つ。  
 入學試験 和文英譯之研究 長澤 英一郎編 小中の 一二九 盛林堂 〇、二五  
 最近十ヶ年間の試験問題を解答す。  
 對和文英譯之公式 齋藤 平治 小 四七三 有明堂 〇、六〇  
 敘事文以下公式を示し複雑なる和文を平易に英譯する方法を説く。  
 和文は斯の如く英譯せよ 間崎 勝義 小中の 一七一 敬文館 〇、六五  
 中學上級生以上の程度、前著英文は斯の如く和譯せよの姉妹篇なり。

に佛語

佛語 初步獨習 前田 雪子 小中の 一四九 尙文堂 〇、五〇  
 佛語の入門書。  
 佛蘭西語 研究 前田 長太 小 三三九 日進堂 〇、五〇  
 發音法より單語、會話、書簡、公文等の獨修法を説く。  
 佛蘭西語 自修書 杉本 伊作 小中の 二九四 警醒社 〇、八〇  
 簡易通俗に發音、譯讀、文法、作文、會話を講述す。  
 初學佛蘭西語 詳解 前田 雪子 小中の 三〇四 博文館 〇、七〇  
 著者の實験とアウエ氏の教へ方を應用したりと云ふ。  
 最新式 佛蘭西語 獨修 賀川 哲夫 小中の 一五七 寶文館 一、五〇  
 實際的佛蘭西語 獨修 賀川 哲夫 小中の 一五七 寶文館 一、五〇  
 再版に於ては發音編の講述順序等を新にしたり。



新佛和辭典 野村泰亨 小 一三〇七 大倉書店 二、二〇

佛時の用法 佛、ブスケ 小 一九二五 大倉書店 〇、六〇

詳解佛蘭西文典 折竹錫 小 三七三五 博育堂 一、五七

佛蘭西文法自修書 杉木伊作 小 三〇四四 警醒社 〇、八〇

實用日佛會話 佛、ブスケ 小 五三九四 芳流堂 一、〇〇

佛語會話入門 佛、ブスケ 小 二八二四 芳流堂 〇、七五

ほ獨語

獨逸語研修上卷 橋本忠夫 中 一七八五 南江堂 〇、八五

番號

番號

獨逸語自由自在 秋元喜久雄 小 二七五三 東亞堂 〇、八五

獨逸語精講 坂本忠恕 小 三八七三 實業之日本社 一、〇〇

獨逸語を研究する人に 鍋島安美 小 二三七二 東海堂 〇、八〇

和獨逸語學雜誌編 小 二四六四 精華書院 〇、六〇

新獨和辭典 登張信一郎 小 一四二四 大倉書店 一、六〇

獨逸會話文典 獨、オット 小 三七八三 光玉館 一、二〇

獨逸文法辭典 附詳解獨逸文典 片山正雄 小 八八八五 博育堂 二、八〇

對照獨逸文法書 榎田保之助 小 三四四五 有明助堂 一、〇〇

英法對照獨逸文法書 榎田保之助 小 三四四五 有明助堂 一、〇〇

獨逸語の文法及慣用法と單語に就きて説明し、系統的文典を附す、數ヶ年間苦心の良著なり。



番號

實用日獨會話 獨、ハリール 小 五四〇 芳流堂 一、〇〇

實用逸語自修會話 柏谷 眞洋 小の 二〇六 精華書院 〇、五〇  
題材を日本に取らず獨逸人が獨逸の頭を以て書きたる實用的作品のみを集め和譯を註解とを附す。

龜井 獨文解釋法 龜井 藤太郎 小の 二八四 芳流堂 〇、九五  
語句文章の相互關係を詳細に解説す。

グリム お伽噺講義 上卷 小笠原 昌齋編 小の 二九一 精華書院 〇、五〇  
獨和對譯。

新式獨文解釋法 秋元 喜久雄 小の 三五〇 弘學館 一、〇〇  
獨逸文章の主要なる單文形式と其解釋法を述ぶ。

ハウフの童話(獨和對譯獨逸國) 獨、ハ 田中 棗 吉 譯 小の 一七五 南山堂 〇、五〇  
ハウフ童話の主なるものを一々獨和對譯し註釋を附したり。

複式和文獨譯 大津 康 小の 三四九 獨逸語發行所 一、五〇  
初學者の獨譯指針。

應用和文獨譯法 西岡 俊雄 小の 四三七 日進堂 〇、七五  
和文獨譯の形式と方法を教ゆ。

露語 羅語其他

露西亞語學階梯 八杉 貞利 小の 二八八 大倉書店 一、二〇  
露語の文法會話の初歩教授用、又は獨習用。

獨露西亞語研究 清水 安次郎 小の 四二五 日進堂 〇、七〇  
文法に最も力を注ぎ、實際の會話文例にて之が摘要を示したり。

獨佛、英ラテン語獨習書 竹内 楠三 一 一五二 福岡書店 〇、九〇  
對照 初歩よりラテン文を読み得るまでの學力を獨修にて得しめんとす。

羅甸文法 田中 秀央 小の 四二〇 丸善 二、〇〇  
我國に行はれつゝある羅甸語の發音の統一も試みたりと云ふ。

△實習梵語學 萩原 雲來 一 中 二五六 丙午出版社 一、七〇  
文法、悉曇字書法等を説明し字書を附す。

四國南洋語速成 小崎 都也野編 小の 三八五 萬卷堂 一、〇〇  
對話 四國語とは馬來語、和蘭語、英語、日本語なり。

馬來語獨修 瀨川 龜 一 小 一五四 大倉書店 〇、四〇  
著者は現に新嘉坡にある人。

番號